

河合塾グループ 医系専門予備校

メディカル ラボ[®]

私立医学部31大学 入試分析会 (一般選抜)

医系専門予備校
合格者数

2025年度入試

合格実績

医学部
・
歯学部

1,368名

うち
医学部
医学科

1,234名

※1
No.1

※1.「株式会社東京商工リサーチ」調べ ※2. 最終合格者数(2025年4月18日現在) イベント参加者や模試のみの受験者は含まれません



2025年度 医学部医学科 合格実績（2025年4月18日時点判明分）

●国立大学 174

旭川医科5／北海道6／弘前2／東北3／秋田0／山形7／筑波5／群馬6／千葉7／東京0／東京科学5／新潟6／富山4／金沢2／福井5／山梨4／信州4／岐阜5／浜松医科13／名古屋3／三重2／滋賀医科3／京都1／大阪4／神戸4／鳥取5／島根3／岡山3／広島5／山口5／徳島7／香川3／愛媛5／高知5／九州1／佐賀2／長崎2／熊本6／大分4／宮崎4／鹿児島2／琉球6

●公立大学 34

札幌医科2／福島県立医科3／横浜市立6／名古屋市立11／京都府立医科5／大阪公立1／奈良県立医科3／和歌山県立医科3

●省庁大学 8

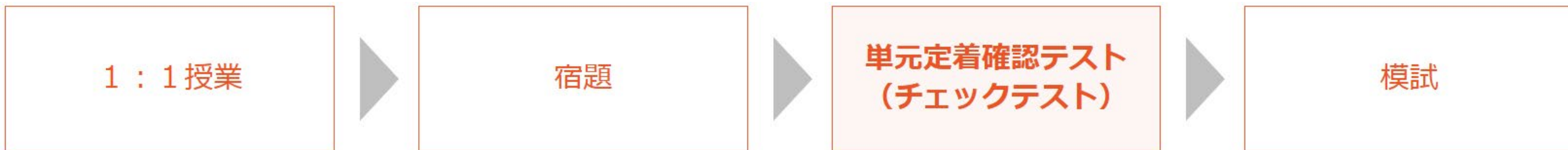
防衛医科8

●私立大学 1018

岩手医科29／東北医科薬科12／自治医科5／獨協医科34／埼玉医科29／国際医療福祉43／杏林44／慶應義塾6／順天堂29／昭和医科26／帝京39／東京医科36／東京慈恵会医科16／東京女子医科34／東邦39／日本20／日本医科33／北里50／聖マリアンナ医科35／東海45／金沢医科56／愛知医科55／藤田医科52／大阪医科薬科31／関西医科36／近畿45／兵庫医科43／川崎医科28／久留米22／産業医科10／福岡36



医系専門予備校メディカルラボの授業は
全てプロ講師による1対1指導



講義だけで終わらない
定着させ、解けるようになるまで



年間を通じて担任が学習面・生活面をフォロー
寄り添いながら医学部合格までサポート

1. 2025年度入試結果
2. 私立医学部入試の現状
3. 私立医学部入試分析と対策

1. 2025年度入試結果

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	岩手医科		東北医科薬科				自治医科		獨協医科		埼玉医科	
募集区分	医一般		医一般枠		医 A 方式東北		医 B 方式東北		医		医	
定員	73		40		15		20		123		67	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～	1		1									
75.0～									2			
72.5～		1		1					1	3		2
70.0～		3		2	3	1			5	7	2	2
67.5～	6	8	16	6	5	8	5	4	23	26	3	3
65.0～	18	10	19	12	4	22	8	11	26	55	9	6
62.5～	23	21	19	35	4	23	8	16	35	77	14	23
60.0～	22	64	15	51	4	28	5	12	12	84	16	47
57.5～	11	78	6	37	3	18	1	14	12	94	13	73
55.0～	8	90	1	41		19		10	4	96	4	96
52.5～	2	79		40		22		17		70		105
50.0～		70		35		10		11	2	50	1	62
50.0未満		175	1	49		29		23		114	1	150
平均偏差値	62.6	53.6	64.5	56.3	65.2	57.9	64.7	56.4	64.3	57.3	61.9	53.7

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	国際医療福祉				杏林		慶應義塾		順天堂					
募集区分	医－テ		医		医		医		医－テ併用		医A方式		医B方式	
定員	15		105		87		66		12		64		5	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～	1	4			1		4	4	1	1	1			
75.0～	6	4	2	1			12	1	1	1	1			
72.5～	8	7	17	4		3	25	30	2	2	10	7		
70.0～	8	20	39	6	10	3	7	69	4	14	25	28		2
67.5～	3	22	66	54	11	9	2	51		17	37	68	2	6
65.0～	3	36	42	125	20	24		49	1	11	11	112		9
62.5～	1	28	22	158	29	44		30		12		97		9
60.0～	1	10	12	174	19	71		20		15	3	94		8
57.5～		19	1	105	10	91		12		5		82		13
55.0～		8	1	105	6	95		6		4		54		3
52.5～		8		71	1	77		6		4		41		7
50.0～		1		48		69		2		1	1	19		4
50.0未満		10	2	102	1	112		14		1	1	42		2
平均偏差値	71.8	64.2	67.9	59.3	64.0	55.5	74.1	66.3	72.8	64.8	69.1	61.3	69.1	60.8

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	昭和医科				帝京				東京医科		東京慈恵会医科		東京女子医科	
募集区分	医Ⅰ期		医Ⅱ期		医－テ		医		医		医		医	
定員	83		18		8		76		70		105		67	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～	1				1	1	1				2	1		
75.0～						4	2				4			
72.5～	2	4		2		7		2	2	4	13	12		
70.0～	16	11		2	1	8	6	5	8	13	21	30		
67.5～	24	38	1	7		10	8	19	18	28	19	55		
65.0～	30	90	1	26	1	23	19	52	25	55	10	71	2	3
62.5～	16	105	3	27		19	21	75	14	79	2	60	4	4
60.0～	7	139	1	52	1	22	21	116	5	143	2	60	10	21
57.5～	3	111	1	42		20	4	146	2	89		39	7	19
55.0～	4	115		25		16	5	153	2	74	1	19	10	28
52.5～	1	87		29		17		116		66		24	4	31
50.0～		69		14		14		107		53		13	1	36
50.0未満	2	88		12		33	1	245	1	78		24		83
平均偏差値	65.9	58.4	63.3	59.3	69.2	58.9	64.2	55.1	65.9	58.3	70.3	62.4	59.0	52.2

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	東邦		日本				日本医科						北里	
募集区分	医		医N 1 期		医N 2 期		医－テ併前グロ		医前期		医後期		医	
定員	67		80		15		10		62		27		73	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～						1			1	1				
75.0～							1		2	1				
72.5～	1	2	1	3			1	1	7	4	1	4	1	
70.0～	16	5	2	5		1		1	26	14	2	3	4	2
67.5～	28	30	10	9		3	1	5	28	52	3	16	7	5
65.0～	36	55	39	28	5	6		6	17	81	7	29	30	15
62.5～	17	80	20	51	1	21		4	7	93	3	43	17	22
60.0～	12	119	17	98		41		4	3	69	1	37	23	46
57.5～	5	96	7	85	1	37		3		40		25	12	66
55.0～	2	89		86		34		2		41		21	5	77
52.5～	2	74	1	82		29		1		32		21		56
50.0～		50	1	61		25				14		7		53
50.0未満		73	1	123		24		1		23		8	1	101
平均偏差値	65.9	58.1	64.2	55.7	64.8	56.9	72.4	63.5	69.1	61.6	67.0	61.0	63.5	54.5

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	聖マリアンナ医科		東海		金沢医科				愛知医科		藤田医科		大阪医科薬科	
募集区分	医		医一般		医前期		医後期		医		医		医	
定員	85		60		72		10		70		87		81	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～														
75.0～				1				1	1			1	2	
72.5～		3	1	3		4			2	3	1	5	5	7
70.0～		4	1	3		2			6	4	11	2	14	6
67.5～	7	11	7	8	5	3		1	12	11	32	12	26	30
65.0～	18	25	29	23	8	7		3	35	28	49	39	32	64
62.5～	13	64	20	49	22	31		1	36	68	35	68	16	83
60.0～	13	118	19	84	23	55		14	25	94	16	94	6	118
57.5～	4	151	4	95	11	75		26	10	111	10	101	1	92
55.0～	2	151	3	113	8	89		46	2	107		79		64
52.5～	1	133		89	1	93		39		86	1	65		59
50.0～		131		77	1	89		34	1	68		42		46
50.0未満		184		165	3	233		54	1	157	1	84		76
平均偏差値	63.8	55.2	64.2	54.8	61.3	52.6	-	52.9	64.2	55.7	65.4	57.4	67.3	58.5

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	関西医科				近畿				兵庫医科				川崎医科	
募集区分	医－テ併		医		医前 A		医後期		医 A		医 B		医	
定員	13		63		55		5		68		10		45	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～			1											
75.0～	1													
72.5～	9	2	25	2	1	2			1	1			1	1
70.0～	15	5	26	16	6	3			1	3				1
67.5～	8	16	34	54	15	14	1	3	14	7	1	1	1	1
65.0～	6	17	30	89	19	24		3	29	20	1	10	1	5
62.5～	3	19	11	87	16	60		10	33	60	4	8	1	10
60.0～		15	1	115	9	79	1	15	20	99	3	10	8	23
57.5～	1	16		82	2	74		23	6	97		21	12	30
55.0～		16		54		47		12	3	91	1	16	10	46
52.5～		6		47		69		21	1	71		14	9	45
50.0～		8		30		41		10	2	63		11		46
50.0未満		6		65		113		14		136		13	2	138
平均偏差値	69.9	60.9	69.2	59.8	65.7	56.0	64.1	56.8	63.9	55.5	63.1	56.8	58.0	51.8

河合塾全統記述模試偏差値による合否度数分布

大学名	久留米				産業医科				福岡	
募集区分	医前期		医後期		医－テA		医B		医系統別	
定員	75		5		60		5		60	
合否	合	否	合	否	合	否	合	否	合	否
77.5～										
75.0～	1									
72.5～		2				1			1	2
70.0～	4	1			3	4		1	2	1
67.5～	3	11		2	6	12	1	2	4	6
65.0～	17	8		2	11	25	2	20	13	11
62.5～	33	25	1	3	12	41	3	24	20	40
60.0～	18	38		8	5	49	2	43	9	58
57.5～	6	60		22		41		25	11	72
55.0～	4	63		15		34	1	22	1	92
52.5～	1	65		16		24		16	1	72
50.0～		65		15		21		17	1	84
50.0未満	2	150		28		37		18		199
平均偏差値	63.0	53.1	63.8	53.7	65.4	58.2	63.1	58.2	63.2	53.3

合格最低点（2025年度入試）

※黄色セルは小論文等を一次試験日程で実施 ※備考に記載のない場合は、繰上合格者も含む総合格者の合格最低点

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	小論文	面接	その他	合計	合格最低点	得点率	備考
岩手医科	一般枠	100	100	75	75	なし	50	-	400	279	70%	
東北医科薬科	一般枠	100	100	100	100	段階評価	段階評価	-	400	非公表	非公表	
自治医科	一般	25	25	25	25	なし	○	25	125	非公表	非公表	2次試験英・数各12.5点
獨協医科	一般前期	100	100	100	100	段階評価	○	-	400	非公表	非公表	
埼玉医科	一般前期	100	100	100	100	段階評価	○	-	400	280	70%	1次合格最低点
国際医療福祉	一般	200	200	100	100	段階評価	段階評価	-	600	非公表	非公表	
杏林	一般	100	100	75	75	○	○	-	350	非公表	非公表	
慶應義塾	一般	150	150	100	100	○	○	-	500	280	56%	1次合格最低点
順天堂	一般A方式	200	100	100	100	○	○	-	500	351	70%	1次合格最低点
昭和医科	一般I期	100	100	100	100	20	100	-	520	232	58%	1次合格最低点（400点中）
帝京	一般	100	100	100	-	○	○	-	300	245	82%	英語＋数・理・国から2科目の300点
東京医科	一般	100	100	100	100	60	40	-	500	326	65%	
東京慈恵会医科	一般	100	100	100	100	25	30	25	480	-	47%	正規合格最低点
東京女子医科	一般	100	100	100	100	○	○	○	400	203	51%	適性試験／入学者最低点
東邦	一般枠	150	100	75	75	なし	50	50	500	375.5	75%	基礎学力試験／正規合格最低点
日本	N方式第1期	100	100	100	100	なし	30	120	550	346.09	63%	2次試験英・数各60点
日本医科	一般前期	300	300	200	200	○	○	-	1000	非公表	非公表	
北里	一般	150	150	100	100	○	○	-	500	270	54%	正規合格最低点
聖マリアンナ医科	一般前期	100	100	100	100	50	50	○	500	非公表	非公表	適性検査
東海	一般	100	100	100	-	○	○	-	300	非公表	非公表	理科1科目
金沢医科	一般前期	100	100	75	75	60	110	-	520	218	62%	面接110点には調査書等の評価を含む 1次合格最低点（350点中）

合格最低点（2025年度入試）

※黄色セルは小論文等を一次試験日程で実施 ※備考に記載のない場合は、繰上合格者も含む総合格者の合格最低点

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	小論文	面接	その他	合計	合格最低点	得点率	備考
愛知医科	一般	150	150	100	100	段階評価	段階評価	-	500	261	52%	
藤田医科	一般前期	200	200	100	100	なし	40	-	640	339	57%	1次合格最低点（600点中）
大阪医科薬科	一般前期	100	100	100	100	段階評価	段階評価	-	400	267	67%	正規合格最低点
関西医科	一般前期	150	150	100	100	なし	段階評価	-	500	305	61%	正規合格最低点
近畿	一般前期	100	100	100	100	段階評価	段階評価	-	400	251	63%	
兵庫医科	一般A	150	150	100	100	50	80	-	630	384	61%	正規合格最低点
川崎医科	一般	100	100	75	75	段階評価	100	-	450	258.5	74%	1次合格最低点（350点中）
久留米	一般前期	100	100	100	100	50	50	-	500	非公表	非公表	正規合格最低点
産業医科	一般A	200	200	100	100	50	○	300	950	636	67%	共通テスト300点
福岡	一般	100	100	100	100	○	50	-	450	281	70%	1次合格最低点（400点中）

2. 私立医学部入試の現状

2026年度 私立大学医学部 一般選抜入試スケジュール

2月入試に移行した大学

月	火	水	木	金	土	日
1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18
					共通テスト①	共通テスト②
1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25
共通テスト 自己採点	愛知医科	岩手医科 国際医療福祉	帝京①	帝京②	東北医科薬科 帝京③	近畿（前）
1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1
自治医科（学）	自治医科（面）	兵庫医科			関西医科（前）	東京女子医科 日本（N1） 川崎医科 久留米（前）
2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8
杏林 日本医科（前） 東海① 福岡	順天堂 北里 東海② 金沢医科（前）①	東京医科 金沢医科（前）② 藤田医科	聖マリアンナ医科（前）	昭和医科（I）	東邦	埼玉医科（前） 産業医科（B）
2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15
慶應義塾	大阪医科薬科（前）	獨協医科（前）① 東京慈恵会医科	獨協医科（前）②			

2026年度 私立大学医学部 一般選抜入試スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22
					東邦（統一）	
2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1
		国公立前期	国公立前期		埼玉医科（後） 日本医科（後）	近畿（後）
3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8
	聖マリアンナ医科（後） 金沢医科（後）	日本（N2）			昭和医科（Ⅱ） 関西医科（後）	久留米（後）
3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15
獨協医科（後）	大阪医科薬科（後）		国公立後期	国公立後期		

2025年度 私立大学医学部 一般選抜入試スケジュール

2月入試に移行した大学

月	火	水	木	金	土	日
1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19
					共通テスト①	共通テスト②
1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26
共通テスト 自己採点	愛知医科	岩手医科 国際医療福祉	杏林 帝京①	帝京②	東北医科薬科 帝京③ 関西医科（前）	近畿（前） 川崎医科
1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2
自治医科（学） 獨協医科（前①）	自治医科（面） 獨協医科（前②）	兵庫医科	金沢医科（前①）	北里 金沢医科（前②）	東京女子医科 日本（N1） 日本医科（前） 久留米	東海① 福岡
2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9
順天堂 東海②	埼玉医科（前） 東邦 藤田医科（前）	東京医科	聖マリアンナ医科（前）	昭和（I）		慶應義塾 産業医科（B）
2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16
大阪医科薬科（前）	東京慈恵会医科					

2025年度 私立大学医学部 一般選抜入試スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23
					近畿（後）	東邦（統一）
2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2
	国公立前期	国公立前期	獨協医科（後）	日本医科（後）	埼玉医科（後） 昭和（Ⅱ） 関西医科（後）	
3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9
藤田医科（後）	日本（N2） 金沢医科（後）		聖マリアンナ医科（後）		久留米（後）	
3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16
大阪医科薬科（後）		国公立後期	国公立後期			
3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23

2026年度入試 私立大学医学部 難易度予想（一般前期）

偏差値	河合塾ボーダーライン（合格可能性50%）
72.5	慶應義塾
70.0	順天堂（A・B・地域）／東京慈恵会医科／日本医科（前期・地域）／関西医科（一般・地域）
67.5	東北医科薬科（地域A・B）／国際医療福祉／自治医科／昭和医科（I期・地域） 東京医科／東邦（一般）／藤田医科（一般・地域）／大阪医科薬科（一般・地域）／産業医科（B）
65.0	東北医科薬科（一般）／杏林（一般・地域）／帝京（一般・地域） 東海／日本（N1・地域）／愛知医科／近畿（一般・地域）
62.5	岩手医科（一般）／獨協医科（一般・地域）／埼玉医科／北里（一般・地域） 聖マリアンナ医科／金沢医科（前期）／兵庫医科（A・B）／久留米（前期）／福岡
60.0	岩手医科（地域）／東京女子医科／川崎医科（一般・地域）

※河合塾HPより（2025年10月現在）
※地域枠等のボーダーライン設定がある場合には、（ ）内に区分を表記

（参考）慶應義塾大学理工学部65.0
早稲田大学先進理工学部67.5

2026年度入試 配点（一般前期1次試験）

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	配点パターン
岩手医科	一般枠	100	100	75	75	英数重視
東北医科薬科	一般枠	100	100	100	100	均等
自治医科	一般	25	25	25	25	均等
獨協医科	一般枠	100	100	100	100	均等
埼玉医科	一般前期	100	100	100	100	均等
国際医療福祉	一般	200	200	100	100	英数重視
杏林	一般	100	100	75	75	英数重視
慶應義塾	一般	150	150	100	100	英数重視
順天堂	一般A方式	200	100	100	100	英語重視
昭和医科	一般I期	100	100	100	100	均等
帝京	一般	100	100	100	-	均等・3科目
東京医科	一般	100	100	100	100	均等
東京慈恵会医科	一般	100	100	100	100	均等
東京女子医科	一般	100	100	100	100	均等
東邦	一般枠	150	100	100	100	英語重視
日本	N方式第1期	100	100	100	100	均等

2026年度入試 配点（一般前期1次試験）

大学名	区分	英語	数学	理科①	理科②	配点パターン
日本医科	一般前期	300	300	200	200	英数重視
北里	一般	150	150	100	100	英数重視
聖マリアンナ医科	一般前期	100	100	100	100	均等
東海	一般	100	100	100	-	均等・3科目
金沢医科	一般前期	100	100	75	75	英数重視
愛知医科	一般	150	150	100	100	英数重視
藤田医科	一般前期	200	200	100	100	英数重視
大阪医科薬科	一般前期	100	100	100	100	均等
関西医科	一般前期	150	150	100	100	英数重視
近畿	一般前期	100	100	100	100	均等
兵庫医科	一般A	150	150	100	100	英数重視
川崎医科	一般	100	100	75	75	英数重視
久留米	一般前期	100	100	100	100	均等
産業医科	一般	200	200	100	100	英数重視
福岡	一般	100	100	100	100	均等

後期試験

大学名	出願期間	1次試験	2次試験	募集人員	2025年度 合格者数
獨協医科	2/4-3/2	3月9日	3月16日	15	20
埼玉医科	2/2-2/17	2月28日	3月8日	20	25
昭和医科	2/2-2/24	3月7日	3月14日	12	19
日本	1/5-2/25	3月4日	3月17日	15	20
日本医科	2/1-2/19	2月28日	3月9日	33	非公表
聖マリアンナ医科	2/16-2/20	3月3日	3月13日	約10	非公表
金沢医科	1/13-2/21	3月3日	3月11日	10	10
大阪医科薬科	12/15-2/27	3月10日	3月18日	15	17
関西医科	2/1-2/20	3月7日	3月17日	5	11
近畿	2/2-2/16	3月1日	3月12日	5	7
久留米	2/6-2/25	3月8日	3月16日	約5	7

共通テスト利用

小：小論文／面：面接／適：適性検査／書：提出書類／総：総合問題／口：口頭試問

大学名	区分	募集人員	共テ	2次
東北医科薬科	共テ利用	5	4-6	面
埼玉医科	共テ利用	10	4-6	小、面
国際医療福祉	共テ利用	15	5-7	英、小、面
杏林	共テ利用	25	3-5	小、面
順天堂	独自併用	12	5-7	英、理、理、小、面
	共テ利用前期	10		小、面
	共テ利用後期	5		英、小、面
帝京	共テ利用（3科目方式）	8	2/3-3	英、小、面
	共テ利用（5科目方式）		3/4-5	
東京医科	共テ利用	9以内	5-7	小、面
日本医科	グローバル特別選抜	10	1-1	英、数、理、理、小、面
聖マリアンナ医科	共テ利用	約5	4-6	適、小、面
東海	神奈川県・静岡県地域枠	8	3-5	小、面
	共テ利用	10		
愛知医科	共テ利用	約15	4-6	面
	愛知県地域特別枠	約5	4-6	

共通テスト利用

小：小論文／面：面接／適：適性検査／書：提出書類／総：総合問題／口：口頭試問

大学名	区分	募集人員	共テ	2次
藤田医科	共テ利用	10	5-7	書、面
大阪医科薬科	共テ利用	10	4-6	小、面
関西医科	共テ利用前期	12	5-7	面
	併用	13		英、数、理、理、面
	共テ利用後期	5	3-5	面
近畿	共テ利用前期	5	3-5	小、面
	共テ利用中期	3	3-4	小、面
	共テ利用後期	2	2/3-3	小、面
産業医科	A方式	約60	5-7	英、数、理、理、小、面
	C方式	5以内		小、面
福岡	共テ利用	10	4-6	書、面

2026年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分		項目	2026年度	2025年度	変更点
杏林	一般		募集人員	79名	89名	募集人員の変更
			1次会場	東京(五反田T0C)	横浜(パシフィコ横浜ノース)	1次試験会場の変更(横浜会場→東京会場に)
	共テ利用		募集人員	25名	15名	募集人員の変更
慶應義塾	一般		募集人員	一般枠65名, 栃木県地域枠1名	66名	募集人員の変更
	一般	栃木県地域枠	選抜方式	新規実施 ◆栃木県地域枠〔専願〕 【募集人員】1名 【現浪】制限なし 【居住条件】 栃木県内の高校卒業者・栃木県在住者等 【就業義務】あり(9年) *詳細は募集要項を参照。	—	栃木県地域枠の新規実施
昭和医科	一般	I 期	募集人員	76名	83名	募集人員の変更 ※学校推薦型選抜(10名)を新規実施
		II 期	募集人員	12名	18名	

※出願予定の大学については、必ず詳細を募集要項等で確認してください。

2026年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分	項目	2026年度	2025年度	変更点
東京医科	一般	選抜方法	1次：学力試験(英・数・理)，小論文 2次：面接 *小論文の評価は2次で行い，1次の合計点には含めない。	1次：学力試験(英・数・理) 2次：小論文，面接	小論文の実施日の変更 (2次試験で実施→1次試験で実施に)
		1次形式	英語：全問マーク式 数学：マーク式＋一部記述式	英語：マーク式＋一部記述式 数学：全問マーク式	出題形式の変更 (英語：記述式問題の廃止，数学：記述式問題の導入)
	共テ利用	選抜方法	1次：大学入学共通テスト 2/4：小論文 2次：面接 *小論文の評価は2次で行い，1次の合計点には含めない。	1次：学力試験(英・数・理) 2次：小論文，面接	小論文の実施日の変更 (2次試験で実施→一般選抜と同日実施に)
東京女子医科	一般	募集人員	約72名	約67名	募集人員の変更
東邦	一般	募集人員	約70名	約67名	募集人員の変更
		1次配点	450点 (英語150点，数学100点， <u>理科200点[各100点]</u>)	400点 (英語150点，数学100点， <u>理科150点[各75点]</u>)	1次配点の変更 (理科：150点[75点×2]→200点[100点×2]に)
		1次試験時間	数学：80分	数学：90分	数学の試験時間が90分→80分に

※出願予定の大学については、必ず詳細を募集要項等で確認してください。

2026年度入試変更点（一般選抜）

大学名	区分		項目	2026年度	2025年度	変更点
北里	一般	共テ利用（後期）	選抜方式	新規実施 ◆大学入学共通テスト利用選抜（後期） 【募集人員】5名 【選抜方法】 ・1次：大学入学共通テスト 【数学】『数学Ⅰ・数学A』，『数学Ⅱ・B・C』 【理科】『物理』，『化学』，『生物』から2科目選択 【外国語】『英語』（リスニング含む） ・2次（1次合格者のみ）：論文，面接	－	大学入学共通テスト利用選抜の新規実施
		前期	募集人員	65名	75名	募集人員の変更
藤田医科	一般	前期	選抜名称変更 募集人員	一般入試（一般枠90名，地域枠10名以内）	一般入試〔前期〕（一般枠82名，地域枠5名以内）	選抜名称の変更（後期の廃止に伴い名称を変更）および募集人員の変更
		後期	選抜方式	（廃止）	10名	後期日程の廃止
	－		学費	2,152万円（6年間総額）	2,980万円（6年間総額）	学費の値下げ（約30%，828万円値下げ）
大阪医科薬科	一般	前期	募集人員	64名	66名	募集人員の変更

※出願予定の大学については、必ず詳細を募集要項等で確認してください。

3. 私立医学部入試分析と対策

出題傾向分類【英語】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

杏林 帝京 日本 川崎医科 福岡

問題の難度：標準

岩手医科 東北医科薬科 東京医科 聖マリアンナ医科 東海

問題の難度：難

国際医療福祉 慶應義塾 東京慈恵会医科 日本医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

岩手医科 国際医療福祉 金沢医科 愛知医科 近畿

大学の偏差値に比して、問題が易しい

東北医科薬科 東京医科 日本 大阪医科薬科 関西医科

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

岩手医科 獨協医科 国際医療福祉 慶應義塾 順天堂 東邦 北里 金沢医科

解答時間に対して問題量が少ない

杏林 兵庫医科 川崎医科 福岡

記述量が多い

慶應義塾 日本医科 聖マリアンナ医科 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科 産業医科

文法語法の出題比率が高い

杏林 日本 愛知医科 川崎医科 福岡

文法語法の出題比率が低い

自治医科 順天堂 東京慈恵会医科 金沢医科 関西医科 産業医科

医療系長文の出題比率が高い

岩手医科 東北医科薬科 国際医療福祉 東京慈恵会医科 北里 兵庫医科

英作文が出題される

慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 東京女子医科 日本医科 東海 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科 久留米 産業医科

出題傾向分類【数学】

【1】問題の難度によるグループ分け ※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

自治医科 埼玉医科 帝京 東京医科 東邦 日本 金沢医科

問題の難度：難

慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 日本医科 関西医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

岩手医科 杏林 近畿 川崎医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

自治医科 東京医科 東邦

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

獨協医科 慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 日本医科

解答時間に対して問題量が少ない

福岡

「場合の数・確率」を出題する

全大学

「データの分析」を出題する

東邦 日本 聖マリアンナ医科 東海 藤田医科 関西医科 近畿 兵庫医科 福岡

『整数問題』を出題する

岩手医科 自治医科 国際医療福祉 昭和医科 帝京 東京医科 東京慈恵会医科
東京女子医科 東邦 日本 北里 聖マリアンナ医科 東海 愛知医科 藤田医科
関西医科 近畿 兵庫医科 久留米 産業医科 福岡

数学Ⅲ(新課程)が半分以上を占める

東北医科薬科 獨協医科 慶應義塾 順天堂 日本医科 藤田医科 大阪医科薬科
産業医科

証明問題を出題する

慶應義塾 順天堂 東京慈恵会医科 北里 聖マリアンナ医科 藤田医科 大阪医科
薬科 関西医科

出題傾向分類【化学】

【1】問題の難度によるグループ分け ※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

東北医科薬科 日本 聖マリアンナ医科 金沢医科 産業医科

問題の難度：標準

自治医科 獨協医科 国際医療福祉 杏林 昭和医科 東京医科 東邦 北里 東海
愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 近畿 兵庫医科 川崎医科 久留米
福岡

問題の難度：難

慶應義塾 順天堂 帝京 東京慈恵会医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

岩手医科 埼玉医科 東京女子医科 帝京 川崎医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

自治医科 東北医科薬科 日本 日本医科 大阪医科薬科 関西医科

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

記述形式で記述量が少ない

福岡

記述形式で記述量が標準的

昭和医科 聖マリアンナ医科 愛知医科 大阪医科薬科 久留米 産業医科

記述形式で記述量が多い

慶應義塾 東京慈恵会医科 日本医科 藤田医科 関西医科 近畿 兵庫医科

マークシート形式

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 順
天堂(一部記述) 帝京(一部記述) 東京医科 東京女子医科(一部記述) 東邦 日本
北里 東海(一部記述) 金沢医科 川崎医科

解答時間に対して問題量が多い

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 慶
應義塾 順天堂 帝京 東京医科 東京慈恵会医科 東京女子医科 日本医科 北里
東海 藤田医科 大阪医科薬科 近畿

解答時間に対して問題量が少ない

聖マリアンナ医科

出題傾向分類【物理】

【1】問題の難度によるグループ分け

※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

福岡

問題の難度：標準

岩手医科 東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 杏林 順天堂 昭和医科
帝京 東京医科 東京女子医科 東邦 日本 日本医科 北里 聖マリアンナ医科
東海 金沢医科 愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科 川崎医
科 久留米 産業医科

問題の難度：難

国際医療福祉 慶應義塾 東京慈恵会医科 関西医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

近畿

大学の偏差値に比して、問題が易しい

自治医科 順天堂 日本医科 久留米

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

東北医科薬科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 慶應義塾 順
天堂 東京医科 東京慈恵会医科 東邦 北里 東海 愛知医科 藤田医科 関西医
科 近畿 兵庫医科 産業医科

解答時間に対して問題量が少ない

日本医科 川崎医科 福岡

グラフの描画、描図、論述問題を出題する

慶應義塾（論述） 東京慈恵会医科（論述） 聖マリアンナ医科（グラフ・論述）
藤田医科（グラフ・論述） 関西医科（グラフ・論述） 兵庫医科（グラフ・論述）

数値計算が頻出

自治医科 埼玉医科 杏林 慶應義塾 東京医科 日本 聖マリアンナ医科 金沢医
科 関西医科 兵庫医科 久留米 産業医科

小問集合を出題する

自治医科 獨協医科 国際医療福祉 慶應義塾 順天堂 東京医科 北里 聖マリア
ンナ医科 大阪医科薬科

問題集ではあまり見かけない目新しい設定の問題が頻出

慶應義塾 東京慈恵会医科 関西医科 近畿

出題傾向分類【生物】

【1】問題の難度によるグループ分け ※一般選抜前期日程の出題傾向

問題の難度：易

金沢医科 川崎医科

問題の難度：標準

岩手医科 自治医科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 順天堂 昭和医科
帝京 東京女子医科 東邦 日本 北里 聖マリアンナ医科 東海 大阪医科薬科
関西医科 近畿 久留米 福岡

問題の難度：難

東北医科薬科 慶應義塾 東京医科 東京慈恵会医科 日本医科 愛知医科 藤田医
科 兵庫医科 産業医科

大学の偏差値に比して、問題が難しい

北里 東海 愛知医科 藤田医科 兵庫医科

大学の偏差値に比して、問題が易しい

杏林 順天堂 大阪医科薬科

【2】問題形式・出題分野によるグループ分け

解答時間に対して問題量が多い

東北医科薬科 自治医科 埼玉医科 慶應義塾 東京医科 東京慈恵会医科 東邦
北里 東海 愛知医科 藤田医科 兵庫医科

解答時間に対して問題量が少ない

杏林 金沢医科 川崎医科

論述問題が頻出

慶應義塾 順天堂 昭和医科 帝京 東京慈恵会医科 聖マリアンナ医科 愛知医科
藤田医科 大阪医科薬科 近畿 兵庫医科 久留米 産業医科

描図問題が頻出

昭和医科 東京慈恵会医科 聖マリアンナ医科 愛知医科 藤田医科 大阪医科薬科
近畿 産業医科

計算問題が頻出

東北医科薬科 獨協医科 埼玉医科 国際医療福祉 杏林 昭和医科 東京医科 東
京慈恵会医科 東京女子医科 東邦 日本 北里 聖マリアンナ医科 東海 金沢医
科 藤田医科 大阪医科薬科 関西医科 兵庫医科 福岡

正誤問題が頻出

岩手医科 自治医科 国際医療福祉 杏林 帝京 東京医科 東邦 日本 北里 金
沢医科 関西医科 兵庫医科 川崎医科

小問集合のみ出題

自治医科

教科書にない新しい内容の問題が出題されやすい

慶應義塾 藤田医科 産業医科

出題傾向分類【小論文】

【1】種類によるグループ分け ※一般選抜前期日程の出題傾向

課題文型

獨協医科 慶應義塾 東京医科 東京慈恵会医科 東京女子医科 北里 東海
金沢医科 愛知医科 兵庫医科 川崎医科 産業医科 福岡

テーマ型

国際医療福祉 杏林 昭和医科 帝京 東京女子医科 聖マリアンナ医科 大
阪医科薬科 近畿 久留米

図表・グラフ読み取り型

東北医科薬科 昭和医科 聖マリアンナ医科 金沢医科 産業医科

特殊型

埼玉医科（和文と英文） 順天堂（絵や写真） 日本医科

なし

岩手医科 自治医科 東邦 日本 藤田医科 関西医科

【2】試験時間・字数などによるグループ分け

試験時間 60分未満

帝京（30分） 東海（45分） 大阪医科薬科（30分） 近畿（40分） 川崎医科
（50分） 福岡（50分）

試験時間 70分以上

順天堂A方式（70分） 東京慈恵会医科（90分） 北里（90分） 産業医科
（120分）

字数 ～600字

東北医科薬科（600字） 獨協医科（600字） 埼玉医科（300～500字程度）
国際医療福祉（600字） 慶應義塾（600字） 昭和医科（600字） 帝京（300
字） 東京医科（600字） 日本医科（600字） 東海（500字） 金沢医科
（400字） 愛知医科（600字） 大阪医科薬科（400字） 近畿（400字）

字数 600字～

杏林（800字） 順天堂A方式（800字） 東京慈恵会医科（1500字） 東京女
子医科（800字） 北里（1000字程度） 聖マリアンナ医科（1000字） 兵庫
医科（700字程度） 川崎医科（800字） 久留米（800字） 産業医科（1000
字程度） 福岡（700字）

1次試験時に実施

埼玉医科 国際医療福祉 順天堂A方式 東京医科 東京女子医科 大阪医科
薬科 兵庫医科 川崎医科 福岡

出題傾向分類【面接】

※一般選抜前期日程の出題傾向

個人面接

岩手医科（15分） 東北医科薬科（10～15分） 自治医科（1次：20分／2次：10～15分） 獨協医科（10分） 埼玉医科（10～15分） 杏林（10～15分） 順天堂（20～30分） 昭和医科（10分） 帝京（10分） 東京医科（10～15分） 東京女子医科（10分） 日本（15～20分） 日本医科（10分） 北里（10分） 聖マリアンナ医科（15分） 東海（10～20分） 愛知医科（10～20分） 大阪医科薬科（10分） 関西医科（10分） 近畿（10分） 兵庫医科（10分） 川崎医科（15分） 久留米（10分） 産業医科（20分）

グループ面接

福岡（40分）

グループ討論

自治医科（2次：20分） 東邦（15分） 日本医科（30分） 金沢医科（20～30分） 福岡（40分）

Multiple Mini Interview

国際医療福祉（30分×2回） 慶應義塾（20分×2回） 東京慈恵会医科（7分×6回） 東邦（3分×4回） 藤田医科（10分×2回+5分×2回）

シチュエーション設定型の質問

獨協医科 東京慈恵会医科 東京女子医科 東邦 日本 藤田医科 近畿

MEMO

岩手医科大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の題数 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学・医療系 約400語	「体内に注入可能なナノロボット」についての長文問題 (空所補充)	選択	★★★☆☆
2	発音	—	発音、アクセント	選択	★★★☆☆
3	文法	—	空所補充	選択	★★★☆☆
4	会話文	—	「観光旅行の長所と短所」についての会話文問題(空所 補充)	選択	★★★☆☆
5	読解	—	不適文削除	選択	★★★☆☆
6	英作文	—	語句整序	選択	★★★☆☆
7	読解	人文・科学系 約600語	「個々のものが全体として機能するシステム」について の長文問題(同意表現・指示語指摘・内容一致)	選択	★★★☆☆

出題形式は24年度と同じ。文法問題と語句整序が易化したが、読解問題が難化したため全体の難度に変化はない。文中空所補充、発音、文法、不適文削除、会話文、語句整序など幅広い分野から出題されているので、まずはオール

インワン系の問題集を1冊仕上げておきたい。不適文削除は久留米大、会話文は東海大や獨協医科大学の過去問を利用できる。読解問題は設問が内容一致中心のため、段落要約を意識して読み込んでおきたい。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	生物の進化	生物	生物の進化、遺伝子頻度	選択	★★☆☆
2	生物の環境応答	生物	視覚、聴覚	選択	★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎	ホルモン	選択	★★☆☆
4	生物の特徴、生命現象と物質、 遺伝情報の発現と発生	生物基礎、 生物	体細胞分裂と卵割、遺伝子の発現と調節	選択	★★☆☆
5	生命現象と物質	生物	クエン酸回路	選択	★★☆☆

24年度と同様に大問5題構成のマーク式。考察問題の割合が24年度と同様に高かった。近年は考察問題の割合が高いので、十分に対策を講じておきたい。計算問題は3問で特段多くはないが、23年度のように8問出題された年度もあるの

で注意しておこう。「動物の反応と行動」「発生」「体内環境」「遺伝情報とその発現」の4分野は頻出なので、この分野をまずは仕上げていく。一方、「生物の進化」はここ10年以上、大問での出題はなかったが、大問1で出題された。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	天体の運動、ロケットの分離	選択	★★★☆☆
2	電磁気	RL回路、自己誘導・相互誘導	選択	★★★☆☆
3	波動	光波の干渉(くさび形空気層・ニュートンリング)	選択	★★★☆☆

大問3題構成で、設問数は例年25問程度。力学と電磁気が必須で、残り1題を波動、熱力学、原子のいずれかが占める。25年度は波動からの出題。典型問題中心だが、やや発展的な内容も含む。例えば、大問2の相互誘導、大問3の平行レンズと凸レンズによる干渉の問題は、市販の問題集にはあまり掲載されていない発展的な問題だ。ただし、

入試問題としては比較的ありふれた題材のため、市販の典型問題集だけではなく、他の医学部の過去問にしっかりと取り組むことが最適だと考えられる。受験生が手薄になりがちな原子分野からの出題も見られるため、しっかりと学習しておくこと。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法の応用	Ⅲ 実数解の個数	空所補充	★★★☆☆
2	図形と計量、 図形の性質	I、A 外心と内心の距離	空所補充	★★★☆☆
3	確率	A カードの並びに関する確率	空所補充	★★★☆☆

大問2の間4以外は丁寧に誘導がついており、大問3は基本事項だったため、大変解きやすかっただろう。例年、全体的に記述式で出題するのがふさわしいような問題で、難度の高いものや計算量の多いものも出題されているので、国公立大の記述式問題で練習してお

いた方がよい。短時間で効率よく得点するためには、典型的な解法が瞬時に浮かぶことと、正確かつ迅速な計算力が必要。日頃から面倒がらずにきちんと計算することも大切だ。また、試験時間が英語と合わせて120分のため、時間の使い方にも注意したい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	分離法、同位体、化学結合、イオン式、酸塩基、熱化学、化学平衡、還元剤	選択	★★★☆☆
2	無機	アンモニア、二酸化炭素、リチウム、バリウム、水銀、遷移元素、周期表、実験操作	空所補充・選択	★★★☆☆
3	有機	有機化合物の特徴、鎖式炭化水素、有機化合物の反応性、ベンゼン、芳香族化合物の構造、油脂、セルロースの反応と構造	選択	★★★☆☆

大問3題。大問構成は例年同様で、2文の正誤は11題と変わらなかった。計算が溶解度の1題のみだったので、誤文選択も含めて知識の精度を上げられると有利だった。化学用語、各物質の構造や性質、用途などを問われることが

多い。出題なしが続く合成高分子化合物の基礎知識は押さえておこう。普段から教科書をくまなく読み込み、参考書で根拠を講べる習慣をつけておきたい。一問一答問題集や過去問演習が効果的だ。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

岩手医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

英語と数学合計で120分であるため、それぞれの時間配分が60分であることを考慮すると、大問が7題は多い。時間内に効率よく解答できるかが鍵。大問2から6までに、発音・文法・会話文・語句整序が出題されるため、特化した問題集を演習するより、オールインワン系の問題集（ネクストステージやグラマスターなど）を1冊仕上げた方が効率的である。大問5の不適文削除については久留米大学医学部やセンター試験に類題があるためこれを利用して練習しておく。大問1の長文中空所補充はまず、メディカルラボの読解チェックテストのベーシックBで基礎力を身につけ、本学の過去問だけでなく、兵庫医科大学や愛知医科大学の過去問を利用して実践力を養うとよい。品詞もヒントとなるため『ターゲット1900』を学習する時に多義語や品詞を意識して覚えておきたい。大問7の読解問題は各段落の要約内容について問われているため、『英語長文出題パターン演習1・2・3』で練習し、川崎医科大学や東北医科薬科大学の過去問で練習を積む。時間内に解答することが難しいため、必ず過去問を解いて時間配分を考えておく。

【数学】

大問2の間4以外は丁寧に誘導が付いており、大問3は基本事項であったため、たいへん解きやすかったであろう。例年、全体的に記述式の試験で出題するのがふさわしいような問題で、難易度の高いものや計算量の多いものも出題されている。国公立大の記述式の問題で練習しておいた方がよい。短時間で効率よく得点するためには、典型的な解法が瞬時に浮かぶことと正確かつ迅速な計算力が必要である。日頃から面倒がらずにきちんと計算することも大切である。また、試験時間が英語と合わせて120分であるため、時間の使い方にも注意したい。

【化学】

マーク形式。大問3題（理論・無機・有機）となっている。計算問題が少なく、無機・有機の知識問題が多い。計算問題が少なく、合成高分子の出題がない年度もある。『リードLightノート化学基礎/化学』で基本をおさえよう。過去問の内容を『フォトサイエンス化学図録』『チャート式化学基礎・化学』で調べたり、その前後にある項目を確認して知識を増やしておくことが大切である。日本大学、東北医科薬科大学、獨協医科大学、川崎医科大学などの正誤問題なども有効である。

【物理】

過去の入試（2016年度以前）は、定期テストに毛が生えた程度の基本問題が中心であったが、ここ数年はちゃんと入試問題らしくなってきた。そのため、しっかりとした準備をして入試に臨まなければならなくなった。具体的には、『名問の森』などの標準～発展レベルの問題集をしっかりと解き込み、典型問題をスラスラと解けるまでに仕上げてもらいたい。また、過去問は難易度がバラバラであるので、ここ2～3年の過去問を用いて、最新の難易度を確認しておくこと。さらに、同レベル、同形式の入試問題（獨協医科大学など）を用いて、さまざまなテーマに触れておくのもいいだろう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、計算を含め典型的な問題を短時間で確実に解く力をつけること。その際、「動物の反応と行動」、「発生」、「体内環境」、「遺伝情報とその発現」の4分野は頻出なのでこの分野をまずは仕上げていくとよい。

東北医科薬科大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の難読単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療科学系 約800語	「タンパク質のはたらきを模倣するナノマシン」についての長文問題(内容一致・空所補充・同意語選択・文補充・文整序)	選択	★★☆☆
2	読解	社会・科学系 約850語	「音楽を聴きたい理由と流行する仕組み」についての長文問題(内容一致・同意語選択・文補充)	選択	★★☆☆
3	文法	—	誤り指摘	選択	★★★★
4	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆

大問1・2は内容一致中心の読解文、大問3が誤り指摘、大問4が語句整序という出題形式に変化はないが、24年度と比べて難化した。読解内容は専門的だが、選択肢は易しい。大問3の誤り指摘は一続きの英文が10問に分けられ、それぞれの誤りを指摘する形式のため、文法・語

法の誤りだけでなく、文脈上不適切な語を指摘しなくてはならない。対策としては500~700語程度の読解問題集で土台を確立した後、過去問で選択肢の吟味の仕方を習得する。誤り指摘は、国際医療福祉大や東邦大の過去問で演習するとよい。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式、複素数平面	Ⅱ、C 最大・最小	空所補充	★★☆☆
2	場合の数	A 最短経路	空所補充	★★☆☆
3	微分法的应用	Ⅲ 極大・極小	空所補充	★★☆☆

毎年、出題単元が大きく変わっていたが、大問2では場合の数・確率が3年連続で出題されている。24年度は数学Ⅲの微分法・積分法が出題されなかったが、25年度は大問3で出題された。場合の数・確率では数え上げや丁寧な場合分けを行う問題も出題されている。効率よく計算するだけでなく丁寧に数える練習にも取り組んでおきたい。過去の

出題範囲にとらわれず、多くの大学で頻出の内容を学習しておくこと。例年、計算量が多い問題が出題されるので、典型問題の解法がすぐに頭に浮かぶようにしておくことも、正確かつ迅速な計算を行えるよう練習しておくことが重要だ。基本的な解法を習得した後、同じ誘導形式の他大学の過去問で練習するとよい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	結合・結晶の構造と性質、分子間力、結合角、分子構造、単位格子	空所補充・選択	★★☆☆
2	理論	溶解度積、化学平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡	空所補充・選択	★★☆☆
3	無機	アルミニウム単体・化合物の性質、結晶構造、複塩、電気分解、酸化還元反応	空所補充・選択	★★☆☆
4	有機	油脂の性質と構造、けん化価、ヨウ素価	空所補充・選択	★★☆☆

大問4題で、理論2題、無機1題、有機2題。設問数は2年連続で26問、即答できる設問が多くなった。合成高分子化合物の出題はなかったが、25年度版の本項で触れた「油脂」が出題された。例年、複数の内容をセットにした空所補充や当てはまる正文の複数選択の設問形式が特

徴的。計算問題は、概算や工夫で解答スピードを上げよう。過去問を活用した計算問題と正誤問題の演習だけでなく、出題が少ない無機物質、糖類、繊維・樹脂・ゴムの対策も進めておこう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 トリプトファンオペロン	選択	★★☆☆
2	生物と遺伝子、遺伝情報の発現と発生	生物基礎、生物 染色体、遺伝	選択	★★★★
3	生態と環境	生物 個体数変動	選択	★★★★

22年度は大問4題構成だったが、23年度以降は大問3題構成でマーク式。これまでは大問1題が残りの大問と比較して極端に難しいという傾向だったが、24・25年度はいずれの大問も解きにくい問題になっている。最初に全体を見渡

し、各大問の中で解きにくい問題を選んで、比較的解きやすい問題から手をつけるようにする。遺伝子に関する問題は創立以来、23年度を除いて毎年度出題されているので、しっかりとした対策をしておきたい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	台車に取り付けられた円弧上のパイプ内を運動する小球の運動	選択	★★☆☆
2	電磁気	定電流電源に接続されたRC回路、電気振動	選択	★★☆☆
3	熱力学	断熱変化を含む熱サイクル	選択	★★☆☆

大問3題構成で、例年、力学と電磁気は必出、もう1題は波動もしくは熱力学が出題される。23年度までは波動と熱力学が隔年で出題されていたが、24・25年度は2年連続で熱力学から出題された。問題の難度は標準的だが、各大問ともによく練られており、状況を素早く正確に把握し、解法を的確に運用することができるのが高得点の鍵。公式の丸暗記など、付け焼刃的

な学習をしてきた受験生は太刀打ちできないだろう。公式の丸暗記ではなく導出までしっかりと行う、問題集の解説をしっかりと読み込むなど、丁寧な学習を心がけること。また、設問数が多いため、時間内にすべての問題に手をつけるのは非常に難しい。比較的難度が低い問題や、解法を見出した問題から先に手をつけ、残った時間でその他の問題に取り組むとよいだろう。

東北医科薬科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

大問1・2の読解問題では、かなり専門的な内容の英文が出題されることがある。しかし内容一致は段落ごとに問われている上に、誤りの選択肢を消去することが容易であるため、臆せず取り組んで欲しい。大問3の誤り指摘は10題あるが、実際は一続きの英文であり、文脈から判断する問題が出題されるため注意が必要である。大問4は例年通り標準的な問題であった。読解対策としては『英語長文出題パターン演習2・3』を利用して内容を理解すると同時に、段落要約や選択肢の吟味などにも意識して取り組む。今年度は医療系単語の知識が正解に繋がる問題も散見されたので、『ターゲット1900』だけではなく医療系単語集にも触れておくといよい。さらに『私大医大の英語・長文読解編』を利用し読解力を養成し、医療系単語を習得する。誤り指摘は『良問500・語文訂正編』で基礎力をつけてから、同形式の国際医療福祉大学や東邦大学の過去問で練習する。語句整序は『良問500・整序作文編』を仕上げれば十分である。

【数学】

『チャート』や『プラチカ』等の標準的な参考書や問題集を使って、定型的な問題の解法を確実に身に付けておく。特に、数学Ⅲの積分や確率は頻出であり重点的に取り組んでおきたいが、どの単元が出題されても対応できるようにしておく必要がある。同大学の過去問だけでなくマーク形式・誘導形式の同じ形式の他大学の過去問演習も効果的である。

【化学】

マーク形式。第1問は理論で小問集合が多い。計算問題、知識問題のバランスがよい。合成高分子の割合は高くない。やや難易度の高い問題が出題されることがある。『エクセル化学〔総合版〕』などを反復したり、『フォトサイエンス化学図録』で視覚的に理解をしておこう。空所補充問題には「化学用語」や「物質の性質・用途」をしっかりとっておく。出題形式に近い本学薬学部や岩手医科大学、共通テストなども活用しておこう。

【物理】

各大問とも1つのテーマを深掘りしていくような作りになっている。1つの題材を、条件や設定を変え、異なる解法で切り込んでいかねばならない。つまり、問題のテーマを素早く正確に見出し、それに合った解法を自分で探し出す力が必要となってくる。まずは、『名問の森』のような標準レベルの問題集を解き込み、典型的な問題の解法をマスターすることである。次に、どのような問題のときにどのような解法を選択しなければならないかを研究していく必要がある。これを学生が1人で行うには非常に時間がかかり、それ以上に、何を研究すればいいのか路頭に迷う可能性がある。解法研究については、予備校などを活用した方が効率がいいだろう。

【生物】

まずはしっかりとした基礎知識と読解力・考察力の両方が必要である。『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。その上で、『生物実験・考察問題入門』などを使って実験考察問題にも慣れておきたい。また、問題の雰囲気独特なので、過去問については5年以上以上取り組むことが望ましい。その中で時間の使い方に慣れていくといよい。

自治医科大学

2025年度 入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会系 約550語	「韓流人気と今後の展望」についての長文問題(同意表現 選択・内容一致・同意語選択・空所補充)	選択	★★★☆☆
2	読解	人文・社会系 約600語	「無声映画で活躍した弁士」についての長文問題(内容 説明・空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
3	読解	社会系 約500語	「チョコレート品質向上」についての長文問題(内容一致・ 同意表現選択・空所補充)	選択	★★★☆☆

24年度と同様、読解3題という出題形式に変化はない。空所補充で複数の箇所の組み合わせを選択する問いや、後続する文を選択する問いは25年度も出題された。24年度よりも内容に関する問題が増えたため、やや易化した印象だ。空所補充対策

としては、読解力の向上が必須。抽象的な内容の英文は具体的な内容にするなど、工夫して学習する。新形式へと変更された過去3年分の過去問を必ず演習すること。易化したとはいえ、依然として多い紛らわしい選択肢に慣れておく必要がある。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 易

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	複素数と方程式	Ⅱ 因数定理	空所補充	★★★☆☆
2	2次関数	I 2次方程式	空所補充	★★★☆☆
3	複素数平面	C ド・モアブルの定理	空所補充	★★★☆☆
4	三角関数	Ⅱ 実数解を持つ条件	空所補充	★★★☆☆
5	数列	B 数列の和	空所補充	★★★☆☆
6	場合の数	A 重複組み合わせ	空所補充	★★★☆☆
7	図形と計量	I 正四面体の断面積の最小	空所補充	★★★☆☆
8	図形と計量	I 余弦定理、三角形の面積	空所補充	★★★☆☆
9	数学と人間の活動	A 余りの和	空所補充	★★★☆☆
10	平面ベクトル	C 内積の最大・最小	空所補充	★★★☆☆
11	空間ベクトル	C 垂線の足	空所補充	★★★☆☆
12	2次関数	I 4次方程式が異なる4つの実数解を持つ条件	空所補充	★★★☆☆
13	積分法の応用	Ⅲ 曲線と2本の直線で囲まれた部分の面積	空所補充	★★★☆☆
14、15、16	図形と方程式	Ⅱ 2円の共通接線、接点	空所補充	★★★☆☆
17、18、19、20	数列	B 等比数列の和の整数部分	空所補充	★★★☆☆
21、22、23、24、25	微分法、積分法	Ⅱ 4次関数の最小、極大、面積	空所補充	★★★☆☆

25年度は1~13は答えがすべて1桁の整数となるように作られた小問、14~16、17~20、21~25がそれぞれ大問扱いの形式だった。ほぼすべての範囲から出題されるが、コロナ禍以降は数学Ⅲからの出題数が激減している。例年、小問は基本的な問題が中心で、わずかな時間で解答できる

問題が多いので、確実に解ける問題を解いていくなど要領よく処理していく必要がある。教科書傍用問題集などで短時間に多くの問題を解く練習をするとよい。また、大問は有名テーマが出題されているので、標準的な問題集に取り組んでおく効果的。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

小問 25問	分野	内容	出題形式	難易度
	理論、無機、有機	物質の性質、溶液の濃度・モル凝固点降下、沈殿量、水和物の析出、電気分解・生成量・pH、化学平衡、燃焼エンタルピー、周期表、18族元素、金属イオンの性質・反応、硝酸の製法、芳香族化合物の分離・性質、元素分析・分子式・性質、糖類に含まれる炭素数、糖類の構造と反応、糖類の分枝程度、ペプチド異性体、合成高分子	選択	★★★☆☆

小問集合25問。私立大医学部で最短の解答時間。小問を数問まとめた出題が続いており、25年度は7セット(24年度は6セット)だった。正誤問題では、該当する選択肢の数を問う形式や、正解の組み合わせを選ぶ形式があり、設問への対応力が問

われる。計算問題が多く、選択肢を見て計算過程の最適化や最小限の根拠による選択を行うこと。解答スピードと精度を同時に身につけておきたい。例年、合成高分子化合物まで出題されるので、過去問を活用して形式と特徴をつかんでおこう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、生物	選択	★★★☆☆

24年度と同様に小問25題構成のマーク式。生物基礎、生物の全範囲から出題された。19年度以降は数題の小問で構成される問題も出題されている。出題のされ方が少し変化したとはいえ、通常の小問集合の問題と大差はない。問

題自体の難度が高いものはそう多くないが、1教科あたり40分の時間で25題を解くのはかなり大変なので、過去問で時間配分感覚をつかむ訓練をしておく必要がある。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
小問集合	電磁気、原子、波動、熱力学、力学	電気振動、磁場中における荷電粒子の運動、ファラデーの電磁誘導の法則、静電気力、結合エネルギー、半減期、水面波の干渉、開管の共振、うなり、全反射、レンズ、熱サイクルと熱効率、熱量保存の法則、剛体のつり合い、万有引力、摩擦のある水平面における小球の単振動	選択	★★★☆☆

例年、小問集合25題で構成され、高校物理の全分野から出題されている。他の医学部と比べると難度は低めだが、試験時間は理科2科目100分なので、物理1科目に費やせる時間はおおよそ50分と考えれば、すべての問題を解き切るのには非常に

厳しいだろう。比較的易しいとはいえ時間を要する問題も出題されるので、時間のかかりそうな問題と即答可能な問題とをしっかりと見極め、手際よく解答を進めることが大切だ。過去問を用いて、時間配分などを必ずシミュレーションしておくこと。

自治医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

語彙レベルが高いので、まず『ターゲット1900』で土台を作り、『鉄緑会英単語・熟語 鉄壁』で更に語彙力を高める。文法の知識が必要な問題は皆無ではあるが、『エバーグリーン』を利用して基本的な知識はつけておく。文構造の把握力と英文解釈力は読解の基本として必要であるため、『英文熟考 上・下』は必ず演習する。読解対策としては『やっておきたい英語長文500』『1日30分の英語長文』『英語長文出題パターン演習2』で読解の基礎を確立した後に、『大学入試 レベル別英語長文ソリューション最新テーマ編 ハイレベル・トップレベル』で実践力をつける。最後に時間を意識して過去問を3年分演習する。

【数学】

ほぼ全ての単元から出題されるため、全単元の基本事項を確実に覚えることが必須条件である。教科書レベル程度の問題が多いので、『4SETP』等の教科書傍用問題集で短時間に集中して多くの問題を処理する練習を重ねるとよいであろう。解ける問題から解いていくなど、かなり要領よく処理していかないと時間切れになる。計算に非常に時間がかかるものもあるので、問題の取捨選択も鍛えておきたい。東邦大学や藤田医科大学の小問集合に取り組むことも有効である。

【化学】

マーク形式。問題数が多く、かなりスピードが要求されるが、基本～標準レベルが中心である。知識と計算、高分子を含めた各分野からバランスよく出題される。教科書・参考書で知識を習得し『エクセル化学〔総合版〕』などで実戦力をつけよう。過去問から効果的な時間短縮法を探っておこう。分子量の算出や立式のパターンを工夫したり、条件の有効なまとめ方を見い出しておくとうい。問題によって、概算による計算法も有効である。

【物理】

大部分の問題が基本問題で構成されるので、市販の問題集を解き込んでさえいれば十分に対応できるだろう。やや難易度が高いものも含まれるが、他の医学部の過去問演習も同時に行っていれば、それほど対応に苦しむことはないだろう。しかしながら、問題数に対する解答時間があまりにも少なすぎるため、多くの問題を短時間で正答する力をつけなければならない。そのためには、本学過去問を用いた演習が効果的である。設問によって難易度が若干高いものや計算が重たいものが含まれるため、解きやすい問題を見つけ出し、その問題から確実に得点し、その後飛ばした問題に戻ってくるといった戦略も重要となってくる。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集を最初から最後まで繰り返し演習して、しっかりとした基礎力を身につけよう。問題数が多く時間配分が難しいので、過去問を用いてしっかり時間を計って演習し、スピードアップのための十分な対策をとること。また、センター試験時代の生物基礎・生物の問題で知識、計算問題を中心に演習したり、川崎医科大学や金沢医科大学の小問集合の問題を用いて演習するのも良いであろう。

獨協医科大学

2025年度
入試分析

英語(前期・1/27)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	英文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1A	読解	伝記系 約650語	「アイルランドの偉大な詩人イエイツ」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
1B	読解	人文系 約750語	「復元力の真の姿とは」についての長文問題(空所補充・同意表現・内容一致)	選択	★★★☆☆
2A	会話文	—	「SDGsとは何か」についての会話文(内容一致・同意表現)	選択	★★★☆☆
2B	読解	社会・科学系 約400語	「巨大な氷山の運命」についての長文問題(空所補充)	選択	★★★☆☆
3	英作文	語句整序	選択	易	★★★☆☆
4	文法	空所補充	選択	易	★★★☆☆

出題形式・分量ともに24年度と同じだが、やや易化した。大問1の2つの長文は例年通りだが、医科大にしては珍しく、文学者の生涯に関する英文が出題された。空所補充も他大学とはやや異なる観点で考える必要があるため、過去問研究が必須。大問2の会

話文・空所補充のみの長文と、大問3・4の語句整序・空所補充は入試標準レベルまたはそれより易いため、市販の問題集を演習すれば十分対応できる。60分で大問6題は多いため、解答する順番を工夫すること。そのために過去問演習は欠かせない。

数学(前期・1/27)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	場合の数	A 正 n 角柱の面の塗り分け	空所補充	★★★☆☆
2	複素数と方程式、複素数平面	II、C 4次方程式の4解が同一円周上となる条件	空所補充	★★★☆☆
3	平面上の曲線	C 双曲線の焦点、2漸近線と接線で囲まれる三角形の面積、2双曲線の接線と法線が一致する条件・接分の長さ	空所補充	★★★☆☆
4	積分法の実用	III 曲面と平面で囲まれる立体を回転してできる立体の体積	空所補充	★★★☆☆

25年度は全大問が容易には解き切れない難度だった。幅広い分野から出題されており、複数の分野にまたがった融合問題も多い。過去にはマーク式ではあまり出題されない数学的帰納法や平均値の定理も出題されたことがある。標準的な問題はばかりで難問はないが、計

算量は多い。誘導された問題が多いので、出題者の意図を的確に捉えることが重要。計算量も多く、完答するには時間的に厳しい。標準的な問題集で基本的な解法を習得した上で、総合的な問題の練習をするとよい。ケアレスミスはなくすことも含否の鍵になるだろう。

化学(前期・1/27)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問10問(全分野)	単体の気体、同位体の存在率、溶解和、光エネルギー、化学平衡、電離平衡、Na 塩の性質、芳香族の酸化数変化、ポリペプチドの反応、PVA の平均分子量	選択	★★★☆☆
2	理論	飽和蒸気圧、分圧、相対湿度、気液平衡、気化の割合	選択	★★★☆☆
3	有機	グルコースの性質、配糖体の構造、反応性、分子式、銀鏡反応	選択	★★★☆☆
4	有機	モール法の終点の様子、塩化物イオンの割合、定量の誤差、実験器具の扱い方、しょうゆ中の NaCl 量	空所補充・選択	★★★☆☆

大問5題で、2科目120分。前期2日程は5科目、後期は2科目。25年度も糖誘導体(アルブチン(美白剤))が出題された(24年度グルコサミン(→キチン、キトサン)、23年度ラフィノース(糖蜜))。大問1は、定番の小問集合10問で

知識・計算がバランスよい。全日程で大問5題(32マーク前後)から、4題(28マーク)と減って解きやすくなった。実験操作に関する問題が頻出。標準レベルの演習や前期・後期の過去問をしっかりと解いておこう。

生物(前期・1/27)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 細胞膜、タンパク質	選択	★★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 光合成	選択	★★★☆☆
3	遺伝情報の発現と発生	生物 動物の生殖細胞形成、カエルの有膜胎、ショウジョウバエの体節形成	選択	★★★☆☆
4	体内環境の維持、生物の環境応答	生物 動物の神経系と内分泌系	選択	★★★☆☆
5	生物の多様性と生態系、生態と環境	生物 生態系、生物 パイオーム、植生、遷移、物質収支	選択	★★★☆☆

24年度と同様に大問5題構成のマーク式。24年度に増加した計算問題の割合が再び減少した。23年度以降は考察問題の割合が少なくなってきている。21年度より試験時間が2科目100分から120分へ増えたが、しっかりと考える必要がある考察問題や計

算問題も含まれる場合があるので、解答時間に余裕があるとは言えない。過去問を演習する際には、時間配分を十分に考慮しながら演習するとよい。遺伝子の分野の中でも「遺伝情報の発現」の内容は出題頻度が高いので、周到な対策が求められる。

物理(前期・1/27)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	衝突・重心速度、抵抗のモデル、気柱共鳴・ドップラー効果、放射性崩壊・半減期	選択	★★★☆☆
2	力学	万有引力、重力トンネル	選択	★★★☆☆
3	波動	波の式を用いた光波の干渉の解析	選択	★★★☆☆
4	電磁気	RC 回路	選択	★★★☆☆
5	熱力学	2乗平均速度の測定、単原子分子と2原子分子理想気体の混合	選択	★★★☆☆

大問5題構成で、大問1は小問集合。小問集合も含めると、高校物理の全分野から出題される。難度は標準レベルの問題が大半だが、25年度の大問3の光波の干渉、大問5の2乗平均速度の測

定など、やや難度が高い問題も出題される。試験時間に対する問題数が多めなので、難度が高い問題は後に回し、まずは標準レベルの典型問題から確実に正答していくことを心がけよう。

獨協医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

土台作りとして文法の知識を定着させる。『ネクストステージ』や『英文法ファイナル標準編』を用いる。語句整序は『英文法・語法500 整序作文編』を演習する。大問2Aの会話文対策は東海大学医学部の4や岩手医科大学の4を利用するとよい。大問2Bの空所補充対策としてはメディカルラボのチェックテストベーシックBやスタンダードBに同じような問題が多くあるのでこれを利用する。大問1の長文ではここ2年人文系が頻出であるため、『やっておきたい英語長文500・700』や『英語長文出題パターン演習2・3』の人文社会系の問題を中心に演習するとよい。本学の特徴として問題量の多さが上げられるため、過去問を利用して時間内に解答する練習が欠かせない。その際大問1からではなく、短時間でできる大問3・4から解答し、大問1の人文系の英文を最後に取り組むことを勧める。というのも医学部受験生には馴染みのない内容が多く、思ったより時間がかかることがあるからだ。

【数学】

『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集を使って定型的な問題の解法を習得した上で、ややハイレベルな問題集で総合的な問題の練習に取り組むとよい。試験時間に対して分量が多いので、素早く題意をとらえられる力と迅速かつ正確な計算力が必要である。また、問題を取捨選択することも必要である。誘導形式に慣れるために、東北医科薬科大学、杏林大学、川崎医科大学などの過去問に取り組むのも有効である。

【化学】

マーク形式。第1問は小問集合（全分野）。実験操作が多い中和滴定、酸化還元滴定、気体・溶液の計算、新素材などに注意しておこう。近年、解きやすい問題が多くなってきたが、合格するには点差がつく発展的な内容の理解を増やすことが大切である。それには『フォトサイエンス化学図録』『チャート式化学基礎・化学』の読み込みがよい。24年度からの後期日程は前期と同形式なので出題内容を把握しておこう。埼玉医科大学や杏林大学などの過去問を活用しよう。

【物理】

本学の問題は、比較的題意がつかみやすく「きれいな」ものである。そのため、まずは典型問題が多く掲載されている問題集、例えば「名問の森」や「良問の風」などを繰り返し解き、解答を導き出す過程を自力で追えるまでに仕上げておきたい。その上で、本学過去問を用いて、解きやすい問題から正答を重ね、試験時間内に合格点を獲得する練習を積んでおくこと。1日目と2日目で難易度に差はほとんどないので、2日間とも対策に用いることができる。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、計算を含め典型的な問題を短時間で確実に解く力をつけること。問題量が多いため、用語の選択などの基本問題を瞬時に答えていかなければならない上に、応用問題でもゆっくりとリード文を読み直している時間はない。過去問を使って時間配分に慣れておくこと。また、「遺伝情報とその発現」の分野は過去10年以上高頻度で出題されているので、ここから仕上げておくこと。

埼玉医科大学

2025年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 標準

(前年との難易度比較) ↑ やや難化

(時間に対する分量) 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充・誤り指摘	選択	★★☆☆
2	読解、 会話文	社会・医療系 約500語 (総語文 約400語)	「孤独という病」についての長文問題(内容一致・同意表現・空所補充・文補充)	選択	★★☆☆
3	読解	人文・医療系 約750語	「人間の脳の拡大」(内容一致・空所補充・内容説明)	選択	★★☆☆
4	読解	社会・医療系 約950語	「治療費に大金を使うアメリカ人は最高の医療を受けているか」(内容一致・空所補充・語句整序・同意語選択)	選択	★★☆☆

大問1の文法・語法問題で、同意文完成が誤り指摘に変更されたことを除き、形式に変化はない。大問1は24年度より難化した。読解問題の内容も24年度より難化したが、設問は内容一致や空所補充中心で比較的易しいため高得点を狙いたい。文法は基本問題集を演習し基礎を確

立した後、出題形式の変更を考慮してオールインワン系の問題集を1冊仕上げておきたい。長文は500~700語の読解問題集を利用して内容理解中心に演習する。最後に過去問を演習し、時間内に解答できるように練習しておくこと。

生物(前期)

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 標準

(前年との難易度比較) → 変化なし

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 Ca^{2+} 輸送タンパク質	選択	★★☆☆
2	遺伝情報の発現と発生	生物 背腹軸の決定	選択	★★☆☆
3	生物の環境応答、 生態と環境	生物 ミツバチのダンス、血縁度	選択	★★☆☆

25年度は24年度の大問4題構成から、22・23年度の大問3題構成に戻った。また、24年度に復活した小問集合が再び消滅した。考察問題の割合が高く時間的にも厳しいので、短い時間で正しく読み取れるように、過去問を中心

として練習を積んでおくことが重要だ。同時に、比較的多く出題される計算問題をどれだけ手早く解けるかどうかで差がつくので、典型的な計算問題を解く練習は必ずやっておくこと。

物理(前期)

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ やや難

(前年との難易度比較) ↑ やや難化

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	半円筒面に沿った小物体の円運動、放物運動	選択	★★☆☆
2	熱力学	容器内に入れられた気体の状態変化、断熱変化	選択	★★☆☆
3	電磁気	一様な電場によって作られる等電位線と電荷の運動	選択	★★☆☆

ここ数年、大問3題構成が続いている。力学、電磁気から各1題、もう1題は波動か熱力学のどちらかが出題される。過去には原子からの出題もあった。標準的な問題が多くを占めるが、設定が複雑で問題の内容を理解するために時間がかかる問題(25年度では大問1の後半、大問3)が出題され、全

体的な難度は「やや難」。また、試験時間に対する問題数が多く、計算問題にも時間がかかるため、すべての問題を解き切ることは難しいだろう。解答作成に取りかかる前に、いったん問題全体に目を通し、解きやすい問題から丁寧に解答し、正答を積み上げていくことが重要だ。

数学(前期)

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 易

(前年との難易度比較) → 変化なし

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法の応用	Ⅲ 指数関数の最小値	空所補充	★★☆☆
	複素数平面	C 点の回転	空所補充	★★☆☆
2	2次関数、式と証明	I、II 2動点間距離の最小、移動距離の最小	空所補充	★★☆☆
3	図形と方程式	II 三角形の面積比から傾き、角度、長さ	空所補充	★★☆☆
4	場合の数	A 重複組み合わせ	空所補充	★★☆☆

大問3は、24年度と同様に幾何的に解いた方が解きやすい。例年通り、大問4は確率からの出題だった。例年は、標準的な問題が多く難問はないが、50分で高得点を取るためには要領よく解くことが必要だ。大問1は基本レベ

ルの小問集合。大問4で毎年度出題される確率は重点的に学習しておくこと。数学Ⅲの微分法・積分法も頻出のため、計算練習は十分にしておこう。似た問題の出題もあるため、過去問の演習も多いに役立つだろう。

化学(前期)

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 標準

(前年との難易度比較) → 変化なし

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	リンの製法、リン単体・化合物の性質、リン酸の電離平衡	選択	★★☆☆
2	理論	実用電池、リン酸型燃料電池、メタン由来の水素によるエネルギー	空所補充・選択	★★☆☆
3	有機	アミノ酸の構造、陽イオン交換樹脂、ペプチドの構造決定	空所補充・選択	★★☆☆

大問3題。例年同様、2科目90分で時間的余裕がなかったが、24年度のヘモグロビンのような出題がなく、全体的にトピックとして扱いやすい内容だった。どの大問も計算問題が多いため、できる問題から解く必要がある。

有機はアミノ酸・ペプチドの典型問題だが、演習量で差がつきやすい。前期と併せて、やや難を含む後期の過去問にも取り組んでおこう。難しい問題より平易な問題をハイスピードで解く力を身につけておくことが重要だ。

埼玉医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

医療系単語などの専門的な語が英文中に散見される。注釈もあるが、今年度は医療系単語が直接正解・不正解に影響することもあったので、まず『ターゲット1900』を仕上げ、余裕があれば『医歯薬系入試によく出る英単語600』などの医療系単語帳にも触れておきたい。大問1の空所補充は語彙や語法重視の他大学の傾向とは異なり、文法事項のみの出題であるので、純粋な文法問題集（『エバングリーンの基礎トレーニング』など）と変更の可能性を考慮してオールインワン系の問題集を1冊仕上げておきたい。今年度新たに加わった誤り指摘対策は『良問500 語文訂正編』を利用するとよい。読解はスキミングするだけでなく、精読も心掛ける。長文が3題であるために、以前までのように速読を意識する必要がなくなり、内容に関する問題も増えているため、表面的に理解するだけでなく発展的に捉える力も必要になっているからだ。長文学習には500語～700語程度の読解問題集（『1日30分の英語長文』・『出題パターン演習2』）を使用するとよい。特に『出題パターン演習2』は選択肢が多いので本学の対策に適している。余裕があればこのシリーズの3も演習しておくことよい。

【数学】

短時間で効率よく解かなければならないので、『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集を使って全範囲の定型問題の解法を瞬時に頭に浮かぶようにしておくことが大切である。特に、数学Ⅲの積分の計算と定型的な確率の問題は十分に練習しておくべきである。過去問研究も有効である。前期・後期ともに受験する人は、前期試験の復習にしっかり取り組んでおくこと。

【化学】

マーク形式。2科目90分で、空所補充・計算・実験充題が多く、スピード重視。ここ数年、合成高分子よりも天然高分子が扱われやすい。まれにやや解きにくい内容があり、前期・後期の問題で出題内容をチェックしておこう。共通テスト、杏林大学、日本大学の過去問なども効果的である。『化学重要問題集』のグラフ問題や化学資料集で解答の精度を上げておこう。無機は工夫して覚えておこう。有機は構造決定と天然高分子を中心に対策を進めておくことよい。

【物理】

問題の難易度としてはいたって標準的ではあるが、問題数が多く、全ての問題に取り組むことはほぼ不可能である。このことをしっかりと頭に入れたうえで過去問演習に取り組んで欲しい。対策としては、まずは典型的な問題が多く掲載されている問題集をやり込み、標準的なレベルの問題であれば確実に点数が獲得できる力を養っておきたい。その上で、過去問演習を行う際には合格点を獲得するための戦略をもって臨んで欲しい。具体的には、難易度が高く時間がかかる問題、いわゆる「捨て問題」と、確実に正答できなければならない問題をしっかりと見極め、合格点に達するための正答率を安定して獲得できるまでに仕上げておきたい。また、解答がマーク形式であるので、過去問を通して数ある選択肢から正答を選ぶ作業にも慣れておこう。

【生物】

まずは教科書の内容をしっかりと理解し、『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集などを使って全分野漏れのない知識を身につけることが重要である。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。考察問題が頻出なので、『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基礎を固めるとよい。過去問演習では、小問集合がなくなった20年度以降の問題で全体的な時間配分などの練習をするとよい。

国際医療 福祉大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	医療系 約750語	「風邪の特効薬を求めて」についての長文問題 (誤り指摘)	選択	★★★★
4	読解	人文・科学系 約900語	「過酷な環境下で収束的に順応する進化」についての長文問題 (空所補充・同意表現選択・内容一致・主題選択)	選択	★★☆☆
5	読解	社会・科学系 約700語	「AIを使った新しい指紋照合」についての長文問題(空所 補充・同意表現選択・段落補充・内容一致)	選択	★★★★

出題形式に変化はない。文法問題は慎重に解答しないと不正解となるものもある。語句整序は例年より易しかった。長文中にある誤り指摘は、文脈も考慮しつつ文法と語法の誤りを探さなくてはならないため難しい。読解問題は読解レベルも高く、内容も専門的なものが多いが、選択肢を吟味すれば正解

にたどり着ける。大問1・2の対策としてはオールインワン系の問題集と、語句整序に特化した問題集をそれぞれ1冊演習する。読解は2020年度以前の順天堂大の過去問を利用して、同意語選択や段落補充の練習をするとよい。大問3の誤り指摘は、東邦大や東北医科薬科大の過去問を利用する。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数と式	I 対称式・交代式の値	空所補充	★★☆☆
	数学と人間の活動	A 最大公約数	空所補充	★★☆☆
	対数関数	II 不等式	空所補充	★★☆☆
	平面ベクトル	C 絶対値の最小値	空所補充	★★☆☆
	平面上の曲線	C 双曲線の焦点・接点	空所補充	★★☆☆
2	図形と方程式・積分法	II 放物線の2接線の接点の軌跡で囲まれる部分の面積	空所補充	★★☆☆
3	確率	A サイコロによって六角形の頂点を動く点の確率・条件付き確率・確率漸化式	空所補充	★★☆☆
4	微分法・積分法・微分法	III 定積分で定義される関数の最小値・定積分	空所補充	★★☆☆

大問1の小問集合が5問に増加。大問2～4は難問ではないが作業量が非常に多い。例年、数学A(場合の数・確率)、数学B(数列)、数学Ⅲ(微分法・積分法)、数学C(ベクトル、複素数平面)を中心に出题される。大問は基本事項の問

題から始まり後半は難しくなり、計算量も多め。誘導に乗れば典型解法で対応できるものばかりだが、解法は瞬時に思いつくようにしておき、計算時間を確保する必要がある。日頃から面倒がらずに計算に取り組んでおこう。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問8問 (全分野)	分子の構造・極性、水和物の溶解度、リン酸化合物、気体の溶解度、硫酸・化学平衡、分離、油脂	空所補充・選択	★★☆☆
2	理論	シュウ酸とその化合物に関する総合問題	空所補充・選択	★★☆☆
3	理論・無機	アンモニアソーダ法、アルミニウム(特徴、溶融電解)、スズ(特徴、酸化還元反応)	空所補充・選択	★★☆☆
4	有機	合成高分子(PET、尿素樹脂、生分解性高分子、イオン交換樹脂)	空所補充・選択	★★☆☆

大問4題。大問1は25年度も小問集合8問だったが、解きやすい内容。全体的に計算問題が多く、解きやすい知識問題が要求される。また、空所補充など解きやすい知識問題を確実に得点することが必要。大問2の無機分野では、

それぞれに関連する計算問題もあり総合力を試された。大問4は、25年度版の本項で出題に注意としていた高分子化合物が出題された。普段から標準～応用問題に取り組み、幅広い解答力を身につけておくことが大切だ。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 酵素、光合成	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 遺伝情報の発現、PCR法、サンガー法	選択	★★☆☆
3	生物の環境応答	生物 視覚、光受容体、花芽形成	選択	★★☆☆
4	生物の進化、生態と環境	生物 生物の進化、物質生産	選択	★★☆☆

24年度と同様に大問4題構成のマーク式。各大問が[文1][文2]の2つのパートに分かれていることが多い。そのため、中間が8題のような構成になっている。例年、計算問題、考察問題と

もに5～10問程度出題されるので、それぞれ十分に対策しておくことが望ましい。知識問題は標準的な内容の問題が多いので、早めに片付けて計算問題や考察問題に時間を使いたい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	水平面内の円運動、消費電力、凸レンズによる像、断熱変化と断熱自由膨張の比較、トリチウムの放射性崩壊	選択	★★☆☆
2	力学	水平面上の三角台とその上に置かれた小物体の運動	選択	★★★★
3	電磁気	自己誘導と相互誘導	選択	★★★★
4	熱力学	熱サイクルと熱効率、断熱変化	選択	★★☆☆
5	波動	CD(反射型回折格子)による光波の干渉、虹	選択	★★☆☆

大問5題構成。小問集合では原子を含む全範囲の出題、それ以外の4題は原子以外の各分野から1題ずつ出題される。すべての問題がよく練られており、市販の問題集ではあまり見かけない切り口の問題だ。前半の問題はそれほど難易度は高くはなく、丁寧に解答を進め得点を積み上げた。大問の後半では、前半の問題で分析した結果を用いたり、問題文中のヒントなどを用いて解答する問題が多く、受験生の思考力が試される。後半の問題は難易度が高く、受験生の正答率は低いと予想される。しかし

ながら、試験時間に対する問題数が多いため、各大問の前半をしっかり得点できれば、たとえ後半の問題が解けなくても合格点に達することができると思われる。過去問演習は試験時間を意識しながら行い、各大問の前半部分をまずしっかりと解き、その後後半の時間がかかる問題を解き進めるなど、問題の解き進め方などを事前にシミュレーションしておきたい。また、大問1の小問集合には時間がかかる問題が多いため、解答に時間がかかりそうならば後に回した方が賢明だろう。

国際医療福祉大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

大問1の文法・語法問題は純粋な英文法の問題が出題されるため、まず英文法の参考書である『エバーグリーン』を学習し、準拠版のトレーニングで確認しておきたい。その他に語彙や熟語も出題されることもあるので、仕上げとして『ネクスト・ステージ』は欠かせない。大問2の語句整序に関しては、今年度比較的容易であったが、難しい年度もあるので、特化した問題集を1冊仕上げておきたい。『良問500整序作文編』がよいだろう。大問3の誤り指摘は難易度が高く、文法の誤りだけでなく、文脈上の誤りを指摘する場合があるので、市販の問題集よりも、同形式である東邦大学や東北医科薬科大学の過去問を利用した方がよいだろう。誤り指摘が苦手な生徒は『良問500語文訂正編』で慣れてから入試問題に取り組むとよい。読解問題は読解内容も語彙もレベルが高いので、『やっておきたい700』や『私大医学部の英語・長文読解』で慣れてから本学の過去問に取り組むべきである。内容は難しいが、選択肢はそれほど難しくないで過去問で十分選択肢の吟味の仕方をマスターすれば合格点に近づくのではないかと。段落補充の練習をしたい場合は2020年度以前の順天堂大学の過去問を利用できる。

【数学】

まず、『チャート』などの標準的な参考書を使って、定型的な問題は確実に解けるようにしておく。時間が厳しいので、やることを決めたら正確に素早く処理していく練習を重ねておきたい。特に数Ⅲの微積分の計算はスムーズにできるまで練習しておくべきであろう。マーク形式・誘導形式の同形式である東北医科薬科大学、杏林大学、川崎医科大学の過去問に取り組むのも有効である。

【化学】

マーク形式。第1問が小問集合（全分野）。高分子は天然・合成高分子ともに対策しよう。『エクセル化学〔総合版〕』などで計算力をつけておく。正誤問題対策として、参考書で精緻な知識を身につけておこう。また資料集の各種グラフも重要である。有機化学は生成過程と計算が多い。標準レベルの出題が多いため、本番では焦らず解こう。本学の過去問を解きつつ、帝京大学、北里大学などの過去問に取り組んでおくとうい。

【物理】

大問の前半部分の基本的な問題については、市販の標準レベルの問題集（「良問の風」「名問の森」など）をやり込めば十分対応できるだろう。しかしながら後半の問題については、作題者の意図を的確に読み取り、大問前半の結果などを用いて解答していかなければならない。これを対策するには、問題集を用いるのではなく、実際の入試問題に取り組むしかない。本学過去問はもちろんのこと、国公立の旧帝以上の大学（阪大、東北大、名大など）の過去問を用いて、分析力、思考力を養っていただきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を短時間で確実に解く力をつけること。考察問題が苦手なら『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』、計算問題が苦手なら『ゼロからはじめる計算問題の解き方』や『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』を使って苦手を克服するとよい。

杏林大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	—	文整序	選択	★★☆☆
4の1	読解	人文・社会系 約350語	「成功する組織に必要なもの」(内容一致・空所補充・文補充)	選択	★★☆☆
4の2	読解	社会系 約300語	「少数のリーダーについていく動物」(内容一致・指示語選択・同意語選択・空所補充)	選択	★★☆☆

出題形式・難度ともに変化はない。大問1・2は標準的で、入試標準レベルの文法・語句整序の問題集を仕上げれば十分対応できる。大問3の文整序は、機能語をヒントに英文を並べ替える問題がやや難しいが、会話文の並べ替えは易しいため全体的には標準だ。大問4の読解問題も300

語程度の英文が2題出題されるのみなので、速読より精読を重視する。読解内容はそれほど難しいわけではないが、じっくり読む時間があり選択肢は易しいので高得点が狙える。大問3・4の読解問題対策として、読解演習では機能語や代名詞を意識して論旨の展開を考えて読むとよい。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、 化学合成細菌、きのこ、原核生物と真核生物、 グルコース、パンプレリン、ジベレリン、 ウニの受精・発生、転写、生物の出現	選択	★★☆☆
2	生態と環境、生物の特徴、生命現象と物質、 遺伝情報の発現と発生	生物基礎、 生存曲線、ミクロメーター、光合成、 母性因子	選択	★★☆☆
3	生物の環境応答	生物	選択	★★☆☆
4	生命現象と物質	生物	選択	★★☆☆

24年度と同様に大問4題構成のマーク式。大問1は小問集合が続いており、基本的な問題が多いので、正確な知識で早く処理したい。近年は5問未満と減少傾向にあるが、計算問題は毎年出題されるので、典型的な計算問題の

演習を積んでおくとうい。考察問題も5〜10問程度出題されることが多いが、時間に余裕があるのでじっくりと考えることができる。ただし、油断せずに対策はしておこう。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法	Ⅱ	4次方程式の実数解の個数、二重接線	★★☆☆
2	微分法の応用、 積分法の応用	Ⅲ	微分可能、曲線と接線で囲まれる部分の面積	★★☆☆
3	(1) 積分法の応用	Ⅲ	体積	★★☆☆
	(2) 確率、数列、極限	A、B、Ⅲ	確率漸化式、最大、極限	★★☆☆

25年度は、数学Ⅱ・Ⅲの微分法・積分法からの出題が中心だった。計算量はあるものの、大問1・2のような解きやすい問題を確実に得点することが重要だ。例年はハイレベルな有名テーマが誘導形式で出題され、計算量が多い。また、1題は初見の問題が出題されるため、そこ

で時間をかけすぎないことが重要だ。全範囲の基本的な解法を習得した後、過去問などを使って時間配分や誘導に乗ることを意識した練習をしておくとうい。完答を狙わずに解きやすい問題から確実に解いていく姿勢も大切だ。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	原子	統一原子質量単位、原子核反応、半減期	選択	★★☆☆
2	力学	ばねの両端に接続された2物体の運動	選択	★★☆☆
3	電磁気	半導体、ダイオードを含む直流回路	選択	★★☆☆

18年度以降、小問集合2題と力学、電磁気から各1題の大問4題構成が続いていたが、25年度は力学、電磁気、原子の3分野からの出題となった。この変更に伴い、問題の分量も例年よりは減少したが、試験時間50分の分量としてはまだ多め。難度は標準的だが、大問1「統一原子質量単位の定義」、大問2「半導体の知識」など、知らなければ解答できないような知識問題が出題された(過去5年、このような出題はなかった)。問題の

構成変更に伴い、このような知識問題も今後増えてくることが予想されるので、日頃から知識の整理・確認を行っておきたい。また、年度によっては難度が高い問題、計算が煩雑な問題が数問出題されることがあり、この手の問題で多くの時間を費やしてしまうと「正答できなければならない問題」に取り組みなくなる可能性がある。典型問題から手際よく解答を進めていくなど、試験時間の使い方を事前に研究しておくとういだろう。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	無機、有機	炭素とケイ素、異性体、アルコールの脱水	空所補充・ 選択	★★☆☆
2	理論	結晶格子、沸点上昇、気体の状態、凝固点降下	選択	★★☆☆
3	有機	カルボン酸、エステル、有機化合物の性質、油脂のけん化	選択	★★☆☆
4	理論	溶解度積 (Al^{3+} 、 Zn^{2+} 、 Cu^{2+})、pH 依存性、錯イオン	選択	★★☆☆

大問4題。大問1の小問は2問減少した。合成高分子化合物の出題がなく、後半に向かって難度が上がる内容だった。25年度は大問4のできが決め手だった(良問)。解答時間に対する解答量は他大学より多くないが、「1つ選択」以

外に「すべてを選択」形式に時間をかけすぎないように注意したい。化学物質の特徴や反応性をマスターした上で、定量的な計算・グラフ問題をしっかりと対策しよう。過去問で2科目100分と、その出題量に慣れておこう。

杏林大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

全ての土台として『ターゲット1900』をしっかり覚える。大問1・2対策として『ネクスト・ステージ』『英文法ファイナル・標準編』をそれぞれ演習する。大問1と2どちらも標準レベルであるため、この2冊をしっかり学習すれば問題ない。大問4・5の読解もここ2年は300～400語と非常に短く、2つのうち1つは内容も易しいので、『やっておきたい英語長文300・500』を演習すれば十分対応できる。解答時間に余裕があるので、速読より精読重視の学習を心掛ける。唯一苦勞すると予想されるのが、大問3の文整序である。このような問題を扱う問題集はあまりないので、まず東海大学の過去問（例年大問5で出題される）で基礎を確立し、最終的には本学の過去問を演習する。その際に機能語や代名詞を意識しながら解答する。また通常の読解演習をする際にも、ただ問題を解くだけでなく、論旨展開のフローチャートを作るとよい。（英語長文出題パターン演習には解説にあるので確認に利用できる）大問3が合否を分けると思われるので、普段から文整序を意識した学習を心掛ける。

【数学】

『チャート』や『チョイス』といった標準的な参考書や問題集を使って定型的な問題の解法を習得し、瞬時に頭に浮かぶようにしておくことが必要である。問題毎の難易度に差があるので、全問完答を狙わずに解きやすい問題から確実に解いていく、少し考えて解法の見当がつかないものは潔く捨てる、などといった姿勢も必要である。本大学の過去問や獨協医科大学・川崎医科大学などの過去問を使って、時間配分や誘導に乗る練習をするのも有効である。

【化学】

マーク形式。2科目100分でスピードを要する。小問集合の出題が多い。『エクセル化学〔総合版〕』で総合的な解答力をつけておく。理論では、気体、溶液、化学平衡などの実験問題の出題が多い。25年度は大問4の溶解度積で差がついた。天然高分子が多かったが、24年度は合成高分子だったため、今後の出題に備えよう。各項目の用語や構造の把握をしておくとうい。マーク形式の他大学の過去問（日本大学、埼玉医科大学、北里大学等）も効果的である。

【物理】

2025年度は大幅に問題構成が変わった。小問集合が無くなり、大問3題構成となった。2024年度入試までは、試験時間50分に対する問題数が非常に多く、また難易度が高い問題が数問出題されていたため、試験時間内に全ての問題に取り組むことが非常に困難であった。しかし2025年度入試では、問題数も減少し、また難易度が高すぎる問題も出題されなかったため、例年に比べると時間的な余裕をもって解答できたと考えられる。しかしこの傾向が次年度以降も続くとは限らない。2024年度以前の入試傾向への揺り戻しがあることを想定し、過去問を用いた試験時間の使い方の研究（捨て問と正答できなければならない問題の見極め、解答する順番などのシミュレーション）を必ず行っておきたい。本学の入試問題の難易度は、多くが標準レベルであるため、入試標準～発展レベルの問題集（名問の森程度）をしっかり解けるまでに仕上げておけばいいだろう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。さらに、頻出するグラフ選択の問題では考察型と知識問題の両方が見られる。この対策としては、過去問を使って慣れておくだけでなく、普段から典型的なグラフを学ぶ際、軸の目盛り、単位、おおよそのスケールなどを意識して学習しておくとうい。頻出の計算問題対策と兼ねて、『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』がよいであろう。

慶應義塾大学

2025年度 入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文系 約800語	「正しい是非とは」についての長文問題(和文英訳・英文和訳・空所補充・内容説明・同意表現)	選択・記述	★★★☆☆
2	読解	人文系 約800語	「何でも答えてしまうAIチャットボット」についての長文問題(語形変化・空所補充・和文英訳・同意表現・英文和訳・内容説明)	選択・記述	★★★☆☆
3	英作文	—	「日本を訪問する外国人の旅行者が増えている理由」についての100語程度の自由英作文	記述	★★★☆☆

読解問題2題、自由英作文1題の計3題からなる出題形式に変化はない。読解内容がわかりやすくなり、設問の難度は高くない。しかし、和訳、英作文、内容説明などの記述問題と空所補充、内容一致の選択問題があり、文法と内容理解が高いレベルで要求される。そのため語彙

力を高め、文法の本質をつかんだ上で、精読中心の学習を心がける。慣れれば必ずと読解スピードは上がるはず。自由英作文は100語程度で、テーマも最近の話題が多いため、それほど苦勞することはないが、短い時間で書けるように形式を決めておくこと。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	生物の特徴、 生物の進化、 生命現象と物質	生物基礎、 生物	半細胞生物・多細胞生物、系統、代謝	空所補充・選択・ 記述・描図	★★★★☆
2	体内環境の維持、 生命現象と物質	生物基礎、 生物	ヒトの ABO 式血液型	空所補充・選択・ 記述・描図	★★★★☆
3	生命現象と物質	生物	ミオシンによる原形質流動	空所補充・選択・ 記述	★★★★☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。例年、考察問題と論述問題が中心となっている。24年度と同様に25年度も描図問題が出題された。描図問題の出題率が高いので練習しておきたい。例年、難度の高い考察問題が複数出題さ

れることが多く、さらに問題量が多いため短時間で解くことが要求される。本学の過去問や難関国公立大の過去問を使って、難度の高い考察問題や論述問題の演習を十分にしておく。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	統計的な推測	B 正規分布	空所補充	★★★☆☆
	統計的な推測	B 確率密度関数	空所補充	★★★☆☆
	積分法的应用	Ⅲ 区分求積法	空所補充	★★★☆☆
	複素数平面	C 3次方程式の解を頂点とする三角形の面積	空所補充	★★★☆☆
2	数と式、 数学と人間の活動	I、A 有理数と無理数	記述	★★★☆☆
	確率、数列、 統計的な推測	A、B 確率漸化式、期待値、分散	空所補充	★★★☆☆
3	式と証明、微分法、 積分法的应用	Ⅱ、Ⅲ 合成関数、因数定理、3次関数の極値、接線、 定積分で表される関数の最大	空所補充、記述	★★★☆☆
4	図形と方程式、 空間ベクトル	Ⅱ、C 反射による点の位置	空所補充	★★★☆☆

4年ぶりに論述形式の問題が出題された。大問2は、21年度を除き10年以上出題されている確率。25年度に変更のあった共通テストの影響からか、数学Bの統計的な推測からの出題があった。例年は問題の難度に開きがあり計算量も多いため、解答可能な問題を見極める力が必要。

大問1の小問集合は基本的な問題が中心で落とせない。大問2は確率がほぼ確実に出題されるので、過去問の演習が有効だ。後半の総合的な問題はレベルが高く、解法の丸暗記では通用しない。難関大の過去問で思考力を養っておくこと。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	小球の床との繰り返し衝突、放射能・放射線の単位	記述	★★★☆☆
2	電磁気	磁場計測法の研究	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
3	熱力学	大気温度の高度依存性	記述	★★★☆☆

例年通り、大問3題構成。大問1の小問集合は、本学の受験生であれば十分に完答が狙える難度。ただし、放射能、放射線の単位について問われており、その知識がないと解答することができない。24年度にも可聴音の範囲が問われたりと、知識問題が頻出なので、日頃から用語や重要な物理定数の値などを覚える癖をつけておきたい。また、大問2・3は深い分析力、思考力が試される内容となっている。また、解答の過程を記述しなければなら

ない問題も多く、ただ答えを出すだけではなく、他者に自分の考えを簡潔に、また論理立てて伝える力も要求される。大問2・3は、難度が例年高く、すべての問題に対応することは困難を極める。過去問などを利用し、問題の意図を正確に把握する力を養い、その上で解きやすい問題から着実に正答していく訓練をしておくことだろう。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	有機	芳香族化合物の構造決定と分離	記述	★★★☆☆
2	理論	電気分解、イオン交換膜、アンモニアの性質とエンタルピー	記述	★★★☆☆
3	理論、無機	歴史的化学実験、気体の性質、気体の生成	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

大問3題。大問1は芳香族の構造問題で、設問数が多かった。大問2は電気分解やアンモニア由来の水素の製造方法、大問3は17世紀における空気組成気体に関する化学実験で、どちらにも導出過程や理由の記述があった。

25年度は小問集合がなくなった。易しい問題に時間をかけず、合否を決める問題に集中してスピード感を持って解いていこう。参考書の読み込みや実験観察を含む良問の演習を通して、総合的な解答力を鍛えておきたい。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

慶應義塾大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

今年度も長文内容は理解しやすく、しっかり勉強してきた生徒にとっては取り組みやすい問題ではある。とはいえ易しいというわけではない。まずこのレベルの英文をスムーズに理解できるようにするためには語彙力を高めなくてはならない。そのためには『ターゲット1900』はもちろん『鉄緑会英単語・熟語 鉄壁』も利用する。その際に注意することは見出し語だけではなく、派生語までしっかり覚える。空所補充で単に挿入するだけではなく語形を変える問題もあるため、準動詞は特にしっかり学習しておきたい。本学の特徴として挙げられるのが記述問題の多さである。さらにこれらが合否の鍵を握るため、十分に対策を立てる必要がある。まず『英文熟考上・下』で英文の解釈力をつける。次に『やっておきたい英語長文700』や『1日40分の英語長文』で、指示語の内容を考え、内容説明や英文和訳を中心に演習する。和文英訳はそれほど難易度が高くないので、市販の標準レベルの英作文問題集を1冊仕上げれば十分である。長文中に出題される和文英訳対策はZ会の『英作文のトレーニング必修編』を、自由英作文対策はZ会の『自由英作文のトレーニング』を演習したのち、100語程度の英作文を書くためのフォーマットを作っておくと、時間内に解答するのに役に立つ。記述問題が多いため、作成した答案を学校の先生や塾の講師など受験の専門家に評価してもらうとよい。

【数学】

確率は、過去問の研究を十分にしておくことが大切である。微積分は、最難関国公立大学レベルの総合的な問題で実力を養っておくとよいであろう。論述形式の出題はないが、『やさしい理系数学』、『理系数学 入試の核心 難関大編』、『医学部攻略の数学』等で難関大のハイレベルな定型問題に取り組んでおくことよい。時間内に解答可能な問題を見極める訓練もしておこう。

【化学】

記述形式。新規性のある内容への解答力を身につける。歴史上の重要な化学実験の出題も多い。普段から『フォトサイエンス化学図録』のデータや『化学の新研究』のScience Boxなどを読み込み、『化学の新演習』をスピーディーに解けるようにしておく。日頃から丁寧に導出過程を論述するようにしよう。難関大学の過去問（東京大学、東京慈恵会医科大学、順天堂大学）を年度を遡って演習しておくことが必須である。各大学別の模試にチャレンジしたり、最新トピックスを深掘りして利点・問題点などを把握しておこう。

【物理】

本学入試では、まず大問1の小問集合を確実に得点したい。大問2, 3については、難易度が非常に高く、市販の問題集を用いた対策はあまり効果がない。大問2, 3に対応する力を養うためには、まずは早い段階（受験年の夏くらいまで）で市販の標準的な問題集（名問の森、重要問題集など）を終わらせ、典型的な問題の解法をマスターし、その上で、本学過去問や同様の入試問題レベルの大学（滋賀医科大学、東京慈恵会医科大学、東大、京大、東工大など）の過去問を用いて、問題文から状況を分析し、解答を進めていく（誘導にのる）訓練を積んでいくとよい。

【生物】

教科書レベルの知識は完璧にマスターした上で、それを応用して考える必要のある問題が出題されている。教科書の傍用問題集レベルの問題集をなるべく早めにほぼ完璧に解けるようにする必要がある。その後『思考力問題精講』『実戦生物実験・考察問題集』『生物新・考える問題100選』などに取り組んで思考力・考察力を高めるとよい。さらに本学の過去問を5年分程度取り組み、できれば旧帝大レベルの国公立大学の最近2～3年程度の過去問も演習しておきたい。また、日頃から最新のトピックスにも触れておくことよい。

順天堂大学

2025年度 入試分析

英語

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学系 約1,050語	「概日リズムの乱れが引き起こす様々な問題に関するインタビュー」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
2	読解	人文・社会系 約650語	「若いチンパンジーの衝動行動」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
3	読解	人文系 約650語	「手書きの大切さ」についての長文問題(同意語選択・内容一致・空所補充)	選択	★★★☆☆
4	読解	科学系 約850語	「健康の鍵を握る様々なビタミン」についての長文問題(同意語選択・内容一致・主題選択)	選択	★★★☆☆
5	英作文	—	「遺伝子操作で作られた子供を受け入れるか否か」についての自由英作文	選択	★★★☆☆

読解問題4題、自由英作文1題の大問5題からなる形式に変化はない。しかし、25年度はほぼ同意語選択と内容一致の出題で、過去にあった段落・文補充などは出題されなかったため、かなり解きやすくなった。対策としては、語

彙力を付けることが最優先。次に、長文を読む際に段落要約を意識すること。80分で解くことを考えるとやや時間が不足するため、過去問を利用して時間内に解答する練習が必要だ。

数学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数列、極限	B、Ⅲ 無限級数、1より小さい最初の項	空所補充	★★★☆☆
	空間ベクトル	C 点の描く図形の面積	空所補充	★★★☆☆
	複素数と方程式	Ⅱ 相反方程式	空所補充	★★★☆☆
	集合と命題	I 必要条件・十分条件	空所補充	★★★☆☆
2	微分法	Ⅱ 3次関数の決定	空所補充	★★★☆☆
3	極限、積分法的应用	Ⅲ 漸化式、極限	記述	★★★☆☆

現在の形式になった10年度以降、13・15・22年度を除き大問3で証明問題が出題されている。時間的には厳しいので、確実に解き切れる問題から取り組んでいく必要がある。年度によって問題の難易度の開きが大きいので、解くべ

き問題の見極めも重要な要素になる。計算量が多い年度もあるので、典型問題は見てすぐ解き始めることができるようにしておくこと。難関大の過去問でハイレベルなテーマに触れておくとういだろう。

化学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 非常に多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	地殻の元素・半減期、電気泳動、ハロゲン(溶解度・ヨウ素価)、アボガド口定数、鉄の反応	選択	★★★☆☆
	有機	ペプチドのアミノ酸配列、検出反応、異性体	選択	★★★☆☆
	理論	二段階の電離平衡、アミノ酸の電離平衡と官能基の電荷の状態	選択	★★★☆☆
2	理論	溶解度積(モル法)、塩化物イオン濃度指数 pCl	記述	★★★☆☆

大問2題。大問1(第1～3問)はマーク式、大問2は記述式。大問1の第1問は解きやすくなり、合格するためには第2問とともに完済したい。それに続く第3問と大問2は差がつく内容だが、時間が確保できると正答率を上げられ

ただろう。正答可能な問題を即答し、計算量や記述量(25年度のグラフ描画・論述50字)が多いものに取り組もう。マークと記述の併用形式に慣れるため、過去問やメディカルラボの実力判定テストを活用しておこう。

生物

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の多様性と生態系	生物基礎 バイオーム	選択	★★★☆☆
	遺伝情報の発現と発生	生物 両生類の発生	選択	★★★☆☆
	遺伝情報の発現と発生	生物 昆虫の遺伝	選択	★★★☆☆
2	生態と環境	生物 物質収支	空所補充・記述	★★★☆☆

24年度と同様に大問2題構成のうち1題は中間3題からなるマーク式、もう1題は記述式。大問1は、考察問題が含まれる場合があるものの、比較的解きやすい問題のみの場合が多いので、なるべく早く片づけたい。記述式の大問2

は、論述問題や計算問題が含まれることが多いので、ここでじっくりと時間をかけて考えたい。また、グラフや図、表を使った問題が例年多いので、扱いに慣れておく必要がある。

物理

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	中間3題 (小問集合、力学、熱力学)	小問集合(剛体のつり合い、鉛直面内の円運動、正弦波の式、波の屈折、定圧変化、ガウスの法則)、ばねにつけられた木片とそれに打ち込まれた弾丸の運動、球形容器に入れられた粒子と光子に対する気体分子運動論	選択	★★★☆☆
2	電磁気	磁場中の金属棒の電磁誘導	空所補充・記述	★★★☆☆

本学の大問構成は独特で、例年、大問1は中間3題で構成され、マーク式。中間のうち1題は小問集合で、原子を含む全範囲から出題される(25年度は原子からの出題なし)。残り2題は力学、波動、電磁気、熱力学のうちの2分野で構成される。25年度は力学、熱力学からの出題。また、大問2は1分野からの出題で、記述式。まずは過去問を用

いて、独特の問題構成に慣れておきたい。問題の難易度自体はそれほど高くないが、解答時間に比して設問数が多く、年度によっては思考力を要する問題も出題されるため、時間に余裕を持って解答することは難しいだろう。解けそうな問題からきばきと解答するなど、試験時間の使い方には十分に注意が必要だ。

順天堂大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

本学では文法語法に関する問題がほぼ出題されず、大半が同意語選択と内容一致であるため、語彙力をつけることが最優先である。まずは『ターゲット1900』で土台を作り、『鉄緑会東大英単語熟語鉄壁』などでさらに高いレベルの語彙を習得する。十分な語彙力を習得した後で、読解対策として『やっておきたい英語長文700』や『英語長文出題パターン演習3』を利用して制限時間内に解答することに重点を置く。メディカルラボの生徒であれば、チェックテスト読解のスタンダードAやハイレベルAを利用してもよい。自由英作文対策として、まずは『総合英語エバングリーン』を読み、英文のルールを最低限理解する。その際理解度を確認するために『文法を身につけるトレーニング』を利用するとよい。次に『Z会英作文のトレーニング・自由英作文編』を演習して、型を作っておくとよい。最後に本学の過去問で時間内に解答できるように繰り返し練習しておきたい。

【数学】

問題を見てからじっくりと考える時間はないので、典型問題は解法が瞬時に浮かぶようにしておくことが必要である。かなりの計算が必要な問題が多いので、要領の良い計算をする練習もしておこう。空所補充、記述とも細かいところを気にせず解答した方がよい。得点することに没頭すべきである。過去には幅広い範囲から出題されているので、全範囲でハイレベルな演習に取り組んでおこう。本大学の過去問と同時に、国公立大、私立大を問わず、難関大の過去問に取り組んでおくのもよいであろう。

【化学】

前半がマーク、後半の記述形式で様々な分野が扱われる。近年、合成高分子の出題がない。まず過去問を解いて、解くべき問題を見定めておく。かなり計算量とスピードが求められるので、普段からしっかり計算練習をしておこう。『化学の新研究』で深い理解を進めて『化学の新演習』で実力をつけておく。また合否を分ける問題への対応には難関国公立大学の過去問が効果的である。メディカルラボ『私立医学部大学別実力判定テスト 順天堂大学医学部』も活用しよう。

【物理】

問題の難易度自体は、本学のレベルを考えるとそれほど高くはない。まずは典型問題が多く掲載されている市販の問題集を完璧に仕上げるのが大切である。問題自体はそれほど難しくないが、試験時間に比して問題量が多いので、あまり時間のかからない問題と、難易度が若干高く時間がかかりそうな問題の見極めが重要となってくる。過去問演習の際には、解答の順序を工夫したり、計算問題は後に回したりなど、短い時間でより高い得点率が見込めるための戦略を練っておきたい。一般に、大問1の小問集合は解答に時間がかかる傾向にあるため、まずはそれ以外の問題から手を付けるとよいだろう。

【生物】

マーク式である大問1は標準的な知識問題が中心になっているので、ここで点数をしっかりと取りたい。そのためにも教科書の傍用問題集レベルの問題を正確に解けるようにする。さらに『理系標準問題集』『良問問題集』などに取り組んで知識を強化する。大問2では論述問題も出題されるので、『記述・論述問題の完全対策』などで題意を正確にとらえて解答する練習を行っておきたい。計算問題も出題されることが多いので、忘れずに対策しておきたい。独特な問題の構成なので、過去問で時間の使い方の練習もしておくこと。

昭和医科大学

2025年度 入試分析

英語(1期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の題数 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	読解	科学系 約650語	「いつでも正しいわけではない科学」についての長文問題 (語句整序・空所補充・内容説明)	選択・記述	★★☆☆
3	読解	人文・科学系 約700語	「単語の意味に反応するニューロンの解明」についての長文 問題(文補充・空所補充・誤り指摘・内容説明・要約)	選択・記述	★★★★

24年度と大きな変化はない。大問1の文法問題で例年出題されていた難問はほぼ姿を消し、標準的な問題となった。読解問題は24年度と比べて読解量が大幅に減少し内容も標準的だったが、大問3の記述問題では内容説明だけでなく全文の要旨も出題されたため、やや難とした。文法・語法・熟語・語彙については難問が

年々減っているため、これらへの対策は得策ではなく、標準的な問題を確実に正解できるようにした方がよい。読解問題対策としては700語程度の標準的な問題集を1冊仕上げ、大問3対策として国公立大の2次対策問題集で演習するとよい。解答時間は英語・数学合計で140分なので、過去問を使って時間配分を考えておく。

化学(1期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、有機	タンパク質の構造と反応性、アンモニア逆滴定	空所補充・記述	★★☆☆
2	有機	芳香族エステルの異性体、構造式、化合物の名称、呈色反応	空所補充・記述	★★☆☆
3	有機	陽イオン交換樹脂の合成反応、スルホン化、カルシウムイオンの定量	空所補充・記述	★★☆☆
4	理論	捕集した気体の定量、ダニエル電池、化学平衡、ナトリウム塩の定量、体心立方格子	記述	★★☆☆

大問4題。有機の割合が増えたが、大問4の理論を含めて全体的にレベルの変化はなかった。大問2は24年度の大問1とほぼ同じで、過去問を解いた受験生から驚きの声があった。時間に余裕がないため、空所補充を手短かに解い

て計算を進める必要がある。例年、小問集合は理論の計算問題が扱われ、頻出の化学平衡や電気化学では計算力が必要となる。有機分野も知識だけでなく高度な計算力をつけよう。1期と2期の過去問をしっかりと解いておくこと。

数学(1期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	複素数平面	C	ド・モアブルの定理、絶対値、三角形の面積	★★☆☆
2	数学と人間の活動	A	最大公約数、割り算	★★☆☆
	式と証明	II	整式の除法	★★☆☆
	積分法の応用	III	不等式が表す領域の面積	★★☆☆
	積分法の応用	III	数列の和の整数部分	★★☆☆
3	積分法の応用	III	四面体の表面積の最大、回転体の体積	★★☆☆
4	確率	A	ランダムウォーク、最大	★★☆☆

全問が結果のみを答える問題。25年度は難度に差のある問題が出題された。形式の変更はあるが、17年度以降は大問3・4で場合の数、確率、数学Ⅲの積分法が出題されている。問題量も計算量も少なめなので高得点が必要だ。基本的な問題や有名問題が中心で、幅広い分野から出題されているため、全範囲に

わたって穴のない学習が不可欠。難問を解くよりも典型問題を迅速かつ確実に得点することが要求される。また、数学Ⅲからの出題が多い年度もあるので、微分法・積分法の計算などもしっかりと押さえておきたい。英語と合わせて140分のため、時間配分にも注意すること。なお、国語との選択となっている。

生物(1期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	遺伝情報の発現と発生	生物	独立及び連鎖の遺伝問題、染色体地図	★★☆☆
2	生物の環境応答	生物	骨格筋	★★☆☆
3	生物の特徴	生物基礎	グリフィスの実験、エイプリーの実験、ハース・チェイスの実験	★★☆☆
4	生物の環境応答	生物	脊椎動物の眼	★★☆☆

24年度と同様に大問4題構成の記述式。本学では頻出だった描図問題が24年度に続き25年度も出題されなかった。計算問題は4年連続で出題されている。また、比較的短めの字数で知識論述問題がほぼ毎年度出題されている

が、24年度に続き25年度も1問を除き字数制限がなかった。字数制限については今後どのようなようになるかわからないが、論述問題が頻出なことには変わらないので、必要な内容をコンパクトに要約して論述する訓練をしておくこと。

物理(1期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	波動	音源が円運動する場合のドップラー効果、衝撃波	記述	★★☆☆
2	力学	接触している2物体の単振動	記述	★★☆☆
3	電磁気	RLC直列交流回路	記述	★★☆☆
4	波動	薄膜の干渉	記述	★★☆☆

大問4題で構成され、例年、大問に分野の重複が見られる。大問1・4は波動からの出題だったが、近年は力学からの出題が多い。25年度は大問1(5)・(6)の難度が多かったが、それ以外は標準的なレベルの典型問題。試験時間に対する設問数も多かったことから、例年より高得点の争いとなっただろう。しかし、過去には難度が高い問題も出題されており油断はできないので、過去問演習を通じ

て難度の確保はしておきたい。また、24年度の大問1「水飲み鳥の原理」、23年度の大問2「バットの持ち上げ」「無重力環境下の質量の測定」のような論述問題も出題されている。これらの問題は解答を作り上げるのに非常に時間がかかるため、本番では復讐しにいた方がいだろう。また、19年度まで出題が続いていた微分法・積分法を用いた物理現象の解析についても、過去問で解き慣れておきたい。

昭和医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

『ターゲット1900』などの単語帳を利用して語彙を増やし、『ネクスト・ステージ』の文法・語法・語彙・熟語の分野を中心に学習する。これは大問1の文法・語法・語彙の対策となるのと同時に、長文中で問われる空所補充、同意語選択、語句整序の対策にもなる。さらに長文読解の土台にもなるため、語彙力と文法・語法力をつけるのは必須である。難問を意識し過ぎず標準的な問題を確実に正解できるような学力をつける。長文2題のうち1題は600～700語程度の英文であるため市販の『1日40分の英語長文』や『やっておきたい英語長文700』などを利用して学習する。100字以上の日本語による内容説明や今年度のように要約問題が出題されるため、国公立2次の過去問（東北大学・名古屋大学など）を利用して、解答作成の練習が必要。さらにこれらの大学（昭和医科・東北・名古屋）の長文に共通する非常に学術的な内容を理解できるだけのメンタリティ（ものの考え方）を身につけることができるとなるとよい。

【数学】

『チャート』などの標準的な参考書で全範囲の定型的な問題の解法を習得した上で、『チェック&リピート』や『チョイス』といった標準的な問題集を使って、素早く正確に解く練習を十分にしておくべきである。スピードとケアレスミスの多少が合否の分かれ目である。英語との時間配分も重要な要素であるため、過去問に取り組む際は英語と数学を同時に行うとよい。

【化学】

記述形式。有機と理論の出題がメイン。近年、無機の出題がない。有機では芳香族、油脂、糖、アミノ酸・タンパク質がよく出題されている。理論は小問形式の計算が頻出だが、過去の類題（結晶、酸塩基、酸化還元、電気化学など）や大問で出題されることがある。過去問をチェックして計算精度を高めておこう。『化学重要問題集』で標準レベルを習得し、『化学の新研究』のScience Boxで詳しい知識を取り入れよう。I期・II期の過去問に取り組んでおくとよい。

【物理】

2025年度入試は非常に解きやすい印象であった。2025年度の難易度が継続されるのであれば、市販の標準レベルの問題集解き込むだけで、十分合格点を獲得できる力はずくだろう。しかしながら、過去の難易度に戻る可能性が否定できないため、2024年度以前の入試レベルを1度確認しておくとうよい。難易度が高い問題が解けるようになるための対策を具体的にとるというよりは、難易度が高い問題が出題されても落ち着き、それらの問題を後に回し標準レベルの問題で取りこぼすことがないよう、解答していけばよい。

【生物】

知識問題、論述・考察問題ともに、かなり細かい知識が必要となる問題が含まれることもある。特に、「体内環境」、「細胞分裂」、「動物の反応」、「タンパク質の機能」、「遺伝情報とその発現」といった医学に関連が深い頻出分野については資料集を隅々まで読むような深く広い勉強をしておくとうよい。それに加えて、「生態と環境」、「生物の進化と系統」の分野の標準的な問題もとりにこぼしなく解けるようにしておくこと。また、論述問題と計算問題は頻出なのでしっかりと対策しておきたい。最近2年間は出題されていないが、以前は描図問題もよく出題されていたため、有名なグラフや図は教科書や資料集を参考にして書けるようにしておくとうよい。

帝京大学

2025年度 入試分析

英語

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	英文の難易度 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学系 約700語	「チャットボットに頼るメンタルヘルスケア」についての長文問題(内容一致・アクセント・内容説明)	選択・記述	★★☆☆
2	読解	科学系 約550語	「日本人の睡眠問題」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆
3	読解	科学系 約400語	「社会に参加することで健康になる高齢者」(内容一致)	選択	★★☆☆
4	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆

読解問題3題と語句整序からなる例年通りの形式だが、やや易化した。読解内容の専門性は薄れ、正解の選択肢と不正解の選択肢が明らかだったため解きやすくなった印象。読解問題対策としては、内容一致問題と語句の空

所補充の多い読解問題集に取り組むとよい。大問4の語句整序問題は標準的なため、市販の問題集を1冊仕上げれば十分対応できる。受験日によって難易度は変化する可能性があるため注意が必要だ。

化学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	化学平衡、電池・電気分解、金属結晶の単位格子、エンタルピー	空所補充・選択	★★☆☆
2	有機	融点・沸点、酸・塩基、異性体、エーテル合成、メタン合成、元素分析、性質・特徴	選択・記述	★★☆☆
3	理論、無機	物質の取り扱い方、酸化物、ナトリウム化合物の反応、ヨウ素滴定	空所補充・選択・記述	★★☆☆
4	有機	ATP、解糖系に関する物質(NADHなど)、酸化還元反応、発酵(アルコール、乳酸)	選択・記述	★★☆☆

大問4題。25年度も記述式とマーク式の併用。記述式では名称や半反応式が問われた。生命化学系や高分子に関する出題が多いが、25年度は生化学系で扱う「解糖系」が特徴だった。このような出題頻度の低い内容では、見入

って解答時間を浪費しないように設問で求められているところに集中しよう。解答の際、問題の指数表記の指定や数値の記載例をしっかりと把握すること。例年、良問が多いので、数年分の過去問に取り組んでおきたい。

数学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率	A	3つのサイコロの目に関する確率	★★☆☆
	平面ベクトル	C	円のベクトル方程式	★★☆☆
2	三角関数	II	最大・最小、実数解の個数	★★☆☆
3	数学と人間の活動	A	約数・逆数の総和	★★☆☆
	対数関数	II	不等式	★★☆☆
4	積分法	II	積分方程式	★★☆☆
	2次関数	I	絶対値を含む2次関数のグラフ	★★☆☆

25年度は大問4でグラフの図示が出題された。24年度は数学Ⅱのみからの出題だったが、25年度は数学Ⅰ・Ⅱ・A・Cから幅広く出題されている。22年度以降は基本的な問題が中心だが、過去には思考力が必要な問題が出題さ

れたこともある。結果のみを記入する形式なので、計算ミスは致命的。典型的な問題の解法は瞬時に浮かぶように練習しておくとともに、迅速かつ正確に計算する訓練も必要だ。他教科との時間配分も重要な鍵になるだろう。

生物

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	体内環境の維持	生物基礎	ホルモン	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物	呼吸	★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎	免疫	★★☆☆

24年度と同様に大問3題構成で、記述式とマーク式の複合形式。大問1題につき1問ずつ論述問題があり、その他の問題はマーク式。日程によって難易度はかなり異なる場合が多い。免疫に関する問題とバイオテクノロジーに

関する分野が近年、高頻度で出題されている。正誤問題が非常に多いため、正確な知識が必要となる。普段の問題演習で正誤問題を解く際には、誤りの選択肢はどこが誤っているのかを必ず確認する習慣をつけておく。

物理

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	単振り子	選択・空所補充	★★☆☆
2	力学	浮きの運動	選択・記述	★★☆☆
3	波動	レンズ	空所補充	★★☆☆

21年度以降は大問3題構成が続いている。例年、力学、電磁気と、残り1題を波動、熱力学、原子のいずれかが占めていたが、25年度は電磁気からの出題がなく、力学が大問の2つを占める構成となった。解答形式は、記述式と選択式、空所補充の3つが混在する。難易度は基本～標準レベルで、市販の典型問題集や教科書傍用問題集に

しっかりと取り組み、十分に高得点が望める。ただし、25年度は大問1・3のように数値計算が要求され、大問1は計算が非常に重かった。数値計算問題は時間がかかるため、後に回した方が得策だ。試験時間に対する問題量は適量なので、十分に余裕を持って考え、計算する時間を確保できるだろう。

帝京大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

出題される3つの長文はそれぞれ特徴がある。大問1の長文問題は総合型で内容一致だけではなく、発音・アクセントや、下線部和訳と内容説明など記述問題も出題される。大問2の長文問題は例年空所補充のみの出題で、文脈から判断するものが中心である。大問3の長文問題は内容一致のみの出題である。全体的に医療系の英文が多いので、『システム英単語メディカル』で医療単語を覚えたあと、『医学部の英語』を演習するとよい。大問4の語句整序は標準的であるため、『良問500整序作文編』を1冊仕上げれば十分である。内容一致の選択肢は慣れれば、難しくないもので、必ず3年×2回で計6回分の過去問演習をする必要がある。

【数学】

まずは『チャート』等の標準的な参考書を使って定型的な問題の解法を習得した上で、『チェック&リピート』や『チョイス』といった標準的な問題集で問題演習に取り組み、定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておくことが必要である。結果のみを記入する方式なので、計算ミスは致命的である。やや難易度の高い問題も出題される可能性があるので、過去問で経験しておいた方がよい。過去問演習は数学を含めた2科目120分で取り組んでおきたい。

【化学】

24年度からマーク+記述形式。例年、3日間の出題形式は同じである。リード文に空所補充や実験内容が多く含まれるので、迅速な処理が必要である。『エクセル化学〔総合版〕』などを解き、短時間で典型問題を解けるようにしておく。難しめの内容もあるが、計算と知識のバランスがよく良問揃いのため、過去問で複数日を攻略しておくとうい。理論・無機だけでなく、普段から有機の高分子計算において工夫できるところを見い出そう。

【物理】

教科書傍用問題集や「良問の風」のような標準レベルの問題集をやり込めば、十分に本学入試に対応することができる。より高得点を目指すのであれば、発展的な問題集（例えば「名問の森」「体系物理」など）を用いて、難易度の高い問題の経験値を上げておくとうい。2025年度入試のような煩雑な数値計算問題が続くことも予想されるので、25年度入試の過去問を用いて、どの程度の計算が要求されるのかをしっかりと確認しておくう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけておくう。24年度から解答形式が大きく変わってマーク形式中心となったが、正誤問題が今まで以上に増加した。細かく正しい知識が要求されるため、普段の学習から細かいところにも意識を払う必要がある。また20～30字程度の論述問題は相変わらず出題されているので、その対策も必要である。

東京医科大学

2025年度 入試分析

英語

解答形式▶記述／マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 標準

(前年との難易度比較) 変化なし

(時間に対する分量) 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	語彙	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	医療系 約850語	「植物状態とは異なる認知と運動の乖離」についての長文問題(内容一致・空所補充)	選択	★★☆☆
4	読解	社会系 約850語	「職場へ子供を連れてくることを許可する自治体」についての長文問題(内容一致・同意語選択・下線部和訳)	選択・記述	★★☆☆

24年度と大きな変化はない。24年度は計1,200語程度だった大問3・4の読解量が約500語増加したが、設問自体の難易度に変化はなく高得点が必要だ。対策としては主として700語程度のマーク式読解問題集を演習する。特に英字新聞からの出題が多いため、「Japan Times」

や「The Japan News」などを読み慣れしておくことよい。語彙・語句整序・同意語選択は標準問題集で十分対応できるレベル。文法に関する問題はほぼないため、単語・熟語を重点的に学習する。読解量が毎年度変わるので注意しておきたい。

数学

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 易

(前年との難易度比較) 変化なし

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	三角関数	Ⅱ 和積公式	空所補充	★★☆☆
	図形と方程式	Ⅱ 2放物線の2交点を通る直線	空所補充	★★☆☆
	積分法的应用	Ⅲ 絶対値を含む積分	空所補充	★★☆☆
	複素数平面	C 1の5乗根に対する式の値	空所補充	★★☆☆
2	場合の数	A 条件をみたす部分集合の選び方	空所補充	★★☆☆
3	対数関数	Ⅱ 累乗数の桁数	空所補充	★★☆☆
4	積分法的应用、空間ベクトル	Ⅲ、C 平行四辺形を1回転してできる立体の体積、最短距離	空所補充	★★☆☆

20年度以降、大幅に易化し、基本・典型問題が多い。25年度は大問1が小問集合、大問2が場合の数・確率、大問4が空間ベクトルと数学Ⅲの微分法・積分法と、24年度とほぼ同じ単元からの出題だった。例年、計算量も多くなく、基本・典型解法で解ける問題が多いので、参考書に載っている解法を満遍なく

習得して、正確に計算できるように訓練しておくことが効果的。また、マーク式のため、ある程度答えの見当をつけると取り組みやすい。同じ形式の他大学の過去問で練習するのも有効だろう。オイラーの多面体定理といった他大学ではあまり見かけない内容が出題されたことがあるので注意したい。

化学

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 標準

(前年との難易度比較) やや易化

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、有機	光エネルギー、同素体、イオン半径、アルコールの反応、有機化合物の特徴	選択	★★☆☆
2	理論、無機	硫酸(濃硫酸のはたらき、強酸性、溶液の調製、中和反応、電気分解)	選択	★★☆☆
3	理論	塩化アンモニウム水溶液の溶解度、凝固点降下	選択	★★☆☆
4	理論	酸化還元滴定(シュウ酸とニクロム酸カリウム)、pH	選択	★★☆☆

大問4題。大問1は読文選択2題、正文選択2題、組み合わせ1題。「当てはまるものがない」の選択肢が特徴。25年度は有機が小問2問のみで、理論分野の占める割合が高かった。大問3の「共晶」のグラフ問題で差がついた。その他は基本～

標準レベル。物質の性質や用途を分野を超えて理解しておこう。当てはまる選択肢のすべてをマークする際の採点方法は、問題文に記載がある。例年、ほぼ同じ出題形式なので、過去問やメディカルラボの実力判定テストを活用しよう。

生物

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ やや難

(前年との難易度比較) 変化なし

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、生物	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物	選択	★★☆☆
3	生物の環境応答	生物	選択	★★☆☆

24年度から1題減り、以前と同じ大問3題構成のマーク式。かなり難度高い問題が見られた21・22年度と比較すると、23年度以降はやや解きやすくなったものの、私立大医学部の中でも難易度は高い。例年、大問1は小問集合で、ここをテンポよく

処理して、残りの大問に時間を残したい。残りの大問ではデータの読み取りを伴う考察問題が出題されることが多く、解答にかなりの時間を費やさざるを得ない。その中でも知識で解ける問題を素早く片づけ、取れる点数は確実に取っておきたい。

物理

解答形式▶マーク

(問題の全体難易度) ★★☆☆ 標準

(前年との難易度比較) 変化なし

(時間に対する分量) 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	剛体のつり合い、水圧、ダイオードを含む直流回路、光波の屈折、ニュートンリング、放射能	選択	★★☆☆
2	力学	斜面上での小球の放物運動	選択	★★☆☆
3	波動	ドップラー効果	選択	★★☆☆
4	電磁気	RLC直列交流回路	選択	★★☆☆
5	熱力学	熱サイクルと熱効率	選択	★★☆☆

大問数は年度によってバラバラで、25年度は大問5題(24年度は6題、23年度は8題)。大問1では、24年度以前にはなかった小問集合が出題された。小問集合内も含めると、原子を含めた全分野から広く出題される。難易度は基本問題から発展問題まで、バランスのとれた出題。試験時間に対する分

量が多く、すべての問題に手をつけることはほぼ不可能だろう。また、煩雑な数値計算も出題されており、解答時間を奪われる原因となる。比較的難易度の高い問題や計算に時間がかかりそうな問題をしっかりと見極めて後に回し、考えやすい問題を着実に正答していくことが重要となる。

東京医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

第1問と第2問対策として、語彙と語句整序対策は『ターゲット1900』と『英文法・語法良問500 整序作文編』を演習する。第2問の語句整序の傾向は文法中心の出題であったが、年によっては熟語の知識がほぼすべての問題で問われていたので、熟語の暗記も必要。長文読解対策は『やっておきたい英語長文700』や『1日40分の英語長文』の演習するとよいが、英文の出典先はJapan Timesや朝日や毎日のような英字新聞であることが多いため、（今年度は1題がThe Japan News、昨年度は2題共The Mainichiから）、これらの英字新聞から興味のある話題をピックアップし、読み慣れておくとうい。最後に過去問を用いて時間内に解答する練習をする。ただし2021年度以前はやや問題量が多いので、2022年度以降の3年間の演習をしたほうがよいだろう。

【数学】

難易度の高い問題はほぼ出題されないため、『チャート』などの標準的な参考書を使って定型的な問題の解法を習得し、『チェック&リピート』や『チョイス』といった標準的な問題集を使って定型解法は瞬時に頭に浮かぶように練習しておくことが必要である。結果のみを記入する方式なので、計算ミスは致命的である。本大学の過去問や獨協医科大学・川崎医科大学などの過去問を使って、時間配分や誘導に乗る練習をするのも有効である。

【化学】

マーク形式。第1問の小問（正誤問題）には選択肢ごとに計算が必要となる設問もあり、つねに見極められるようにしておこう。高分子は合成より天然が多い。『エクセル化学〔総合版〕』『化学重要問題集』で計算力と知識力を向上させ、実験問題、溶液の濃度計算、気体の圧力に関する問題への対応力もつけておく。特有の出題形式に慣れるために、過去問と併せてメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 東京医科大学』の受験を薦める。

【物理】

本学の物理入試は、分量が非常に多く、おそらく受験生が全ての問題に手を付け、その問題を解ききすることは想定してないのではないかと推察される。よって、“そのような入試問題”として割り切ることは、本学入試に臨むにあたっては非常に重要な心構えとなる。つまり、難易度が高そうな問題は勇気をもって「捨てる」ことが大事である。しかし、難易度の高低を判断するためには、やはり典型的な問題を自力で解けるくらいの力が必要である。よって、「名問の森」程度の入試標準レベルの問題集はしっかりとやり込んでおきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけておこう。大問1の正誤問題では全分野の細かい知識が必要となる。また、大問1以外の実験考察問題の対策として、『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基本的な実験考察問題の考え方を身につけておこう。20年度から傾向が大きく変わったので、これ以降の過去問演習で雰囲気をつかんでおこう。

東京慈恵会 医科大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 難

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療・科学系 約1,000語	「加齢による病気や免疫低下のリスクを予測する炎症時計」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★★☆
2	読解	科学系 約700語	「幼児期健忘症とその原因の考察」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★★★☆
3	読解	医療系 約750語	「人間の身体を商品と見なすべきか」についての長文問題(空所補充・自由英作文)	選択・記述	★★★★★

出題形式は例年通り。24年度より語数が大幅に増え、難解な選択肢が存在するため難化した。読解内容も大問1・3は難解だ。対策としては市販の読解問題集で基礎を確立した後、医療系の英文を細部まで意識して演習する。特に内容一致と空所補充の出題率が高いため、語彙力と

文構造把握力をつけ段落要約をすといよい。英作文は、文脈に沿った英文を記述するものと自由英作文の2種類が出題されるため、それぞれ演習が必要。本学の選択肢は他大学より紛らわしいものが多いので、過去問演習で慣れること。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質、 体内環境の維持	生物基礎、 糖代謝、血糖調節	空所補充・選択・記述	★★★★☆
2	生命現象と物質、 体内環境の維持	生物、 光合成	空所補充・選択・記述	★★★★☆
3	生物の環境応答	生物、 動物の行動	空所補充・記述	★★★★☆
4	生態と環境	生物、 個体群	空所補充・選択・記述・描図	★★★★☆

24年度と同様に大問4題構成の記述式。例年、計算問題が数問出題され、論述問題は大問ごとに数題含まれる。25年度は描図問題も出題された。典型的な計算問題の演習や、論述問題の答えを短時間でまとめる訓練が必要となる。ほぼ

毎年度出題される実験問題のように時間のかかる問題が多いため、できる問題から素早く解いていくことを意識して、過去問演習に取り組むこと。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率	A サイコロの目の積が10の倍数、6の倍数とならない確率	空所補充	★★★★☆
2	積分法的应用	Ⅲ 不等式の証明	記述	★★★★☆
3	数学と人間の活動、 平面上の曲線	A、C 双曲線領域に含まれる円、不定方程式	記述	★★★★☆
4	複素数平面	C 絶対値の値域	記述	★★★★☆

大問2以降は完答が難しい問題が多いが、21年度以降は易化傾向にある。大問2は見慣れた問題だが、見慣れた問題そのままとはいわずに少し苦戦したかもしれない。大問3は例年通り整数問題だった。微分法・積分法、確率、空間図形が頻出で、整数や複素数平面も出題されてい

る。16年度までは計算重視だったが、17年度以降は論理重視になっている。証明問題も頻出で論理性が要求されており、しっかりとした答案を書くことが必要。難関大の典型問題を一通りこなした上で、標準レベル以上の問題集の解答を参考にして答案作成の練習をしておくといよい。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	熱力学	断熱変化・ポアソンの関係式の導出、第2種永久機関	記述	★★★★☆
2	力学、原子	γ 線にはたらく慣性力	記述	★★★★★

22年度以前の約10年間は、生物(人体)や日常生活に絡めた物理の問題が出題されていたが、23年度以降は傾向が大きく変わり、物理の理論的解析が主となった。過去の生物に関連する問題も難度が高かったが、23年度以降の入試はそれ以上に高い。また24年度以降は、問題に「物理の記述問題では、記述内容の深さや脈絡の豊かさに加え

て、それを筋道立てて他者に伝える姿勢を重視する」という文章が追加された。これは24・25年度で出題されたような論述問題を今後も出題し、それを重視することを示唆していると考えられる。ただやみくもに問題集を解くのではなく、高校物理の内容から逆説するような発展的な参考書などを用いて理解を深めておくといよいだろう。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ やや難

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 非常に多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	原子の構造、マグネシウムや水素の同位体、放射性同位体	空所補充・選択・記述	★★★★☆
2	理論、 有機	分子の極性、糖類、生体触媒、浸透圧、凝固点降下、エンタルピー	選択・記述	★★★★☆
3	理論、 有機	I. 芳香族化合物の構造 II. 芳香族化合物の構造、大環状芳香族のキレート、2価の電離平衡	空所補充・記述	★★★★☆

大問3題。大問1は同位体に関する内容、大問2は様々な化合物の反応と性質、大問3は見慣れない有機化合物(着色染料など)の構造と性質を誘導に従って解く問題だった。学習してきた知識を前面に出して解くのではなく、柔軟な対応力を駆使する必要がある。一方、目新しく見

える問題でも、解きやすい設問もある。例年、問題数が多く、解答スピードも要求される。過去問や難関大の良問と併せて、資料集や参考書のトピックを把握する機会を持つこと。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

東京慈恵会医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

読解問題に注釈がなく、空所補充で出題される語彙レベルが非常に高いため、『ターゲット1900』で土台を作り、英検準1級や1級レベルの単語帳にも触れておきたい。文法を直接問う問題はないが、選択肢を消去する際に役立つこともあるので、『ネクスト・ステージ』を仕上げておきたい。英作文に関しては、英文中に文脈に沿った英文を書くものと本文に関係したテーマについて意見を述べるものが出題されたため、Z会の『英作文のトレーニング・必修編・自由作文編』で練習し、過去問で慣れる必要がある。読解問題集は『やっておきたい英語長文700』や『英語長文出題パターン演習3』を演習し土台を確立する。メデカルラボの生徒であれば、読解のチェックテストのハイレベルAを演習するとよい。読解問題の選択肢は紛らわしいものが多いので、市販の問題集だけで満足するのではなく、本学の過去問を最低3年は解く必要がある。さらに余裕があれば『サイエンティフィックアメリカン』や『ネイチャー』などの科学雑誌にも目を通しておきたい。

【数学】

大問2以降は完答が難しい問題が多いが、この5年は易化傾向にはある。微積分、確率、空間図形が頻出で整数や複素数平面も出題されている。16年度までは計算重視であったが17年度以降は論理重視になっている。証明問題も頻出で論理性が要求されておりしっかりとした答案を書くのが大変な問題が出題されている。難関大の典型問題を一通りこなした上で、標準レベル以上の問題集の解答を参考にして答案作成の練習をしておくことよい。

【化学】

記述形式。新規性のある問題も出る。まず『化学の新演習』を繰り返し解いて定番問題の解答スピードと論述力を磨いておこう。また『化学の新研究』『サイエンスビュー化学総合資料』の読み込みも重要である。また医薬品や化学的側面からの医療知識に関心を持ち、書籍やWebを駆使して知識を増やそう。東京大学、慶應義塾大学などの過去問で応力を磨き、メデカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 東京慈恵会医科大学』に挑むとよい。

【物理】

2023年度より、かなり発展的な内容の物理の理論的解析が要求されるようになった。もちろん大学入試であるので、高校物理の範囲内で問題は作成されているが、そうは言ってもやはり高校物理の知識だけでは試験時間内に正答を重ねるのは難しい。発展的な参考書、例えば「物理入門」「理論物理の道標」などを用いて、高校の教科書には載っていない公式の導出などをフォローしておくといいだろう。また、大学物理の内容である「量子力学」「相対性理論」くらいは、インターネットでも本でも構わないので、一度触れておくことよい。過去問演習時には、本学過去問や、本学入試に類似した慶應（医）、滋賀医科大学の入試問題を利用するといいたいだろう。

【生物】

まずは教科書の傍用問題集レベルの問題を正確に解けるようにする。さらに『理系標準問題集』『良問問題集』などに取り組んで知識を強化する。他の大学に比べて「生態と環境」や「生物の進化と分類」の分野の出題が多いので、この分野も手を抜かないこと。その後、やや難しい『医学部の生物』や『標準問題精講』まで学習を進めたい。分量が多いことに慣れるためにも、過去問は5年分程度演習しておきたい。その際、必ず時間を考えながら解く練習をしておくこと。

東京女子医科大学

2024年度 入試分析

※過去問非公表のため前年2024年度入試分析を掲載

英語

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	伝記・科学系 約900語	「毒草を調査し人々の命を救ったアンナ・ピアース」についての長文問題(同意表現選択・内容一致・同意語選択・主題選択・英文和訳・自由英作文)	選択・記述	★★★★☆
2	読解	—	「植民地の英語」「熱波への備え」「デジャブの原因」についての長文問題(文補充)	選択	★★★★☆
3	読解	社会系 約550語	「人口減少に関する統計」についての長文問題(空所補充)	選択	★★★★☆
4	会話文	約750語	「ブッチャード・ガーデンを訪問した女子たち」についての対話文(同意表現選択・同意語選択・空所補充・内容一致)	選択	★★★★☆

23年度から大きな変化はない。難度は標準的だが、60分で2,000語を超える英文を読まなくてはならないため簡単ではない。さらに大問3や4でグラフや図などを読み取る力も必要となるので、単なる長文問題とは考えない方がよい。対策には共

通テスト対策問題集から始めるのが有効。その際、グラフの読み取りなどの多い問題を意識するとよい。実力がついてきたら本学の過去問で英文のレベルに慣れ、時間内に解答できるように工夫する。特に大問2の文補充は練習が必須である。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 易 前年との難易度比較 易化 時間に対する分量 適量

小問	分野	内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式	II 2直線のなす角	記述	★★★★☆
	複素数平面	C 複素数を含む2次方程式	記述	★★★★☆
2	図形の性質、数学と人間の活動	A 内心の座標、1次不定方程式	記述	★★★★☆
3	確率	A サイコロの目が一致または連続する確率	記述	★★★★☆
4	微分法的应用	III 極値、不定方程式、累乗数の大小比較	記述	★★★★☆

24年度は非常に易化し、参考書で見かける問題が多く出題された。例年は難度は高くないものの、60分で記述式4題のためじっくり考える時間はない。典型問題は瞬時に解法が浮かぶようにしておくことが重要。19～22年度までは4年連続で極限が出題されていたので、対策はしっかりしておきたい。「場合の数・確率」と「数学と人間の

活動(整数)」の出題頻度が高く、工夫が必要な定積分の計算も出題されている。これらの分野に関してはハイレベルな演習にも取り組むべきだろう。数学Ⅲ・Cからの出題が半数を超える年もあるので意識しておきたい。また、解答欄があまり広くないため、簡潔に記述する練習をしておくとうい。

化学

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合 15問	分離法、同位体、分子の極性、イオン半径、同素体、気体の発生と捕集法、気体の溶解度、電気伝導性、酸化還元、蒸気圧曲線、ナトリウムの性質、熱化学方程式、反応速度と化学平衡、金属イオン、付加反応	選択	★★★★☆
2	有機	合成高分子化合物の構造と性質(ナイロン66など)	空所補充・選択	★★★★☆
3	理論	凝固点降下、熱化学方程式	空所補充・選択・記述	★★★★☆
4	有機	芳香族化合物の構造決定	記述	★★★★☆

大問4題(マーク形式2題・記述形式2題)。マークは様々な分野からなる選択問題で構成されていた。例年同様、「すべて選べ」という問題が多く、判断スピードを要した。記述は理論と有機からの出題で、マークより解きやすい問題もあった。これま

で頻出だった電気化学や天然高分子化合物の出題がなかった。例年、グラフ問題、有機の構造決定が頻出。有機の構造式は問題に示された例に注意して答えよう。マークと記述の混合形式が続いているので、過去問を繰り返し解いて慣れておくとうい。

生物

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 やや易化 時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物と遺伝子、生物の進化と系統、生命現象と物質	生物基礎、生物	選択	★★★★☆
2	生命現象と物質	生物	選択・記述	★★★★☆
3	多様性と生態系、生態と環境	生物基礎、生物	選択・記述	★★★★☆
4	生物の環境応答	生物	選択	★★★★☆

24年度は23年度と同様に大問4題構成。大問1・4はマーク式、大問2・3はマーク式と記述式の併用式。大問数は近年3～5題構成が多いが、年度によってバラツキがある。23年度と比較して計算問題は減少したが、頻出の考察問題が増加した。計算問題と

ともに考察問題の練習は必須である。特に考察問題では、選択肢に分かりにくい表現が使われることが多く、順番に正しく読んでいかないと引っかかることがあるので注意しておくこと。また大問3では、23年度に出題されていたなかった論述問題が復活した。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	浮きの単振動、ばねを介した2物体の運動(運動量保存則)、斜面上での立方体のつり合い	選択・記述	★★★★☆
2	波動、原子	波の式、ヤングの実験、光電効果	記述・描図	★★★★☆
3	電磁気	コンデンサー内に導体箱を入れた場合の電場と電位、磁場領域を通過するコイルの電磁誘導、RC回路	記述・描図	★★★★☆

大問3題構成。例年、力学と電磁気から各1題、残り1題は波動、熱、原子のうちいずれか1分野からの出題だが、24年度は波動、原子の2分野からの出題だった。大問1は小問集合、その他は電磁気、波動、原子からの出題だった。各大問は基本～標準レベルの問題がほとんどなので、入試標準レベルの問題集をしっかりと解き込んでおけば、苦戦することはないだろう。一方、理由

説明問題、解答過程の記述、グラフの描図などが要求されるため、過去問を通じてこの手の問題の対策を怠ってはならない。24年度は、過年度と比べ問題数が増加し、全ての問題に取り組むことが難しくなったと考えられる。25年度もこの問題量が続くことを想定し、時間のかからない問題からまず解答するなど、過去問演習を通じてシミュレーションを行っておくとういだろう。

東京女子医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

本学では文法語法に関する問題が出題されず、自由英作文で利用する程度なので、「総合英語エバーグリーン」を読み、本質を理解する。その際内容理解を確認するために「文法を身につけるトレーニング」を利用するとよい。語彙は読解の基礎となるため重点的に学習する。特別高いレベルの語彙の問題はないため「ターゲット1900」を細部までしっかり覚える。読解問題対策としては「英語長文出題パターン演習1・2」を利用して選択問題に慣れ、共通テスト対策問題集で大問3・4・6を中心に演習する。その際に解答時間を意識する。最後に本学の過去問を利用し時間配分を考えて演習する。特に大問2の文補充は他大学にない形式であるため過去まで遡って十分慣れておく必要がある。

【数学】

幅広い分野から出題されているので、不得意分野はなくしておくことが大切である。『チャート』等の標準的な参考書で定型問題の解法を習得し、『チョイス』などの問題集に取り組み、定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておきたい。場合の数と確率はやや高めの難易度の問題にも取り組んでおきたい。解答欄があまり広くないので、特に数Ⅲの積分計算は簡潔に記述する練習もしておこう。過去問の類題が出題されることもあるので、過去問研究も有効である。

【化学】

マーク+記述形式。第1問は正誤・計算などの小問集合。『化学の新標準演習』などをマスターしておこう。グラフ問題では縦・横軸に注意して現象を捉えておこう。後半の記述形式では、理論と有機が出題されやすい。有機の構造式では記入例に注意しよう。反応式の係数や計算で使う分子量などを工夫して覚えておくことで時間の節約になる。高分子では構造と名称だけでなく、計算問題の対策をしておこう。

【物理】

『良問の風』等の標準レベルの問題集に取り組み、このレベルの問題にしっかり対応できる力をつけておくこと。また、グラフの描画問題がよく出題されているので、過去問を用いて物理量の変化を数式に表し、それをグラフ化するという手順に慣れておこう。医学部の入試では、1つのミスが大きく響くので、日ごろの演習時からケアレスミスへの対策（解答の次元をチェックする、物理的に妥当な値になっているか検証する 等）を行っておくこと。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』、『エクセル』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。その上で、実験考察問題の対策として、『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基本的な実験考察問題の考え方を身につけておこう。また、問題の文章量が多いため、早くと確に読みこなす必要がある。過去問を解くときには時間を計って解くなど、時間配分に対して慣れておこう。

東邦大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	英文の難易度 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文系 約850語	「化石に頼ってきた人類史」についての長文問題(内容一致・同意語選択・欠文補充)	選択	★★☆☆
2	文法	—	誤り指摘	選択	★★☆☆
3	読解	人文・科学系 約900語	「日常的に応用できるホームズの科学的思考」についての長文問題(内容一致・同意語選択・欠文補充)	選択	★★☆☆
4	読解	科学系 約800語	「記憶のメカニズム」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆
5	読解	社会・科学系 約950語	「騒音を抑制するための自動化」(内容一致・同意語選択・欠文補充)	選択	★★☆☆
6	英作文	—	正文選択	選択	★★☆☆

誤り指摘と空所補充のみの長文が入れ替わった以外、出題形式に変化はない。長文は、空所補充のみの1題と、内容理解を問う3題。後者は段落ごとの内容一致、同意語選択、欠文補充が出題される。24年度同様に長文は専門的な内容でやや難しいが、設問自体が易しいため完全に理解

できなくても正解可能。誤り指摘はやや易化した。正文選択は紛らわしいので注意が必要。読解練習の際には内容一致対策として段落要約を、同意語選択と空所補充対策として重要語彙を意識するとよい。最後に過去問演習で、設問の特徴をつかみ、時間配分を考える必要がある。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	呼吸商	選択	★★☆☆
2	生物の進化	進化の道すじ、分子系統樹	選択	★★☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎 血糖調節	選択	★★☆☆
4	体内環境の維持、生命現象と物質	生物基礎、生物 免疫、ノックアウトマウス	選択	★★☆☆
5	生命現象と物質	生物 遺伝子発現	選択	★★☆☆

24年度より1題増加して大問5題構成のマーク式。計算問題と考察問題が多いのが特徴。計算問題は典型的な問題が多く見られるため、様々なタイプの計算問題を演習しておくことが必須。考察問題

は文章が長いものや内容が複雑なものも出題されているので、普段から考察問題の演習を積んで慣れておく必要がある。全体的にテンポよく解いていかないと時間が不足してしまうので注意する。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	加速度運動する台上から小球を発射した時の小球の放物運動	選択	★★☆☆
2	力学	斜面上での小球の円運動	選択	★★☆☆
3	電磁気	ガウスの法則	選択	★★☆☆
4	電磁気	磁場中における荷電粒子の運動	選択	★★☆☆
5	波動	ドップラー効果	選択	★★☆☆
6	熱力学	ピストンの単振動	選択	★★☆☆

大問6題構成で、原子を除く全分野からの出題。24年度は原子を含む全分野からの出題だった。全問がマーク式で、基本的に正しいものを1つ選択して解答するが、過去には「正しい答えをすべて選べ」のような問題が出題されたこともある。基本～標準レベルの問題で構成されているが、25年度の大問2・5・6のような難度が高い問題も出題される。試験時間に比し

て問題数が多く、時間的な余裕はない。時間をかけずに解答できる基本～標準レベルの問題から着実に正答を稼いでいけば、たとえ難度が高い問題に手がつけられなくても十分に合格点には達するだろう。また、25年度は出題がなかったが、24年度は複雑な数値計算問題が多く出題されていた。これらの問題も解答に時間がかかるため、後に回した方がよいだろう。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

小問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数列	B 数列の和と一般項	空所補充	★★☆☆
2	図形の性質	A チェバの定理	空所補充	★★☆☆
3	積分法的应用	Ⅲ 2曲線で囲まれる部分の面積	空所補充	★★☆☆
4	対数関数	Ⅱ 累乗数の桁数	空所補充	★★☆☆
5	場合の数	A 積・和が3の倍数となる3数の選び方	空所補充	★★☆☆
6	微分法、積分法	Ⅱ 3次方程式が異なる3つの実数解を持つ条件、面積が一致する条件	空所補充	★★☆☆
7	複素数平面	C 点と直線の距離、円と直線の距離	空所補充	★★☆☆
8	空間ベクトル	C 垂線の足、円周上の点の座標の最大	空所補充	★★☆☆
9	2次関数	I 絶対値を含む2次関数の極大・最小	空所補充	★★☆☆
10	数学と人間の活動	A 不等式をみたす最大の整数	空所補充	★★☆☆

小問が10題並び、標準的な問題が中心で高得点が必要となる。データの分析を含め幅広い単元から出題されるため、苦手な単元があると致命的。典型解法の習得および迅速かつ正確な計算力が必須となる。数学Ⅲの出題が、22

年度は5題、23年度は4題、24年度は4題と半数を占めていたが、25年度は1題のみとなった。過去問を用いて時間配分も意識して練習しておくとういだろう。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	(A) 酢酸の中和滴定、(B) 水銀柱による気体の圧力測定	選択	★★☆☆
2	有機	(A) 有機化合物の分子量・酸化数・電子の物質、(B) 3価アルコール由来エステルのはん化・異性体数	選択	★★☆☆

大問2題。減少傾向にあった小問集合がなくなり、大問が1つ減少した。各大問はそれぞれ2つの問題群から構成される。理論分野の実験問題ではうまく計算できるところもあるが、慎重に精度よく解く必要があった。有機

分野はやや複雑な反応が出題されることが多かったが、25年度はエステルを中心とした取り組みやすい内容だった。計算結果の各数字をそれぞれマークする形式なので、過去問で解答方法に慣れておくとういだろう。

東邦大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

読解問題対策としては『英語長文出題パターン演習2・3』を利用して選択問題に慣れる。医療科学系の長文が頻出であるため、『私大医学部の英語 長文読解編』を演習するとよい。読解問題はほぼ変化がないので、過去問で選択肢の吟味の仕方をマスターする。大問4の誤り指摘対策としては『英文法・語法良問500 誤文訂正編』を1冊仕上げる。誤り指摘は慣れていないと、なかなか正解できないので必ず演習する。余裕があれば東北医科薬科大学や杏林大学医学部の2017年以前の入試問題を演習してもよい。大問5の正文選択も初見では苦勞するので、本学の過去問や2020年以前の近畿大学医学部の大問2で慣れる必要がある。今年度も細部の英文法のミスを基準に消去するタイプではなく、英文解釈に近い問題で、選択肢の英文を和訳した内容が最も近いものを選ぶものが中心であったので、直接得点に結びつきそうになくても、『英文熟考上・下』などを使って解釈力の土台を作っておくとよい。試験時間は90分あるが、4題の長文の総語数が3,500語程度あるため、かなり要領よく解答しないと時間が不足する。そのため過去問で時間配分を考えておく必要がある。

【数学】

幅広いの単元から出題されるため、全単元の基本事項を確実に覚えることが必須条件である。『チャート』等の標準的な参考書で定型問題の解法を習得し、『チェック&リピーター』などの問題集に取り組み、定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておきたい。難易度の高い問題は出題されないため、『4STEP』等の教科書傍用問題集で短時間に集中して多くの問題を処理する練習も有効である。マーク方式なので計算ミスは致命的である。自治医科大学や藤田医科大学の小問集合に取り組むことも有効である。

【化学】

マーク形式。滴定による定量計算やグラフが多い一方、これまで合成高分子がない。かつて小問集合が特徴だったが、年々減少している。『エクスセル化学〔総合版〕』や化学資料集に取り組もう。実験問題では溶液の濃度計算が多い。操作過程や観察結果をイメージして迅速かつ正確に解こう。有機では誘導とともに教科書にない反応過程も扱われることがある。過去問で出題内容を把握しよう。今後、医薬品、酵素、核酸に注意しておきたい。

【物理】

試験時間に対して問題数が非常に多いため、標準レベルの問題をしっかりと得点できれば十分に合格点に達する。これらの問題を取りこぼさないためには、「名問の森」程度の標準問題集を解き込んでおくといいだろう。また入試本番では、標準的な問題と発展的な問題を見極める力が非常に重要となってくる。それらの区別ができるようになるためには、やはり発展的な問題に触れ、それらの問題がなぜ時間がかかるのかを事前に研究しておきたい。標準的な問題集を解き込み、物理の学習時間に余裕がある学生は、「重要問題集」や「標準問題精講」などの問題集を用いて、発展問題の経験値を上げておいてもらいたい。2025年度には出題がなかったが、2024年度は煩雑な数値計算問題が多く出題され、計算力も正答率に大きく関わる入試であった。この手の問題への対応力を上げるため、過去問演習の際、しっかりコツコツ計算し、答えを出し切る訓練を積んでもらいたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。問題量が多いことを考慮して、知識や計算の正確さだけでなく速さも身につけていこう。過去問演習は、時間も考慮しながら行っていくこと。また、「体内環境の維持」、「遺伝情報とその発現」、「有性生殖」「動物の反応と行動」の4分野からの出題が多いので、まずはこの分野から仕上げていこう。

日本大学

2025年度 入試分析

英語 (N方式第1期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	語彙	—	空所補充	選択	★★☆☆
3	熟語	—	空所補充	選択	★★☆☆
4	読解	人文・社会系 約150語	「タンザニアに暮らす狩猟採集民族」についての長文問題 (空所補充)	選択	★★☆☆
5	読解	社会・科学系 約550語	「気候により影響を与えることを認めるファッション産業」についての長文問題 (内容一致)	選択	★★☆☆
6	会話文	—	「製菓会社の出資で建設される実験室」についての会話文 (内容一致)	選択	★★☆☆
7	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
8	読解	自然・科学系 約450語	「日常にある植物由来の薬」についての長文問題 (語句整序)	選択	★★☆☆

例年通りの出題形式で、難度も変化はない。他大学に比べると文法、語法、熟語などの知識を問う問題が多く、純粋な読解問題は1題しかない。まずオールインワン系の問題集を1冊しっかりと勉強しておきたい。読解問題は内容一致のみ出題されるため、500語程度の読解問題集を段階的ながら演習する。会話文も1題出題されるので、東海大や岩手医科大などの過去問を利用して慣れておくこと。大問数が多いので、過去問演習で時間配分を考えておくこと。

数学 (N方式第1期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	集合と命題	I 集合の要素	空所補充	★★☆☆
	2次関数	I 最小値の最大	空所補充	★★☆☆
	対数関数	II 累乗数の桁数	空所補充	★★☆☆
	複素数平面	C ド・モアブルの定理	空所補充	★★☆☆
	三角関数	II 加法定理	空所補充	★★☆☆
2	確率	A 玉を取り出す確率・条件付き確率	空所補充	★★☆☆
3	平面ベクトル	C 三角形の垂心	空所補充	★★☆☆
4	数列	B 格子点	空所補充	★★☆☆
5	極限	III 正方形の面積の無限等比級数	空所補充	★★☆☆
6	積分法的应用	III 回転体の体積	空所補充	★★☆☆

大問1～6まですべてマーク式で、幅広い分野から出題される。場合の数・確率、ベクトル、数学Ⅱの積分法・微分法は毎年度出題される。数学Ⅱの積分法・微分法はグラフ、面積、体積といった定義の内容。私立大医学部では珍しいデータの分析での四表の読み取りを出題した年度もあった。多くが基本的な問題で、計算量もそこまで多くはないので確実に得点すべきだが、60分で6題のため考えている余裕はない。参考書などの基本事項・典型解法を徹底して身につけておくことが重要だ。

化学 (N方式第1期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論・無機	アルカリ土類元素、価電子、単体、共有結合結晶、元素・組成式	選択	★★☆☆
2	理論	酸化数、酸化還元反応、ハロゲンの酸化力、イオン化傾向	選択	★★☆☆
3	理論	熱量、三態図、沸点、水素結合	空所補充・選択	★★☆☆
4	理論	水銀柱、飽和蒸気圧、分圧、液化の割合、蒸気圧曲線	選択	★★☆☆
5	理論	結晶格子、充填率、イオン結晶、化合物の性質、塩基触媒による酸塩基反応、オゾンの特徴	選択	★★☆☆
6	有機	カルボニル化合物に関する触媒・性質、アルコールの構造決定、けん化	空所補充・選択	★★☆☆
7	有機	架橋構造、共重合	空所補充・選択	★★☆☆

大問7題。例年同様、基本レベルが多く高得点勝負となる。無機や天然高分子化合物の大問がなくなった。大問7の合成高分子化合物も2問と少なかった。有機を含めてすべての大問に計算問題があり、類出の正文選択も結構。難しい問題が多いだけに、解答精度とスピードの両方が求められる。繰り返し演習を重ねて共に覚えておこう。N方式は他学部共通の入試問題のため、マーク形式の医学部・医療系学部の過去問を解いておくことよ。

生物 (N方式第1期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 光合成	選択	★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 バイオテクノロジー	選択	★★☆☆
3	遺伝情報の発現と発生	生物 両生類の発生	選択	★★☆☆
4	体内環境の維持	生物基礎 免疫	選択	★★☆☆
5	生物の環境応答	生物 花芽形成	選択	★★☆☆
6	生態と環境	生物 個体群、生物群集	選択	★★☆☆
7	生物の進化	生物 進化のしくみ	選択	★★☆☆

24年度と同様に大問7題構成のマーク式。計算問題が毎年度、複数問出題されるので、典型的な計算問題の練習は必須。問題集などでよく見られる問題が多いので、しっかりと学習していれば高得点を取ることが可能だ。問題集に載っていないような問題でも、落ち着けば解けるレベル。考察問題の対策としては過去問の活用が有効。過去問に取り組み、データの読み取りや比較の仕方をマスターしよう。

物理一般 (N方式第1期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	小球の壁への斜め衝突	選択	★★☆☆
2	熱力学	気体混合、気体の状態変化	選択	★★☆☆
3	波動	ニュートンリング	選択	★★☆☆
4	電磁気	磁場中の導体棒の運動 (電磁誘導)	選択	★★☆☆
5	原子	ウランの核分裂反応	選択	★★☆☆

大問5題構成で、設問数は例年25問。高校物理の全分野から満遍なく出題されるため、苦手分野を作ることのないように学習する必要がある。24年度より多少難度が上がったものの、ほぼすべてが典型問題のため、他の医学部と比較して非常に解きやすい。そのため、正規合格をめざすにはかなりの高得点を獲得しなければならない。典型問題の掲載量が多い問題集を全範囲にわたって偏りなく解き込み、問題の経験値を上げておくことよ。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

日本大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

日本大学医学部の問題は、他大学と比較して文法、語法、熟語などの知識を問う問題が多く、純粋な読解問題は1題しかない。そのため読解が苦手な生徒でも対応しやすい大学と言える。まず文法、語法、熟語対策として、『ネクスト・ステージ』の発音以外の項目を確実に覚えることである。『ネクスト・ステージ』には語句整序の問題が少なく、本学では大問7と8で出題されているため、『良問500・整序英作文編』も学習する。純粋な読解問題は1題のみで、設問は内容一致しかいないため『出題パターン1・2』を中心に演習すれば、十分である。その他大問4の文中空所補充は帝京大学、東邦大学などの過去問を、大問6の会話文は獨協医科大学、東海大学などの過去問を利用するとよい。最後に大問数が多いので、本学の過去問演習で時間配分を考えておくとういだろう。

【数学】

幅広い単元から出題されるため、全単元の基本事項を確実に覚えることが必須条件である。『チャート』等の標準的な参考書で定型問題の解法を習得し、60分で6題と時間が厳しいため定型解法は瞬時に頭に浮かぶようにしておきたい。難易度の高い問題は出題されないため、『4STEP』等の教科書傍用問題集で短時間に集中して多くの問題を処理する練習をしておくとういであろう。マーク方式なので計算ミスは致命的である。自治医科大学や東邦大学の過去問に取り組むことも有効である。

【化学】

マーク形式。他学部と共通のN方式で解きやすい。教科書や『チャート式化学基礎・化学』などで現象をイメージできるようにしよう。全分野から広く出題されるので、幅広く理解をしておく必要がある。『化学の新標準演習』『マーク式基礎問題集化学基礎・化学[理論・無機][有機]』などで計算と知識をおさえておこう。本学過去問とあわせて、岩手医科大学や私大薬学部など傾向が近い過去問も進めておこう。一問一答集も反復しておくとうい。

【物理】

物理の入試問題は他大学に比べ非常に簡単である。つまりは、高得点の争いとなることが予想される。準備としては、「良問の風」、余裕があれば「名問の森」レベルの問題集を繰り返し解き、その上で本学過去問を用いた演習を行えば十分である。本学過去問以外にも、同形式、同程度の入試問題（岩手医科大学、獨協医科大学、福岡大学など）を用いた演習を行えば、さらなる得点率の向上が見込めるだろう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。全範囲のしっかりとした基礎知識を身につけて苦手分野を作らないことが重要である。頻出の計算問題が苦手なら『ゼロからはじめる計算問題の解き方』や『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』を使って苦手を克服しておくこと。

日本医科大学

2025年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述／マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文・社会系 約2,150語	「75歳で死ぬとよいと思うわけ」についての長文問題 (語形変化・空所補充・誤り指摘・内容説明・自由英 作文・内容一致)	選択・記述	★★★☆☆
2	英作文	—	「大問1の筆者の意見にどの程度同意できるか」につ いての自由英作文	記述	★★★☆☆
3	発音、語彙	—	アクセント・単語	選択	★★★☆☆

大問3から文法に関する問題がなくなった以外は、24年度と変化はない。大問1は2,000語を超える長文で設問数も多い。前半部の記述パートは選択した後には正解の理由を述べるといった本学特有の出題形式で、読解内容に関する英作文があるため難しい。大問2の自由英作文は大問

1の長文の内容に関するもの。そのため英文の内容がしっかり把握できていないと解答できない。読解問題以外にも発音・語彙などが問われるので、偏りのない学習を心がける。読解演習の際には、内容理解を中心に進め、過去問で形式に慣れる。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率、複素数平面	A、C 確率の最大、純虚数の個数	空所補充	★★★☆☆
2	空間ベクトル	C 垂線の足、内心、三角形の面積	空所補充、記述	★★★☆☆
3	空間ベクトル	C 距離の最小	空所補充、記述	★★★☆☆
4	微分法的应用、積分法的应用	Ⅲ 偶関数・奇関数の証明、関数方程式、King Property	空所補充、記述	★★★☆☆

25年度は計算量が格段に減ったが、例年、数学Ⅲからの出題が多く計算量も多い。大問2の間4、大問3の間4、大問4の間1・2(1)(3)・4が論述形式だった。問題の難易度の差が大きいので、標準的な問題を確実に得点することが重要。思考力を要するものや見慣れない題材も出題さ

れるので、暗記に頼った学習では太刀打ちできない。すべての範囲の頻出問題を習得した上で、複数の問題を融合させた総合的な問題を解く練習を積む必要がある。また、文字を含んだ複雑な計算をこなす計算力も必要となる。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 ↓ 易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	原子・イオンの特徴、再結晶・溶解性、溶液の調製	空所補充・記述	★★★☆☆
2	理論	アンモニアの化学平衡	空所補充・記述	★★★☆☆
3	有機	脂肪酸化合物の構造決定、吸入麻酔薬・局所麻酔薬の構造と特徴	記述	★★★☆☆
4	有機	糖類(単糖類、多糖類、発酵、ヨウ素デンプン反応、機能性分子)	空所補充・記述	★★★☆☆

大問4題。大問1の小問3問で、考案した手順を記述する問題以外は易しかった。大問2の化学平衡も典型的な内容。大問3は見慣れない化合物だが、条件が明確で構造を決めやすかった。大問4は標準的な糖類全般の内容だった。し

ばらく続いていた難しい問題が出題されなかった。例年、字数指定のない論述があるので解答欄の大きさに合わせた記載を意識しよう。化学資料集や教科書の発展内容を把握しておくといふ。前期・後期の過去問を活用しよう。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	生物の進化、生態と環境	生物	生物の進化、個体群、群れ	空所補充・選択	★★★☆☆
2	生物の環境応答、遺伝情報の発現と発生	生物	筋収縮、カエルの発生	空所補充・選択	★★★☆☆
3	生命現象と物質	生物	昆虫の性決定	選択	★★★★☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。例年、大問1・2は知識問題が中心で、比較的易しめの問題が出題される。大問3は、多くのデータを読み取りが必要な、かなり難解な実験考察問題が出題される。大問1・2をでき

るだけ短い時間で正確に解き、大問3の実験考察問題に十分な時間を割けるようにすることが必要。大問3対策としては、過去問で演習を重ね、長文の読解や複数のデータ処理に慣れることが最適だろう。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準 前年との難易度比較 → 変化なし 時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	鉛直面内の円運動、天体の円運動	空所補充	★★★☆☆
2	電磁気	電場中における電荷の運動	空所補充	★★★☆☆
3	熱力学	熱サイクルと熱効率	空所補充	★★★☆☆

大問3題構成で、設問数は例年通り20問。25年度は、力学、電磁気、熱力学の3分野から出題された。24年度は力学、電磁気、波動の3分野。難度は基本～標準レベルで、本学の入試偏差値に対して物理の難易度は非常に低い。そのため物理

では、かなりの高得点を獲得しないと合格点には達することができないものと推察される。よって、ケアレスミスが致命傷となるので、過去問演習の際には丁寧な計算を心がけ、問題文のヒントの見落としなどには十分に気をつけたい。

日本医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

大問3対策として、『ターゲット1900』を利用して、語彙、発音、アクセントの学習をする。誤り指摘と空所補充では文構造に関する問題も出題されるので、『ネクスト・ステージ』で演習するとよい。さらに『英文熟考上・下』で文構造を意識した英文解釈を練習すると、大問1の内容説明にも役立つ。大問1の長文対策としては2,000語程度の超長文が出題されるため『やってきたい英語長文700』と『やっておきたい英語長文1000』で段落要約を意識し、内容把握に重点をおいて演習する。本学特有の形式に対応するために選択問題は必ずそれを選んだ理由を考える習慣をつけるとよい。2,000語を超える長文に慣れるには、英字新聞や科学雑誌を積極的に活用するのも1つ。大問2の自由英作文は長文のテーマに関する問いであるため、読解演習した英文のテーマで100語程度の英文を書くことよい。自由英作文に不慣れな場合は『英作文のトレーニング・自由英作文編』で土台を確立する。本学の問題は知識を問う問題も多いが、同時に内容理解ができていないと全く解答できない問題もあり、これらの問題には高い配点が与えられていると予想されるため、内容理解に重点を置いた方が得策である。

【数学】

『チャート』等で全範囲の頻出問題の解法を習得した上で、『プラチカ』や『スタンダード数学演習』等のややレベルの高い問題集で、複数の分野を融合させた総合的な問題の演習に取り組むとよいであろう。特に数学Ⅲは、難関大学の過去問の演習もよい。計算力や論証力を養うためにも、『やさしい理系数学』、『理系数学 入試の核心 難関大編』、『医学部攻略の数学』等を使って記述形式の問題で練習しておいた方がよい。時間内に解答可能な問題を見極める訓練もしておこう。

【化学】

記述形式。実験に関する設問が多く、やや難度の高い設問が出題される。理由説明の記述も頻出である。『化学の新研究』で知識を深め、『化学重要問題集』や『化学の新演習』を繰り返し解いて攻略しておこう。普段から機能性物質や化学現象に興味を持つことも大切である。良問が多い本学前期・後期で形式・レベルの把握だけでなく、国公立大医学部、慶應義塾大学、東京慈恵会医科大学の過去問に取り組み、新規性のある問題への対応力を高めよう。

【物理】

本学入試で高得点をとるためには、標準的な問題集（「良問の風」「名問の森」など）を解き込むだけで十分である。その上で過去問演習を行い、本学の問題の難易度を確認し、制限時間内に高得点（約8～9割）を獲得する練習を積んでいてもらいたい。ケアレスミスだけには十分注意をすること。

【生物】

大問1、2は基礎から標準レベルの知識問題が中心になっているので、ここで点数をしっかりと取りたい。そのためにも教科書の傍用問題集レベルの問題を正確に解けるようにする。さらに『理系標準問題集』『良問問題集』などに取り組んで知識を強化する。さらに大問3対策として『思考力問題精講』『実戦生物実験・考察問題集』などに取り組んで思考力・考察力を高めるとよい。問題の構成が非常に特徴的なため、過去問については5年分以上取り組むことが望ましい。その中で時間の使い方に慣れていくとよい。

北里大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	医療系 約850語	「エボラ出血熱の発見とその対処法」についての長文問題 (空所補充・同意表現選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
2	文法	—	空所補充	選択	★★★☆☆
3	読解	人文系 約250語	「人類の発達の歴史」についての長文問題(空所補充)	選択	★★★☆☆
4	会話文	—	「高齢者の自動車運転」についての対話文(空所補充・内容一致)	選択	★★★☆☆
5	会話文	—	「タンカーからの石油流出事故による影響」についての対話文(内容一致)	選択	★★★☆☆
6	英作文	—	語句整序	選択	★★★☆☆

24年度より大問が1題減って6題となり、読解量も減少したことで全体的にやや易化した。文中空所補充が多く大問1で8問、大問3で7問、大問4で5問と、全体の約半数を占める。大問2の短文空所補充は文法と文構造を重視した問題だ。対策とし

ては、文中空所補充の基礎となるため、まずは語彙力を高める。次に文法と文構造をしっかりと学習しておきたい。これらを学習することで土台が確立されたら、医療系長文の内容一致問題を中心に演習する。最後に過去問で会話文と語句整序に慣れる。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	積分法	Ⅱ 最も近い整数との差と定義される関数の定積分	空所補充	★★★☆☆
	平面ベクトル	C 内積、共線条件	空所補充	★★★☆☆
	確率、極限	A、Ⅲ 確率漸化式、極限	空所補充	★★★☆☆
2	微分法的应用、積分法的应用	Ⅲ 最大・最小、面積、回転体の体積	記述	★★★☆☆
3	平面上の曲線	C 楕円に外接する長方形の通過領域	記述	★★★☆☆

大問1の小問集合は基本的な問題が中心なので確実に取りたい。数学Ⅲからの出題が多く、計算量も比較的多いので、確実な計算力が必要。特に微分法・積分法の計算は面倒がらずに自分の手で解き切ることを意識した演習

を行うこと。大問2以降には、典型問題ではない難度の高い問題が出題されることもある。解ける問題を確実に解くことが大切だ。24年度までは証明問題が出題されていたが、25年度は出題されなかった。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合8問(全分野)	金属の性質、酸塩基、三態図、電池、気体の共通点、化学肥料、アセトン、油脂	選択	★★★☆☆
2	理論	ナトリウムとその化合物の特徴・性質(結晶格子、電気分解など)	選択	★★★☆☆
3	理論	炭酸の電離平衡、ヘンリーの法則	選択	★★★☆☆
4	理論	塩化銀の溶解度積(モル法)	選択	★★★☆☆
5	有機	芳香族化合物の合成実験(ジアゾカップリング)	選択	★★★☆☆

大問5題。大問1は各分野の小問集合。解きやすい問題が少なくなり、23年度に近いレベルに戻った。2科目100分なので、早く問題を素早く見極められるようにしよう。正誤問題では2つを選択する設問が増加したため、正確な知識を

増やした上で東京女子医科大学の過去問などで対策しておこう。大問2～4の計算問題が迅速に解けるように、日頃から解法をマスターしておく必要がある。25年度は高分子の出題がなかったが、今後の出題に備えておこう。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	体内環境の維持、生命現象と物質	生物基礎、生物 体温調節、止血機構、遺伝情報の発現	選択	★★★☆☆
2	遺伝情報の発現と発生	生物 被子植物の生殖	選択	★★★☆☆
3	生物の多様性と生態系、生物と環境	生物基礎、生物 物質生産、バイオーム	選択	★★★☆☆

24年度は大問2題構成だったが、25年度は1題増加し、23年度と同じ大問3題のマーク式に戻った。大問数は増加したが難度はやや低下。実験考察問題ではグラフや図から考える問題が多く、問題の文章量や選択肢も多いため、制限時間内に解き切

るのは難しい。特に「遺伝子」「代謝」「神経・筋肉」「体内環境」を中心とした計算問題がよく出題されている。問題の形式が独特なので、慣れるために過去問演習が非常に有効。出題形式が似ているので、他学部の問題にあたってみるのもよい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	剛体のつり合い、人工衛星の等速円運動、コンデンサーの静電エネルギー、ドップラー効果、気体混合	選択	★★★☆☆
2	力学	加速度運動する台車内での小物体の単振動	選択	★★★☆☆
3	電磁気	電場・磁場中での荷電粒子の運動	選択	★★★☆☆

大問3題構成で、大問のうち1つは小問集合、残り2題は力学、電磁気からの出題。小問集合の力学では「剛体のつり合い」が頻出のため、過去問を用いて対策しておきたい。大半の問題が基本～標準レベルだが、年度によっては計算量の多い設問、やや難度が高い問題も出題されている。25年度の大問2の単振動の問題は、他の設問と比べると難度が若

干なめだった。試験時間は2科目100分で、均等に配分すれば物理は約50分で解かなければならず、時間的な余裕はない。よって、解ける問題からどんどん解答していき、計算量が多い、また難度が比較的高めな問題は後に回し、正答を重ねること。各設問に対する選択肢が多いため、過去問演習を通じて選択肢から正答を見つける練習も積んでおきたい。

北里大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

語彙力を高めるため『ターゲット1900』の学習は欠かせない。その際に意味を覚えるだけでなく品詞の確認とその派生語までしっかり覚える。全体の半分を占める文中空所補充に役立つからである。次に『ネクスト・ステージ』を仕上げ土台を作る。さらに文構造を把握する力が問われているため、『英文熟考上・下』で文構造を考えながら和訳の練習をする。読解内容を把握する練習には『やっておきたい英語長文500・700』と『英語長文出題パターン2・3』の演習をする。特に内容一致問題に重点を置く。医療系長文の出題も多いため『私大医学部の英語 長文読解編』を演習するとよい。『英文法ファイナル標準編』と『英文法・語法良問500 空所補充編・整序作文編』もやっておきたい。最後に本学の過去問を利用して、本学特有の選択肢に慣れ、時間内に解答できるように練習する。

【数学】

『チャート』や『チョイス』といった標準的な参考書や問題集に取り組み、定型的な問題は確実に解けるようにしておくことが必要である。8試験時間80分で小問を40分、大問を残りの40分でこなす練習を重ねておきたい。その際、小問は複数の解法からベストな方法を瞬時に選択できるようにしておきたい。解ける問題を確実に得点することが最も大切である。要領よく計算する練習にも取り組んでおこう。特に、数学Ⅲからの出題が多めなのでしっかりとおさえておきたい。

【化学】

マーク形式。2科目100分だが、出題量が多い。例年、同形式・同傾向のため、数年分の過去問で全体像を把握しておこう。正誤問題、計算問題、グラフ問題を含め、幅広く出題される。『化学重要問題集』や『エクセル化学〔総合版〕』などを繰り返そう。有機は脂肪族・芳香族の構造・性質をおさえておこう。本学過去問以外に、本学他学部、帝京大学、東京女子医科大学、埼玉医科大学などのマーク形式の問題も有効である。

【物理】

問題の難易度は基本～標準レベルであり、入試標準レベルの問題集（例えば良問の風・名門の森など）をやり込めば十分に対応できる。しかしながら、試験時間に余裕はないため、過去問演習時から「先に解く問題」、「あとにまわす問題」を見極め、時間内に合格点を獲得する練習を行っていきたい。また、各設問に多くの選択肢が用意されているため、過去問を用いて、正答を選択肢から選ぶ訓練も行っておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力をつけること。問題の文章量が多いので正確さとともに速さを身に付ける練習を。計算についても、一通り問題集の典型的なものを演習した上で、過去問にあたって慣れておく必要がある。過去問については、医学部の問題はもちろんだが、本学の他学部の問題も医学部と似たような出題形式なので、併せて演習することをお勧めする。

聖マリアンナ 医科大学

2025年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学系 約850語	「イエローストーンに棲む動物の季節ごとの食行動」についての長文問題(指示語指摘・内容説明・空所補充)	記述・選択	★★★☆☆
2	読解	科学系 約750語	「根拠なく信じられている右脳・左脳理論」についての長文問題(内容一致・指示語指摘・同意表現選択)	選択	★★☆☆☆
3の1	読解	科学系 約100語	「外来種の侵入を防ぐためには」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆☆
3の2	読解	社会系 約200語	「SNS上での他人を傷つけるコメントの避け方」(空所補充・主題選択)	選択	★★☆☆☆

大問3は、24年度までの選文選択から、2つの英文の空所補充へと変更。1つ目の英文は短く問題も易しいが、2つ目の英文は選択肢が紛らわしく、英文の内容だけではなく文構造にも注意しないと難しく感じるだろう。大問1の長文の内容自体は標準的だが、24年度よりも記述量が大

幅に増えたため難化した。一方、大問2は問題量が減り、内容に関する問いのみとなり易化した。対策として、まずは正確に英文内容を読み取る練習を行い、次に読み取った内容を日本語で表現する。その際には文構造も意識すること。これらは大問3の空所補充にも役立つ。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の進化、生態と環境	細胞内共生説、素素の循環	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	体内環境の維持、生命現象と物質	ABO式血液型	空所補充・選択・記述	★★☆☆☆
3	生物の環境応答	植物ホルモン、花芽形成	空所補充・選択・記述	★★☆☆☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。他大学に比べ試験時間が長いので、考察問題や論述問題、計算問題など時間のかかる問題をじっくりと考えることができる。論述問題や計算問題は、典型的な問題を一通り解けるように練習しておく。やや難しめの実験考察問題が出題され

ることが多いので、与えられた情報を正確に読み取るように演習しておこう。25年度は出題されなかったものの、描図問題はよく出題されるので、日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	弾性力、電流が作る磁場、ドップラー効果、電子ボルト・物質波	空所補充	★★☆☆☆
2	力学	動く滑車につけられた2物体の運動	空所補充・選択	★★☆☆☆
3	電磁気	コンデンサー内部の電場と電位	記述・描図	★★☆☆☆
4	波動	レンズ	空所補充・選択・記述	★★☆☆☆
5	熱力学	気体の状態変化	空所補充・選択・記述	★★☆☆☆

大問5問構成で、大問1は小問集合、その他は力学、電磁気、波動、熱力学からの出題。24年度は、大問5が原子から出題された。解答形式は空所補充、選択など多岐にわたり、25年度はこれまであまり見られなかったグラフの描図も出題された。さらに大問5(5)では論述問題が出題された。過去問演習を通じて、これらの解答形式は一度確認して

おいた方がよいだろう。ほぼすべての問題が基本～標準レベルの問題で構成される。また問題の誘導も丁寧なので、多くの受験生にとっては取り組みやすいと考えられる。時間的にも余裕があるため、高得点の勝負となることが予想される。また過去には、小問集合で現象名、公式名、人物名など暗記事項が出題されたこともあるため、対策しておきたい。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	指数関数	II n 乗根の定義、指数法則	記述	★★☆☆☆
2	場合の数	A 条件をみたす文字列の個数	空所補充	★★☆☆☆
3	三角関数	II 共有点の個数	空所補充	★★☆☆☆
4	積分法、平面上の曲線	II、C 極方程式で表される2曲線で囲まれる部分の面積	空所補充、記述	★★☆☆☆

16年度以降、大問4で出題されていた証明問題が大問1に移り、小問集合がなくなった。24年度までの証明問題は、整数に関する難度の高い問題が多かった。証明問題を除く3つの大問を確実に得点することが重要だ。大問2は、他大学ではあまり見かけない形式や範囲の問題も

出題されることがあるが、難問ではない。解ける問題から確実に解いていくとよい。過去には数値計算などで計算が煩雑な問題が出題されたこともあるので、十分な計算力も養う必要がある。また、データの分析が大問として2度出題されたことがあるので注意したい。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 易化

時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	無機	陽イオンの定性分析	選択・記述	★★☆☆☆
2	理論、有機	アミノ酸の性質、電離平衡、電気泳動	選択・記述	★★☆☆☆

21年度以降、大問2題が続く。大問1は金属イオンの分離で、1行の論述と多くの化学式や色を問う内容。大問2はアミノ酸の電荷と電離平衡に関する設問だった。ともに例年より解きやすかった。複数行の論述の出題が続いてい

たが、25年度は1題のみだった。大問2題の形式は愛知医科大と同様で、苦手分野で大幅な失点がないように幅広く基本事項を押さえておこう。解答時間をしっかりと使って見直すこと。後期の過去問も参照しておくとうい。

聖マリアンナ医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

読解の土台として単語帳を1冊しっかり覚える。読解対策としては『英語長文出題パターン2・3』『やっておきたい英語長文500・700』を利用して大問2の内容一致対策、『新こだわって！英語長文読解標準』で記述対策をするとよい。文構造を意識すると記述問題に役立つだけでなく、大問3の句の空所補充にも役立つので、『英文熟考上・下』を演習する。大問3対策としては獨協医科大学の2Bや東京医科大学の2021年度以前の大問4を利用して単語ではなく、英文の一部を挿入する練習をするとよい。他の私大医学部入試問題と比較すると、日本語による記述量が多く、合否を分ける問題となるため、100語～150語の日本語での内容説明の練習と講師による添削は欠かせない。

【数学】

大問1～3は通常の解法で解ける問題が多く出題されるので、『チャート』や『チェック&リピート』などの標準的な参考書・問題集で定型解法の習得に取り組んでおくことよい。ただし、日頃から数値が煩雑になる問題でも面倒がらずに計算する習慣をつけておくべきである。この大問1～3でしっかり得点することが重要である。大問4は完答できなくてよいので、整数問題や背理法、数学的帰納法などの証明問題の練習をしておくことよい。

【化学】

記述形式で試験時間が長い（2科目150分）。過去の入試問題と近い内容が扱われることがあるため、前期・後期の出題内容を把握しておこう。数行の論述対策では重要語句の定義や考察内容もあり、普段から化学現象、実験操作の意味を簡潔に説明する練習が必要である。『化学の新標準演習』『エクセル化学〔総合版〕』などで化学用語、計算問題や論述を鍛えたり『フォトサイエンス化学図録』で化学反応式、実験図、物質の特徴を広範囲にチェックしておこう。

【物理】

過去には非常に解きづらい問題が散見されていたが、2023年度入試以降は非常に解きやすい問題で構成されている。よって過去問演習を行う際は、23年度入試以前とそれ以降では難易度が違うことに注意しなければならない。また2026年度入試も、ここ数年の難易度が続くのであれば、教科書傍用の問題集や「良問の風」程度の問題集を解き込めば、十分に高得点を獲得できる力はずくだろう。ただし合格点が非常に高くなることが予想されるので、過去問演習を通じてケアレスミスへの対策を行っておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。論述問題と計算問題が合否を分けるため、『記述・論述問題の完全対策』や『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』などを使って典型的な問題は一通り解けるようにしておこう。また、過去問の類似問題が出題されることもあるため、過去問演習は極めて有効であり、丁寧に取り組んでおきたい。

東海大学

2025年度
入試分析

英語(2/2)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準		前年との難易度比較	やや易化	時間に対する分量	適量
大問	分野	長文の難読単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学系 約950語	「栄養価が低下した作物への対処法」についての長文問題(内容一致・空所補充・同意語選択・内容真偽)	選択	★★☆☆
2	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
3	語彙	—	同意語選択	選択	★★☆☆
4	会話文	—	「母親への誕生日プレゼントについて話し合う4人の子供たち」と「会議の準備の最終確認」についての会話文(同意表現・内容一致)	選択	★★☆☆
5	読解	—	文整序4題	選択	★★☆☆
6	読解	社会系 約150語	「小売売上の成長率」についての長文問題(空所補充)	選択	★★☆☆
7	読解	人文系 約200語	「大西洋横断を試みたマリ帝国の王」についての長文問題(英文和訳)	記述	★★☆☆
8	読解	科学系 約100語	「一貫した良質な睡眠の大切さ」についての長文問題(和文英訳)	記述	★★☆☆

出題形式に変化はない。大問2の文法問題が標準レベルで、大問5の文整序の選択肢の最初の記号がすべて同じになったため解きやすくなり、全体として24年度より易化した。読解問題の対策としては、段落ごとの内容一致問題が出される

ので、段落要約は欠かせない。文法は基本問題が中心のため、オールインワン系の問題集を1冊完成させる。語彙の問題は標準より上のレベルなので、単語帳を最後までしっかりと覚える。最後に過去問で時間内に解答する練習をする。

数学(2/2)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★☆☆☆ 易			前年との難易度比較	やや易化	時間に対する分量	適量
大問	分野		内容	出題形式	難易度	
1	数列	B	部分分数分解によるΣ計算	空所補充	★☆☆☆	
	指数関数	II	指数関数の最大	空所補充	★☆☆☆	
	式と証明、数学と人間の活動	II	二項定理、余り	空所補充	★☆☆☆	
	場合の数	A	サイコロの目に関する確率	空所補充	★☆☆☆	
	微分法	II	3次関数の値域	空所補充	★☆☆☆	
	三角関数	II	加法定理	空所補充	★☆☆☆	
2	積分法	II	放物線と直線で囲まれる部分の面積	空所補充	★☆☆☆	
	空間ベクトル	C	垂心の足、2直線の交点	空所補充	★☆☆☆	
3	図形と方程式	II	角の二等分線、内接円、2円と直線で囲まれる部分の面積	空所補充	★☆☆☆	

22年度に数学Ⅲが除外されて以降、易化が止まらない。大問1は基本的なレベルの小問集合で確実に得点したいが、時間を使い過ぎないことも重要だ。大問2・3は誘導に従って解いていく標準的な問題で、25年度は丁寧すぎる誘導だっ

た。近年は易化傾向にあるが、誘導に乗りづらい年度もあったので、時間内に解き切るには各分野の典型解法が瞬時に浮かぶように練習しておきたい。特に、微分法・積分法、確率、数列、ベクトルは重点的に練習しておくこと。

化学(2/2)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度		☆☆☆☆ 易	前年との難易度比較	やや易化	時間に対する分量	適量
大問	分野	内容		出題形式	難易度	
1	無機	NaCl 結晶格子、イオン結晶、イオン半径		選択	☆☆☆☆	
2	理論	水上捕集による気体の定量、気体の製法		選択	☆☆☆☆	
3	理論、無機	硫化水素、pH、溶解度積、硫化物沈殿		選択・記述	☆☆☆☆	
4	有機	アセチレン、芳香族化合物の構造と反応		空所補充・選択・記述	☆☆☆☆	
5	有機	セルロース、アセテート繊維、天然ゴム		選択・記述	☆☆☆☆	

大問5題。各大問は小問2～7問で構成。計算精度が求められるが、解きやすい典型問題が増加した。大問5では式量や分子量を覚えるとい計算問題があった。解答用紙にマークと記述の両方の解答欄があるが、マークの設問が多

い。様々なバターンの演習を繰り返し、教科書の化学反応式やトピック、資料集のデータを把握しておこう。例年、出題内容とレベルが安定しているので、過去問は各年度2日分チャレンジしてほしい。

生物(2/2)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度			★★★★☆	やや難	前年との難易度比較	↓	やや易化	時間に対する分量	↑	多い
大問	分野		内容				出題形式	難易度		
1	生命現象と物質	生物	代謝				選択	★★★★☆		
2	生態と環境	生物	物質収支				選択	★★★★☆		
3	生物の進化	生物	霊長類の進化				選択	★★★★☆		
4	生命現象と物質	生物	突然変異				選択	★★★★☆		
5	体内環境の維持、 生物の進化	生物基礎、 生物	免疫、進化				選択	★★★★☆		

24年度と同様に大問5題構成で、大問4のみが記述式で、残り4題がマーク式だった。計算問題や考察問題の出題が多く、大問数も5題と多いので、時間に対する分量は多めだ。知識問題は標準的な難度の問題が多いので、

素早く処理して難解な考察問題にできるだけ多くの時間を費やせるようにすることが重要。特に「人体」「遺伝子」「発生」に関する問題は考察力を必要とする設問が多い傾向があるので、十分な演習を積んでおく。

物理(2/2)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度		★★★★ 標準	前年との難易度比較	↑ やや難化	時間に対する分量	□ 多い
大問	分野	内容	出題形式	難易度		
1	力学	2物体が合体した後の半振動・摩擦のある区間の運動	記述	★★★★		
2	電磁気	質量分析器(磁場中の荷電粒子の運動)	記述	★★★★		
3	波動	ビームスプリッター(光波の干渉)	選択	★★★★		
4	熱力学	熱サイクル、負の傾きの直線過程での吸熱から放熱に転じる状態の解析	選択	★★★★		

例年通り大問4題構成で、2題が記述式、残り2題がマーク式。ここ数年は標準レベルの典型問題から出題されていたが、25年度は難度が上昇し、元の難度に戻りつつあるようだ。問題のテーマは問題集でよく見かけるようなもので、一見解きやすそうに見えるが、大問の後半に進むにつれ、解答の方針

さえ立たない問題が増えてくる。このような問題に手をつけると、70分の解答時間があっという間になくなり、比較的解きやすい問題に時間が使えず合格点が獲得できない。解答を始める前に全体を見渡して解きやすい問題から手際よく解答し、難度が高い問題は手を出さないなどの対策が必要だ。

東海大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

大問1の長文対策としては『英語長文出題パターン2・3』や内容一致問題の多い共通テストの論説文などを演習する。段落要約を心掛け、選択肢を吟味する際には消去法も駆使する。大問2の文法問題は純粋な文法事項を問うものが多いため、『エバグリーン』で内容を理解してから、その準拠問題集『文法を身につけるトレーニング』で理解度を確認する。余裕があればオールインワン系の問題集（『ネクストステージ』など）の文法分野を中心に演習する。大問3の同意語問題は難しいものもあるが、文脈判断、もしくは消去法で正解できる。しかし『ターゲット1900』はしっかり覚えておきたい。大問4・5・6は過去問で練習すれば問題ない。最後に記述式の大問7・8だが、英文和訳は『英文熟考・上下』『英文解釈技術70』を利用し、今年度の様な構文の出題に備えておく。和文英訳は『Z会の英作文のトレーニング・標準編』を利用して十分に練習しておきたい。時間の使い方も重要であるため過去問演習も欠かせない。

【数学】

まずは、『チャート』などの標準的な参考書で基本的な解法を習得することが必要である。小問集合で時間を使い過ぎないために、問題文を読んで瞬時に解法が浮かぶようになるまで、繰り返し学習することが重要である。その上で、本大学の過去問や杏林大学・獨協医科大学・川崎医科大学などの過去問を使って誘導形式の練習に取り組むとよい。

【化学】

マーク＋記述形式。理科1科目の70分。問題は基本～標準レベル。計算が頻出で、高分子の出題が続いているため、『エクセル化学〔総合版〕』などで演習を積んでおこう。『化学反応式 まとめとポイント』を活用して、無機とあわせて各分野の様々な化学反応式（酸化還元滴定、反応エンタルピー、有機化合物など）も書けるようにしておこう。『チャート式化学基礎・化学』で細かい知識を習得しよう。過去問は2日間ともに解いておくとよい。

【物理】

ここ数年（24年度、23年度入試）は比較的難易度が落ち着いていたが、2025年度入試は過去の難易度に戻ってしまった。2026年度入試では、高難度の入試が続くのか、また24年度入試の難易度に戻るのかはわからないため、どちらの準備もしておく必要がある。2025年度入試の難易度が継続されると考えた対策法は、「問題の取舍選択」がキーワードとなる。難易度が高すぎる問題、つまりどう取り組めばいいのか見当もつかない問題については、解答を一旦保留し、その他の問題に移り、もし解答時間が余ればその時に解答することを心掛けてほしい。もし、高難度の問題に時間を割くことができなくても、過去の問題レベルなどを考慮すると、解かなくても十分に合格点に達する。欲を出して、全ての問題に手をつけ、その結果全ての解答が中途半端になることが一番怖い。標準的なレベルの問題を確実に得点する練習を、過去問を用いて行っておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。考察問題が頻出なので、苦手な場合は『生物〔実験・考察問題〕の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基礎を固めた後、過去問などを使って演習をしていくとよい。また、頻出の計算問題対策も兼ねて、『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』を学習しておくとうい。

金沢医科大学

2025年度 入試分析

英語(前期・1/30)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	社会系 約900語	「ゴミの少ない生活のために必要なこと」についての長文問題 (欠文補充・指示語指摘・空所補充・発音・アクセント・内容一致・主題選択)	選択	★★☆☆
2	読解	医療・社会系 約950語	「治療の仕方を変えるデジタル機器」についての長文問題(発音アクセント・同意語選択・空所補充・内容一致・主題選択)	選択	★★☆☆
3	読解	社会系 約800語	「人間の身長増加とその世界的傾向」についての長文問題 (空所補充・主動詞選択・指示語指摘・内容一致・グラフ完成・主題選択)	選択	★★☆☆

例年通り、25年度もグラフ完成問題が出題された。長文問題は3題のみだが、内容理解に関する問題だけではなく、発音・アクセントや主動詞選択など、バリエーションに富む。大問で出題されることはないが、空所補充などで文法知識を利用できるので、文法学習は欠かせない。ま

ず語彙力を付け、文法を満遍なく学習する。次に段落要約を意識して読解演習に取り組む。その際、文中空所補充が出題されている読解問題ならなおよい。総語数は2,500語を超えるので、過去問で時間内に解答できるように工夫する必要がある。

数学(前期・1/30)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率、平面ベクトル	A、C サイコロによって定まるベクトルに関する確率	空所補充	★★☆☆
2	図形と方程式、微分法、積分法	II 放物線と2接線で囲まれる部分の面積、三角形の面積	空所補充	★★☆☆
3	データの分析、数列	I、B 第n群のデータの平均・標準偏差	空所補充	★★☆☆
4	積分法、平面上の曲線	II、C 放物線と円の交点における接線と囲まれる部分の面積	空所補充	★★☆☆

大問1で10年連続出題されている確率は、数え上げる問題が多い。大問3は1日目・2日目にベクトル、数列が出題される。大問4は、24年度までは8年連続で数学Ⅲの微分法・積分法が出題され、接線、法線、極値、変曲点、面積、体積といった典型問題が多かったが、25年度は数学Ⅱで対応できる内容だった。例年は難度は高くなく計

算量も多くないが、ゆっくりと解法を考えている時間はないため、易しめの問題集で解法が瞬時に浮かぶようになるまで反復練習をするといよい。図形が絡んだ問題の出題も多いため、苦手な人は初等幾何、三角比、座標、ベクトル、複素数平面などの分野を超えた総合的な練習が必須。需得点が必要だ。

化学(前期・1/30)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

分野	内容	出題形式	難易度
1 理論5問	電子数、塩の液性、イオン結晶、アンモニアとその塩の性質、二酸化炭素の逆滴定	選択	★★☆☆
2 無機2問	鉄の性質、アンモニアソーダ法(物質の名称、操作、量的関係)	空所補充・選択	★★☆☆
3 有機3問	炭化水素(構造、反応量)、アミノ酸の電離平衡、脂肪族化合物の構造決定	選択	★★☆☆

小問集合10問、2科目で90分。小問数は24年度より2題増えたが、全体の出題量に変化はない。例年同様、計算結果を各位で答える計算問題があった。正誤問題で1つの選択以外にすべてを選択する設問も多く出題される

ので、的確に答えられるように準備しておこう。高分子はアミノ酸・タンパク質と併せて、糖類・合成高分子化合物の対策もしておこう。試験時間が短いため、解答しやすい問題から解くように心がけよう。

生物(前期・1/30)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 易

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容		出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、生物	遺伝子頻度、小胞体のはたらき、輸送タンパク質、光合成、ホルモン、社会性昆虫、生存曲線	選択	★☆☆☆
2	生命現象と物質	生物	遺伝子の発現	選択	★☆☆☆
3	生物の環境応答	生物	花芽形成	選択	★☆☆☆

24年度と同様に大問3題構成のマーク式。大問3題のうち小問集合が1題で、あとの2題はテーマ別の問題。計算問題は毎年度5問前後出題されるので、典型問題は解けるようにしておこう。また、小問集合があるため、出

題範囲が多岐にわたる。特別難しい知識が問われるわけではないので、知識に偏りがあると思わぬ失点をしてライバルに差をつけられるおそれがある。広く浅く知識の確認をしておくことが望ましい。

物理(前期・1/30)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学、波動	等速円運動する天体から発せられる光のドップラー効果	空所補充・選択	★★☆☆
2	力学	可動台上での小球の運動	空所補充・選択	★★☆☆

ここ数年、大問2題構成が定着し、力学と電磁気からの出題が多いが、25年度は1日目・2日目ともに電磁気からの出題はなかった。両日とも難度にほとんど差はない。例年、基本～標準レベルの典型問題で構成されるが、25年度は難度が若干上がり、また、煩雑な数値計算を要

する問題が増加した。そのため、24年度以前に比べ解きにくく感じた受験生が多かったようだ。25年度の難度が継続されるなら、標準～発展レベルの問題集を解き込んでいた方がよいだろう。また、計算が非常に重いため、手際よく丁寧に計算する訓練も積んでおきたい。

金沢医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

空所補充・同意語選択の出題率が高く読解の基礎となるので、『ターゲット1900』で語彙力をつける。以前より文法・語法に関する問題は減ったが、それでも空所補充などでは利用できるため、『ネクストステージ』は1冊しっかり仕上げておきたい。読解量が多いため速読に重点を置きがちだが、まずは『やっておきたい500・700』や『英語長文出題パターン演習2・3』を利用して精読から始めるとよい。いくら速く読んでも内容が理解できていないと、合格点には到達できない。速読はできた方がいいが、どうしても苦手であれば、精度を上げることで合格点に近づくこともできる。読解量が多いので直前期には本学の過去問で時間配分を考えながら演習しておくこと。

【数学】

難易度の高い問題は出題されないため、頻出分野を中心に『チャート』や『チェック&リピート』などの標準的な参考書や問題集で基本事項を習得し素早く扱えるように十分に演習に取り組んでおくことが重要である。確率では数え上げ、微積分は図を描いて面積を求めることはしっかり訓練しておく。同大学の過去問だけでなく、埼玉医科大学や獨協医科大学などの過去問で60分で4題解く練習も有効である。

【化学】

マーク形式。2科目90分。出題構成がやや特有のため、過去問やメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 金沢医科大学』に取り組んで傾向や時間配分を把握しておこう。解きやすい問題が多いが、まれに点差のつく設問もある。『高校これでわかる化学基礎・化学』や『リードLightノート化学基礎・化学』を繰り返して解答スピードを上げておこう。実験問題ではその意義、器具の使用法、試薬の選定や注意事項に気をつけておこう。

【物理】

2025年度は前年に比べ難易度が上がってしまった。さらに、数値計算も非常に重たくなり、例年に比べ時間的な余裕もあまりなかった。この難易度が継続されることを想定すると、「名問の森」などの発展的な問題集まで解いておいた方がよさそうである。また、2025年度入試の過去問を用いて、計算問題に対応する力も養っておきたい。2025年度入試はほぼ全ての問題が計算問題であったため、丁寧な計算を積み重ねていかなければ、合格点には到達できない。問題を考える力、計算力の2つの力が必要となる入試である。2024年度以前の難易度が低い問題ではなく、2025年度入試の過去問を用いて対策をしたおきたい。

【生物】

小問集合があり幅広い範囲が出題されるため、教科書の学習を全分野に渡ってきっちりと行う必要がある。『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。特に各分野の基本用語と典型的な計算方法の習得を意識して演習すること。その上で過去問を使って特徴的な出題に慣れておけば十分に対応できる。頻出の計算問題が苦手なら『ゼロからはじめる計算問題の解き方』や『大森徹の生物計算・グラフも問題の解法』を使って苦手を克服しておくこと。

愛知医科大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法、語彙	—	空所補充	選択	★★★☆☆
2	文法、語彙	—	空所補充	選択	★★★☆☆
3	文法、語彙	—	空所補充	選択	★★★☆☆
4	英作文	—	語句整序	選択	★★★☆☆
5	読解	—	語・句補充	選択	★★★☆☆
6	読解	医療・科学系 約700語	「腎臓移植の歴史」(空所補充・同意表現・内容一致)	選択	★★★☆☆
7	読解	社会・科学系 約600語	「気候変動への向き合い方」についての長文問題(同意表現選択・指示語指摘・空所補充・内容説明・内容真偽)	選択	★★★☆☆
8	読解	人文系 約600語	「東アジアの言語と英語の数字の言い方の違いがもたらすもの」(段落補充・同意語選択・空所補充・同意語選択・同意表現選択・内容一致)	選択	★★★☆☆

大問1の会話形式の空所補充が大問2題に。大問2の単語完成がなくなり、語彙や文法の空所補充へと変更になった。長文読解で多くを占めていた語句の空所補充が大幅に減少し、同意表現選択が増えた。さらに段落補充や内容一致なども出題され、内容理解を重視する形式へと

変更された。対策としては語彙・語法・イディオムなどの基本知識の習得が必須で、文脈から判断する問が増加傾向のため、内容理解も欠かせない。大問5のような語・句補充対策として文構造の把握も必要なため、英文解釈にも取り組んでおきたい。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数学と人間の活動	A 正の約数が12個の自然数	記述	★★★☆☆
	場合の数	A 重複組合せ	記述	★★★☆☆
	図形と方程式	II 2円に外接・内接する円	記述	★★★☆☆
	三角関数、微分法	II 3倍角の公式、最大・最小	記述	★★★☆☆
2	数列、極限	B、III ベル方程式の解に関する漸化式、極限	記述	★★★☆☆
3	空間ベクトル	C 球面と平面の交点上の点とxy平面の距離の最大	記述	★★★☆☆

大問1は答えのみを記入する小問集合、大問2・3は過程も書かせる大問。大問3の空間ベクトルは、平面の方程式を扱えるかどうかで差が出たと思われる。確率、数列、極限、積分法の出題頻度が高い。近年は定番の問題が中心で易しめだ。以前は小問による誘導がないことも

多く、年度によって難度にかなりの差があった。公式や解法の丸暗記では解けないものも出題されるので、考える力が必要。典型問題の解法を習得した上で、標準的な国公立大用の問題集などで演習するとよい。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	鉄に関する総合問題(同位体、結晶格子、鉱石、製鉄、イオンの性質、酸化還元滴定)	空所補充・記述	★★★☆☆
2	有機	ビニロン(反応過程、アセタール化の割合)、ナイロン66の平均分子量	記述	★★★☆☆

大問2題。大問1は理論を含む金属元素の総合問題(過去のCu・Alと同形式)、大問2は合成高分子化合物だった。空所補充などを素早く済ませて、工夫しながら計算に取り組む必要がある。有効数字指定があるが、桁が多くて、

約分の配慮を感じる計算問題もあった。日頃から各分野を満遍なく学習して多様な出題に備え、特に滴定実験などの量的関係の扱いを強化しておこう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 遺伝子組み換え	選択・記述	★★★☆☆
2	生命現象と物質、 遺伝情報の発現と発生	生物 被子植物の生殖細胞形成、光合成	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
3	生物の環境応答	生物 神経系、受容器	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。例年、論述問題が5~10問程度出題されることが多い。普段から言葉の定義や現象を正しく表現できるように練習しておく必要がある。また、25年度は出題されなかったが、描図問題の出

題頻度が比較的高いことも特徴的。日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。本学の問題は考えすぎると時間が足りなくなるので、解ける問題から素早く解いていくことが必要だ。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	電磁気	電場と電位	選択・記述	★★★☆☆
2	力学、波動、原子	単振動、定在波、物質波	記述・描図	★★★☆☆

24年度以前は大問3題で構成されていたが、25年度は大問2題構成となり、そのうち大問2に力学、波動、原子の各分野の中間が3題含まれていた。大問2は、それぞれの中間が独立しておらず、互いの関連性を議論していく内容となっており、受験生の物理の力を試す問題となった。大問1はかつて標準的な内容だったが、大問2は高校物理の範囲を若干逸脱する内容で、多くの受験生が戸惑っただろう。しかし、

誘導が比較的丁寧だったため、作題者の意図を読み取り素直に解答できれば、全く手が出せない問題ではなかった。ただし、大問1題あたりの設問数が多く、また問題文も比較的長いいため、じっくりと考える時間的な余裕はない。解ける問題を見極め、手際よく正答を積み重ねていく力が必要だ。過去問演習を通じて、試験時間内により多くの正答をめざすため、問題を解く順番などの方策を練っておきたい。

愛知医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

語彙力は全ての問題の土台となるため、『ターゲット1900』をしっかりと覚える。その際見出し語だけではなく、派生語や対義語などもすべて覚える。大問3では文法の知識も問われるため『ネクスト・ステージ』にも取り組む。大問4や長文中で出題される語句整序の問題演習も欠かせない。最初は『英語整序問題が面白いほど解ける本』のような標準的な問題集から始め、『英語整序問題集精選600』で実践力を身に付ける。大問5の語・句補充は文脈だけではなく、文構造や文法的観点から判断するものもあるため、『英文熟考上・下』で英文解釈の練習し、『エバーグリーン』を読んで、関係詞と接続詞の役割を理解する。最後に読解だが『やっておきたい英語長文300・500』や『1日30分・40分の英語長文』などを使って、語句と文構造を意識した精読を心掛ける。メディカルラボの生徒であればチェックテスト読解のベーシックBやスタンダードBは空所補充に特化した形式であるため、これを愛知医科大学の対策に利用すると良いだろう。

【数学】

まずは『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で定型的な問題の解法を身に付ける。ただし、表面的な解法の丸暗記では通用しないので、解法の本質をしっかりとつかむことが重要である。例えば、誘導がなくてもとけるようにしておきたい。その上で、『プラチカ』などの標準的な国公立大学用の問題集などで、複数の分野にまたがった総合的な問題の演習をするとよいだろう。

【化学】

記述形式。2科目100分で大問2題構成になっているが、例年、出題量が多い。確実に典型問題を解けるように『化学の新標準演習』『化学重要問題集』などをしっかりと進めよう。理論では気体の性質、化学平衡、酸化還元、電気化学の計算力を強化しておく。無機では「銅」「アルミニウム」「鉄」の総合問題が出題された。有機では構造決定が頻出だったが、25年度は合成高分子の出題があった。今後も語句・性質・計算の3点をチェックしておくとうい。

【物理】

2025年度入試の大問2を除き、例年の出題内容は標準レベルの問題が大半である。この手の問題に関しては「名問の森」などの標準～発展レベルの問題集をやり込んでおけば十分に対応できるだろう。しかしながら、2025年度大問2のように、発展的な内容の問題については、問題文を丁寧に読み、誘導に沿って解答していく訓練を積んでいくしかない。実際に2025年度大問2を用いて、どのように解答を進めていけばいいのか、一度見ておいた方がいだろう。しかしながら、この手の問題の正答率はあまり合否に関係がないものと考えられる。なぜならば、本学入試は試験時間に比して問題数が非常に多いため、標準レベルの問題を解くだけでも時間がかかってしまう。よって、発展的な問題はそもそも問題自体に取り組むことができない可能性があるためである。過去問を用いて「落とせない問題（標準レベルの問題）」と「後に回す（捨てる）問題（発展的問題）」をしっかりと見極め、標準問題を丁寧に解答していく訓練を積んでおきたい。

【生物】

『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を仕上げた上で、余裕があれば実験考察問題を中心に『標準問題精講』など発展的な問題集にも取り組むと良い。論述問題が多いので、『記述・論述問題の完全対策』などで学習しながら、普段から用語の定義や内容を自分でアウトプットできるように練習しておく必要がある。また、描図問題もよく出題されるので、有名なグラフや図は教科書や資料集を参考にして書けるようにしておくとうい。

藤田医科大学

2025年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	英文の難関単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★☆☆
2	英作文	—	語句整序	選択	★★☆☆
3	読解	科学系 約600語	「食物アレルギーと深い関係があるTGFベータ」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆
4	読解	医療・科学系 約600語	「他者の手を握った時の前頭前皮質(前頭前野)の反応」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆
5	読解	科学系 約700語	「太陽フレアによる炭素14の増加から読み取れること」についての長文問題(内容説明・段落補充)	記述・選択	★★☆☆
6	読解	医療・科学系 約400語	「長鎖オメガ3脂肪酸の恩恵」についての長文問題(和文英訳)	記述	★★☆☆

大問1の文法問題が2題増え、大問3・4の読解問題がそれぞれ1題ずつ減った。問題数自体には変化はないが、他大学では見られない傾向だ。また、大問2の語句整序が例年より難化した。例年より大問5の読解量が減少したため、時間内に解答できる問題量になった。対策としては文法内

容の出題が増えたため、オールインワン系の問題集を演習する前に、文法書を読んで本質を理解するとよい。読解問題対策としては、標準的なマーク式問題集と国公立大2次対策問題集の演習をする。最後に過去問で傾向をつかんでおく。

数学(前期)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	微分法的应用、積分法的应用	Ⅲ 法線、回転体の体積	空所補充	★★☆☆
	複素数平面	C ド・モアブルの定理	空所補充	★★☆☆
	複素数と方程式	Ⅱ 2次方程式の実数解条件、解と係数の関係	空所補充	★★☆☆
	確率	A 最大	空所補充	★★☆☆
	極限	Ⅲ 無理関数の極限	空所補充	★★☆☆
	数列	B 階差数列	空所補充	★★☆☆
	指数関数	Ⅱ 交代式の最小	空所補充	★★☆☆
2	データの分析	I 分散	空所補充	★★☆☆
	積分法	Ⅱ 2曲線と共通接線で囲まれる部分の面積	記述	★★☆☆
3	数学と人間の活動	A 不定方程式	記述	★★☆☆

24年度以降、数学Ⅲの出題が減っている。25年度は、記述形式の大問2・3に数学Ⅲの出題がなかった。大問1のマーク式の小問集合は24年度と大差はなく、基本的な問題も多く出題された。過去には、大問1でデータの分析、循環小数、正多面体なども出題されているので注意

したい。例年、大問2・3のどちらかは難度の高い問題が多い。かなりの知識と思考力が必要な問題も多く、難関大や国公立大の問題をどれだけ数多く経験しているかがポイントとなるだろう。小問集合のできが合否を分けていると考えられる。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	酸化還元滴定	空所補充・記述	★★☆☆
2	理論	溶液の性質(蒸気圧降下、ラウールの法則)	記述	★★☆☆
3	理論	電気分解、総イオン濃度	選択・記述	★★☆☆
4	有機	糖類(ヨウ素デンプン反応、分枝構造)、アミノ酸(電離平衡、等電点)	空所補充・記述	★★☆☆
5	有機	脂族炭化水素の構造決定、陽イオン交換樹脂	記述	★★☆☆

大問5題。24年度より大問が1題減少したが、全体的な解答量は多かった。大問2には応用レベルの演習が必要となる。大問5はスルホ基でない官能基と気づくのがポイントだった。例年、実験操作や定量関係への対応力や思考の柔軟性、読解力を求められ(25年度の後期日程ではR/S表示法やグリニャール反応に関する出題あり)、条件の正確な把握が重要だ。前期と併せて後期の過去問も解いておくとともに、メディカルラボの実力判定テストも活用しよう。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	遺伝情報の発現と発生、 体内環境の維持	生物基礎、 生物	ヒトの生殖細胞形成、ホルモン、心臓	空所補充・選択・記述	★★☆☆
2	生物の進化、 生命現象と物質	生物	染色体の構造と変異	選択・記述・描図	★★☆☆
3	生命現象と物質	生物	酵素	選択・記述・描図	★★☆☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。単純な知識問題ではなく、リード文を読んで考えさせる問題が多い。論述問題、計算問題は例年通り出題されている。25年度にも出題された描図問題は過去に

何度も出題されているので、日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。見慣れない問題や内容を把握しにくい問題が出題されることもあるので、過去問で感覚をつかんでおくといよい。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	剛体のつり合い	記述	★★☆☆
2	波動	ニュートンリング	記述	★★☆☆
3	電磁気	磁場中の荷電粒子の運動(質量分析器)	記述	★★☆☆
4	力学	自由落下する2物体の衝突	記述・描図	★★☆☆

ここ数年は大問4題で、力学、電磁気から3題、残り1題は波動、熱力学のどちらかで構成される。過去には原子分野からの出題実績もあるため、原子の学習もおろそかにはできない。25年度は、24年度と比べやや難化。問題自体は一度は見たことのある典型問題で構成されているが、問題の後半になるにつれ難易度がつかみにくい設問

が増え、煩雑な数値計算やグラフの描図を要求される。ほぼすべての大問で後半の難度が高かった。この難度が26年度も続くかと仮定すると、各大問の後半の設問に時間をかけすぎることのないよう、時間配分には十分注意して解答してほしい。出題形式は、記述、選択、描図、論述など多岐にわたるため、過去問演習で慣れておきたい。

藤田医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

大問1の文法問題が増えたため、これらに対して意識を高めておく。文法は頻出問題のみの出題ではないため、対策として文法書『エバーグリーン』を読み理解して『エバーグリーン準拠のトレーニング』を演習してから、『ネクスト・ステージ』を1冊仕上げる。その際に暗記に頼るのではなく、なぜそれが答えになるのかを考え、消去法で解くとよい。語句整序が難化傾向にあるので、『英語整序問題集精選600』も演習する。大問3・4の読解対策は『英語出題パターン2・3』を演習するとよい。メディカルラボの生徒ならチェックテスト読解のベーシックA・スタンダードA・Bを演習すると、本学で扱っている内容に近い題材の英文が多くあり、出題形式も似ているので積極的に利用して欲しい。大問5の長文は『やっておきたい英語長文700』で練習し、チェックテストハイレベルBを利用するとよい。大問6の英作文は『英作文のトレーニング必修編』で十分対応できる。最後に過去問演習で時間の使い方を考える。

【数学】

昨年度までの小問集合対策としては、全範囲の基本的な知識の整備が欠かせない。『チャート』などの標準的な参考書の例題は全範囲にわたって解法をマスターし、最後まで自分の力で正解を出す練習を重ねておきたい。小問集のできが合否に大きく影響する。大問対策としては、国公立大学用の対策が必要である。『チョイス』、『プラチカ』、『スタンダード演習』などの入試用問題集でしっかり練習を積み、また、答えを合わせることよりも解法の本質をつかむ訓練が重要である。さらに余裕があれば、少し難しめの国公立大学の2次試験の問題で論証の練習をするとよい。

【化学】

記述形式。大問数も多く解答スピードが要する。標準レベルだが、高度な解答力を必要とする問題もある。前期・後期の過去問はともに攻略しておく。『化学の新演習』★★レベルを押さえておきたい。例年、正誤や文字式計算、グラフが多い。滴定実験、化学平衡、化学反応式、構造決定や高分子計算が重視されている。例年、好評のメディカルラボ『私立医学部大学別 実力判定テスト 藤田医科大学』を活用しておく。『化学の新演習』★★レベルを押さえておきたい。

【物理】

本学入試の特徴は、①力学の出題では「剛体のつり合い」が頻出であること（2025年度大問1など）、②設問数が極端に少ない問題が出題されることがあること（2025年度大問1など）である。まずは、入試標準レベルの問題集を用いて、剛体のつり合いについての様々な問題に触れ、解答の流れを押さえておきたい。また、設問数が少ない問題の対策としては、問題集の問題の最後の設問を、途中の誘導なしで自力で解く訓練を積んでもらいたい。

【生物】

『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を仕上げた上で、余裕があれば実験問題を中心に『標準問題精講』など発展的な問題集にも取り組むと良い。人体に関連のある分野の詳細な知識問題への備えは必要であり、資料集や詳しい参考書を活用して対策をしておく必要がある。例えば、肝臓、腎臓、脾臓などヒトの臓器や、受容器・神経・筋肉に関するやや詳細な問題が出題されたことがあるので、資料集などを使ってまとめておく。問題集では見たことのないような初見の問題や内容がわかりにくい問題が出題されることがあるので、過去問を使って慣れておくべきである。

大阪医科大学 薬科大学

2025年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	英文の単語 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文・社会系 約900語	「終活で捨てるべきものとそうでないもの」についての長文問題 (内容説明・空所補充・指示語指摘)	記述	★★★☆☆
2	読解	人文系 約850語	「印刷本の学習効果」についての長文問題(内容説明・空所 補充・英文和訳・内容一致)	記述	★★★☆☆
3	英作文	—	和文英訳	記述	★★★☆☆

出題形式に大きな変化があり、長く続いた和訳と英作文のみの出題から、25年度は下線部和訳4題と内容説明3題となったが、記述問題中心であることは変わらず。25年度は、段落要約文の空所補充や内容一致などの選択式問題が追加され、記述問題が大幅に減少した。英文内容も標準的で難解な語や構文はなく、内容理解を中心とし

た問題になった。読解問題対策としては、下線部和訳や内容説明を意識しつつ、空所補充や内容一致などが出題される可能性を考え、各段落の要約や全体の要約を意識した学習が欠かせない。易化傾向にある英作文対策は、和文英訳の標準問題集を最低1冊は仕上げるとうい。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の特徴、 体内環境の維持、 生物の進化	生物の共通性、共生説、ヘモグロビン とミオグロビン	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	生物の環境応答、 生態と環境	頂芽優勢、菌根菌	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
3	生物の環境応答、 遺伝情報の発現と発生	視覚、眼の発生	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
4	生物の多様性と生態系、 生態と環境	生態系、物質の循環、物質収支	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

24年度と同様に大問4題構成の記述式。知識問題は基本的、標準的な問題が多く、正確で深い理解が問われる。論述問題は毎年度出題され、知識論述の問題が多いので、普段から言葉の定義や現象を正しく表現できるように練

習しておく必要がある。計算問題は典型的な問題が出題されることが多い。25年度は出題されなかったが、描図問題の出題頻度が高いので、日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	積分法的应用	Ⅲ 区分求積法	記述	★★★☆☆
2	空間ベクトル	C 折れ線の長さ	記述	★★★☆☆
3	積分法的应用	Ⅲ 斜軸回転体の体積	記述	★★★☆☆
4	確率	A カタラン数	記述	★★★☆☆

24年度以降、90分で大問4題となった。見かけたことがある問題が並んだため取り組みやすさはあったが、論述力の差がつきそうな問題が多く、最後まで答えを出す部分に差が出ただろう。近年は微分法・積分法、確率、複素数平面、整数の出題が多く、証明問題も毎年度多数出題されている。公式を適用するだけで解けるような問題

ではなく、計算量が多い年度もある。国公立大の2次試験でよく見られるような融合問題や誘導問題が多い。標準的な国公立大の誘導形式の問題を十分に練習しておくとういだろう。簡潔で要領を得た答案を作成する練習もしておくこと。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	運動する箱の内部におけるばねに連結された2物体の運動	空所補充	★★★☆☆
2	熱力学	気体の混合、気体の状態変化	空所補充	★★★☆☆
3	力学、原子	中性子の発見	空所補充	★★★☆☆
4	小問集合	剛体のつり合い、抵抗での電圧降下、次元	記述・空所補充・ 選択	★★★☆☆

大問4題構成で、そのうち1題は小問集合。小問集合では、電力輸送(22年度以降は出題なし)や次元解析に関する問題が頻繁に出題されている。過去問を用いて、これらの問題には慣れておきたい。ここ数年は、比較的難度が落ち着いていたが、25年度は若干難度が上がった。大

問1・2は、前半の問題は解きやすいが、後半になると途端に解きづらく解答に時間がかかる。試験時間が60分ということを考慮すると、これらの問題で時間をとられると大きな失点につながる可能性がある。時間配分には十分注意し、解答を進めてもらいたい。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	電子軌道、電気陰性度、電荷のかたより	空所補充・選択・ 記述	★★★☆☆
2	理論、有機	アスコルビン酸とヨウ素の酸化還元反応、アスコルビン酸燃料電池	選択・記述	★★★☆☆
3	有機	メチルオレンジの合成実験と収率	空所補充・記述	★★★☆☆
4	有機	糖類の分類と分解酵素、フェーリング液の還元性、配糖体の加水分解反応(アミグダリン→青酸生成)	空所補充・選択・ 記述	★★★☆☆

大問4題。大問1は、電気陰性度からの電荷の局在の計算がやや難しかった。大問2・3の物質の構造は見慣れておきたい。大問4はシアン化水素の生成過程に誘導があり、その他は基本的だった。これと異なる配糖体が獨

協医科大学でも扱われた。今後は糖だけでなく、糖由来物質の出題が増加するかもしれない。25年度は、頻出の論述問題が出題されなかった。有効数字に気をつけ、前期・後期の過去問で応用力を磨いておこう。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

大阪医科 薬科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

基本として『ターゲット1900』の習得、『英文解釈の技術70』や『英文熟考上・下』で、文構造を意識しながら、英文を自然な日本語に訳す練習を積む。読解対策としては今年度追加された段落要約の空所補充や内容一致にも対応できるようにNew approachシリーズを積極的に利用したい。というも他の問題集とは違って復習として要約文の空所補充があるからである。その際には英文中の指示語も意識しておきたい。大問3の英作文対策はZ会の『英作文のトレーニング・必修編』から始め、余裕があれば『実践編』まで演習する。昨年度までの過去問と大きく変わってしまったので、過去問は2025年度の前期と後期に留める。国公立大の個別学力試験には同傾向の問題が多くあるため、それらを利用した方が得策だと思われる。

【数学】

まずは、『プラチカ』や『スタンダード演習』などを用いて標準的な国公立大学の誘導形式の問題演習を行うのがよい。数Ⅲは『1対1対応の演習』で標準レベルをマスターし、『やさしい理系数学』や『数学Ⅲスタンダード演習』まで練習するのが望ましい。その上で難関大学の過去問などでハイレベルな問題演習を重ねていくとよいだろう。簡潔で要領を得た答案を作成する練習もしておいた方がよい。易しい順に問題が並んでいるわけではないので、問題の難易度を見抜く力も必要である。

【化学】

記述形式。『化学重要問題集』で典型問題を攻略して『化学の新演習』など良問が多い問題集で実力をつけよう。その上で難関国公立大学や本学前期・後期の過去問に取り組もう。論述問題の対策も必須で、理由説明が出題されている。例年、差がつく大問(25年度は大問1)があり、解けるかどうかが鍵である。合成高分子の出題が少ないが、しっかり対策しておこう。教科書の発展的内容の理解や関連物質の融合問題に取り組んで応用力をつけておくとよい。

【物理】

2025年度は、ここ2、3年の入試に比べ、難易度が若干上がってしまった。しかしながら、難易度が高い問題以外は、市販の問題集に掲載されているような典型問題が大半であり、まったく手が出せない問題ばかりではない。よって入試本番では、難易度が高い問題とそうではない問題を見極める力が大事になってくる。この「見極める力」を養うためには、入試演習の際に難易度が高い問題に実際に触れ、それを解き、解説をじっくりと読みこみ、時間がかかる理由を研究しておかねばならない。入試のときにはこの手の問題は後回しにしなければならないが、なぜあとに回さなければならないのかを事前に納得させておかないと、本番で「見極める」ことはできない。多少面倒ではあるが、難易度が高い問題に対する研究もしっかりと行っておいてほしい。また、小問集合においては過去の出題（電力輸送や次元解析など）と似た問題が出題されることが多いので、この対策は過去問を用いるといいが、小問集合は他の大問に比べ解答に時間がかかる傾向にあるため、本番では小問集合は後回しにするなど、試験時間の使い方には気を付けてもらいたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。論述問題は『記述・論述問題の完全対策』などで学習しながら、普段から用語の定義や内容を自分でアウトプットできるように練習しておく必要がある。また、描図問題もよく出題されるので、教科書や資料集などで有名なグラフや図を確認するクセをつけておくこと。

関西医科大学

2025年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ やや難 前年との難易度比較 ↑ やや難化 時間に対する分量 多い

大問	分野	英文の題数 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文系 約1,000語	「言語の観点から考えるネアンデルタール人の絶滅と現生人類の生存」についての長文問題(空所補充・同意語選択・内容一致)	選択	★★★★
2	読解	医療系 約700語	「長期コロナと似た症状の慢性疲労症候群」についての長文問題(内容真偽・空所補充・内容説明・語句整序・同意表現)	選択・記述	★★★☆☆
3	英作文	—	「米国への短期留学に関する質問」について100語程度の自由英作文	記述	★★★☆☆

24年度と同様、読解問題2題と自由英作文1題の計3題からなる形式だが、設問内容はやや異なる。大問1の空所補充は語句だけではなく、10語前後の英語を挿入する形式が初めて出題された。大問2では、24年度まで大問1で出題されていた内容真偽と本文から抜き出して説明する問題が出題された。大問3は24年度と同様、100語

程度の自由英作文が出題されたが、24年度のようにグラフは出題されず、箇条書きとなっている質問内容を英語で説明する形式だった。対策としては700～1,000語程度の英文を段落要約しながら読み進める。自由英作文対策としては、普段から100語程度の英文を書き、フォーマットを作っておく。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 適量

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、 生物	モータータンパク質、バイオーム、バイオテクノロジー、呼吸、酵素、生物の分類、地球の大気と気温、慣れ	選択	★★☆☆
2	生物の環境応答、 遺伝情報の発現と発生	生物	被子植物の生殖細胞形成、自家不和合性、遺伝	空所補充・ 選択・記述	★★★★
3	遺伝情報の発現と発生	生物	発生	空所補充・ 選択・記述	★★★★
4	生物の特徴	生物基礎	体細胞分裂	選択・記述	★★☆☆

24年度と同様に大問4題構成の記述式。大問1の小問集合は毎年度8～10問出題され、25年度は8問だった。「すべて選べ」という形式で問われる問題が非常に多く、順に並べて指定の順番にくるものを複数答える問題もあるの

で、正確な知識が要求される。大問2～4は、オーソドックスな内容で標準レベルの問題が多い。しかし25年度では、大問2で出題頻度の高くない自家不和合性の問題が出題され、この問題で差がついたと思われる。

数学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ やや難 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野		内容	出題形式	難易度
1	平面上の曲線	C	放物線と円の極方程式	記述	★★★☆☆
	三角関数	Ⅱ	共有点の個数	記述	★★★☆☆
2	数学と人間の活動		A 不定方程式	記述	★★★☆☆
3	確率、極限	A、Ⅲ	ルーレットの確率、無限等比級数	記述	★★★★☆
4	積分法的应用		Ⅲ 不等式で表される立体の体積	記述	★★★★☆

22年度以降、全問が論述形式となり、21年度以前と比較して難度が非常に上がっている。しっかりと考えて取り組みたい問題が並んでおり、計算量も多く、完答するには難しい。複数の解法を使い分けられる力と、迅速かつ正確な

計算力が必須。解ける問題を確実に得点していくことが重要だ。典型解法を一通り学習した後、標準レベルの問題集で解答作成の練習をしておくこと。なお、16～22年度までは、領域やグラフを図示する問題が出題されていた。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	記録タイマーを用いた重力加速度の測定	記述	★★★☆☆
2	電磁気	サイクロトロン加速器	記述・描図	★★★☆☆
3	波動	組織ドップラー法	空所補充	★★★★
4	原子	半減期、年代測定	記述	★★★☆☆

大問4題構成。問題集に掲載されているような典型問題はもちろんのこと、例年、医学、工学に関連した内容が出題される(25年度:組織ドップラー法、24年度:電磁血流計の原理など)。これらの問題は、内容自体は高校物理の範囲を逸脱しているが、高校物理を用いて解けるように工夫がなされている。ただし、試験時間内にすべてに

手をつけることは非常に難しいだろう。また、実験データやグラフを読み取る問題が続いており、過去問演習を通じて慣れておきたい。さらに、答えを出すだけではなく、途中の考え方も要求されることが多いので、日頃から正解へのプロセスを簡潔にまとめる習慣をつけておこう。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 標準 前年との難易度比較 ↓ やや易化 時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	無機、有機	ガラスの構造、合金の組成、金属の性質、銀鏡反応、合成樹脂	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	理論	窒素酸化物の化学平衡・反応速度	選択・記述	★★★★
3	無機	金属の性質、生成物の反応性と特定、電気分解	記述	★★★☆☆
4	有機	アミノ酸・ペプチドの呈色反応、立体構造、等電点、陽イオン交換樹脂	選択・記述	★★★☆☆

大問4題。大問1は鉄をテーマとした分野をまたぐ総合問題。大問2の窒素酸化物の会合や分解反応の問題で計算力が必要だった。大問3・4は完答を狙いたい内容。記述式のため、有効数字や単位の記載に気をつけよう。25年度から本学Webサイトに丁寧な「出題意図」があり、

作成者が求めている言葉を忘れないようにしよう。その上で前期・後期の過去問を解くと気づくことが多いだろう。また、常に身の回りにある物質に探究心を持つことも大切だ。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

関西医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

まず本学は形式の変更があるため注意しておきたい。1,000語程度の読解と英作文の演習が対策としては欠かせない。読解は『やっておきたい英語長文700・1,000』を利用して内容理解中心に演習する。その際には段落要約が欠かせない。今年度から出題された10語程度の英語の空所補充は、獨協医科大学や愛知医科大学などの過去問で練習しておく。大問2の記述は昨年同様本文から抜き出す形式であったが、一昨年の様に自分で英語を書かなくてはならないこともあるため、内容説明を英語で書いてみるなどの工夫ができたならよい。英作文は『Z会 英作文のトレーニング必修編・自由英作文編』を使って英語での表現力を高めておく。最後に今年度と昨年度の過去問は必ず解いておく。出題形式が変わっても、長文の内容理解と英作文を中心に学習すれば対応できるはずである。

【数学】

まずは『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で定型的な問題の解法を身に付ける。その上で、『プラチカ』などの標準的な国公立大学用の問題集などで、複数の分野にまたがった総合的な問題の演習をするとよいだろう。ハイレベルな理工系学部の過去問で難易度の高い誘導形式の問題演習に取り組むのもよい。2023年度の出題はなかったが、2016年から2022年まで領域やグラフを図示させる問題が出題されているので演習はしっかり積んでおきたい。

【化学】

記述形式。計算問題が頻出である。『エクセル化学〔総合版〕』『化学重要問題集』などで計算力を鍛えておこう。『化学の新研究』や教科書にある発展的内容に取り組み、問題集で扱われていない反応過程や現象、日常や生命に関連する化学物質をしっかりと覚えよう。大学HPで問題とあわせて模範解答や出題意図がいち早く公開されているので参考にしておこう。前期・後期の過去問や近畿圏の私大医学部の過去問の演習に取り組むとよい。

【物理】

2025年度は、例年に比べ難易度が下がった。しかしながら、これまでの入試の難易度を考えると油断はできない。2024年度以前の難易度が高い問題、具体的には、医学・工学系の見慣れない問題を一度解いてみて、どの程度の難易度であるかを確認しておきたい。もし、解説を見ても解けないようであれば、そのような問題はそもそもほとんどの受験生が解けない問題であるから、本番では「捨て問」扱いしてよい。しかしながら、それ以外の典型問題の正答率にはこだわってもらいたい。合否のカギは、典型問題の正答率が握っている。入試本番では、見たことないような問題は後に回し、問題集で見たことのあるような典型問題から丁寧に解答していくといいだろう。また、データの読み取りには時間がかかるため、この手の問題も後に回した方がいいだろう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力をつけること。15年度以降、大問1は小問集合である。「すべて選べ」の形式が多く、正確な知識が必要となる、本学の過去問はもちろん、兵庫医科大学の大問1も同様の形式なので取り組んでおくとうい。頻出である計算問題の対策もしておこう。

近畿大学

2025年度 入試分析

英語(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
A~C	語彙	—	空所補充・同意語選択	選択	★★★☆☆
D・E	読解	社会系 約350語	「ディープ・フェイクの活用法」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
F・G	読解	人文・科学系 約350語	「広い観点を発展させる拡張的進化統合」についての長文問題(同意語選択・内容一致)	選択	★★★☆☆
H	読解	人文・社会系 約850語	「宇宙太陽光発電所の可能性」についての長文問題(内容一致)	選択	★★★☆☆

3種類の語彙問題と3題の読解問題からなる形式に変化はないが、全体の難易度はやや易化した。語彙問題は、24年度より選択肢の単語や熟語が易しくなった。読解問題は語彙も内容もレベルは高いが、選択肢が比較的吟味しやすく正解を導き出すのはそれほど困難ではない。しか

し、一般的な問題集に見られる英文よりはレベルが高いので、市販の問題集で土台を作り、英字新聞や雑誌などを読み、段落要約を意識して学習する必要がある。全体の難易度レベルが高いため、語彙力を上げることが必須。

数学(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	対数関数	II 最大、整数となる条件	空所補充	★★★☆☆
2	確率	A 硬貨の表の回数、表が連続する・しない確率	空所補充	★★★☆☆
3	空間ベクトル	C 球面と平面の交点上の点で定められる三角形の面積の最小	空所補充	★★★☆☆

24年度以降、他学部と共通のマーク式。出題範囲は数学Ⅰ・A・Ⅱ・B(数列)・C(ベクトル)。例年は、難問は見当たらず基本的な問題が多いが、文字に関する計算力、場合分け、空間図形の把握などが要求されることも多く、十分な考察が必要だ。25年度は、大問前半と後半の難

度の差が大きい出題だった。前半は確実に得点し、後半をどこまで解けるかが勝負。手間がかかる問題が多く、60分という試験時間ではかなり厳しいだろう。形式、難度がほぼ同じなので、推薦入試の問題も練習に使える。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、無機	鉄(II)イオンの反応、電離平衡、溶解度積、溶存酸素量(DO)	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	理論、有機	気体の性質(体積一定・可変)、アセチレンの反応、燃焼エンタルピー	記述	★★★☆☆
3	有機	芳香族化合物の構造決定、PET、化学実験の注意事項	選択・記述	★★★☆☆

大問3題。従来同様、大問1は、異なる3つの内容。大問2は、アセチレンの反応やエンタルピーを含む気体の計算で時間がかかった。大問3は、構造決定で試薬の扱い方も出題された。例年、導出の記述や計算量が多めの問題が出題される。ハイレベル寄りの演習や分子量の把握

が有効だ。前期と併せて推薦入試や一般入試(後期)の過去問に取り組んでおこう。メディカルラボの実力判定テスト(24年度実施分にDOの類題→25年度前期・後期の両方で出題)を活用するとよい。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	体内環境の維持	生物基礎 ホルモン	空所補充・記述	★★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 呼吸、発酵	空所補充・記述	★★★☆☆
3	遺伝情報の発現と発生	生物 遺伝	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。論述問題の解答が書きにくいので、時間的な余裕はあまりない。様々な字数指定の論述問題が大問ごとに複数含まれる場合が多い。生物用語や現象を説明できるように、日頃から練習

をしておく。25年度は出題されなかったが、描図問題の出題が頻出だ。日頃から教科書の図を意識して見る習慣をつけておく。推薦入試の問題も一般入試と似た形式なので、過去問演習では両方とも取り組んでおくとうい。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	弾性体で作られた円柱状の薄膜の振動	空所補充	★★★★☆
2	電磁気	質量分析器	空所補充・選択	★★★★☆

23年度までは大問3題だったが、24年度より大問2題となり、各大問が複数の中間で構成される。どの問題も受験生にとっては目新しい題材で、問題のテーマや作問者の意図などをつかむのに非常に時間がかかる。そのため、正答率はかなり低くなることが予想され、5割の正答率でも十分だろう。以前はそれほど難度は高くなかったが、24年度を境に急激に難化した。過去問演習の際には、24

年度以降の入試問題を用いて対策を練っておきたい。具体的には、各中間の前半は手がつけられる問題で作られているため、問題文を丁寧に読み、時間をかけてじっくりと取り組んでもらいたい。後半の難度が高い問題は、もし時間が余れば取り組みばよい。それくらいの割り切りが必要な難しさだ。

近畿大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

近畿大学医学部入試問題の特徴としてまず挙げられるのは、語彙レベルの高さである。そのため『ターゲット1900』のような一般的な単語帳だけではなく、英検準1級や1級対策の単語帳も覚えておくべきである。今年度の大問1の語彙問題（短文空所補充・同意語選択・中文空所補充）は、『ターゲット1900』でも対応できるレベルであったが、難化する可能性もある。読解問題では難解な内容の英文が出題されるが、選択肢は易しいので、消去法を利用して解答することで、正解率を上げることができる。対策としては市販の問題集より語彙・内容共に高いレベルにあるため、『やっておきたい英語長文300・500・700』で読解の土台を築いたあと、英字新聞や雑誌を読み、段落要約の練習をするとよい。ラボ生なら読解のチェックテストのスタンダードやハイレベルでも英字新聞やサイエンティフィック・アメリカンのような英文雑誌から引用した英文を多く扱っているのので、これを利用することもできる。その際に知らない単語や表現をしっかりとノートに記し、積極的に覚えるようにするとよい。

【数学】

60分で大問3で手間のかかる問題も多いため、瞬時に解法が浮かぶようになるまで『チャート』などの標準的な参考書を繰り返し学習し、その上で、誘導形式の問題を数多く演習しておくことよい。複雑な場合分けや、場合の数の数え上げなどをテキパキこなして正解を出す練習を重ねておきたい。また、短時間に集中して解くことにも慣れておくことも重要である。

【化学】

記述形式。『エクセル化学〔総合版〕』で各分野をマスターしておく。計算過程を記述する問題があるので、そのスキルを上げておく。新規性のある設問も含まれることがある。良問揃いの過去問(推薦・前期・後期(17年度以降))で演習を積んでおこう。とくに高分子は計算対策をしておこう。25年度『私立医学部大学別実力判定テスト近畿大学』の「溶存酸素量(DO)」は同年度の前期・後期で出題があった(24年度の同テストの「ハロゲン」も24年度前期、25年度後期で出題)。

【物理】

問題集などで見かけないテーマが扱われ、また難易度が非常に高いので、似たような問題を探して対策をとることはあまり意味はない。このような問題の対策は、やはり典型問題をしっかりと解き込むことである。本学の物理入試は、見た目で3割くらい正答していれば、十分に合格点にのると考えられる（見た目の正答率と配点はおそらく一致していない、つまり見た目で3割正答できていれば、得点率は6～7割あると推察される）。よって、過去問演習時に、難しい問題はそもそも手は付けず、各中間の前半を確実に正答できるようにしておきたい。そのためには、クセのある問題を数多く解くのではなく、オーソドックスな問題を解ききる力が必要である。難易度が高いからといって焦ることなく、各中間の前半を丁寧に仕上げてもらいたい。

【生物】

まずは『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力を身につけよう。「免疫」や「動物の反応」などの人体に関わりが深い分野では、細かい知識を問われる場合もあるので、資料集などを使い深く広い学習をしておくこと。字数制限のある論述問題が頻出で、ここが合否を分ける。そのため、『記述・論述問題の完全対策』などで演習し、十分な対策をしておこう。また、推薦入試と一般入試に問題レベルの差はほとんどなく、形式も似ているため、特に長文の論述対策として過去問演習でどちらにも取り組んでもらいたい。

兵庫医科大学

2025年度 入試分析

英語 (A方式)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 題数	内容	出題形式	難易度
1	読解	科学系 約900語	「AIでは取って代わることができない仕事」についての長文問題 (語句整序・指示語指摘・同意語選択)	記述	★★★☆☆
2	読解	医療系 約700語	「昔の四肢切断手術」についての長文問題 (空所補充・指示語指摘・下線部和訳・内容説明)	記述	★★★☆☆
3	読解	社会・科学系 約550語	「光害とそれが及ぼす影響」についての長文問題 (下線部和訳・内容説明)	記述	★★★☆☆
4	英作文	—	和文英訳	記述	★★★☆☆

24年度と同じ出題形式で、読解3題と英作文1題。読解問題では、大問1で語句整序、大問2で空所補充が多く出題されるが、それ以外は下線部和訳・内容説明が中心。大問4は和文英訳で、24年度よりも分量が減少し小問3題に分けられたため、解答しやすくなった。本学の特徴

の1つは記述問題の多さのため、対策として英文解釈と和文英訳の練習は欠かせない。選択形式ではあるが、語句整序と文中空所補充の出題も多いため、これらの対策もしっかりと行うこと。分量は多くないため、スピードよりもじっくりと考える力を養いたい。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	対数関数	Ⅱ 不等式	記述	★★★☆☆
	微分法的应用	Ⅲ 恒等式	記述	★★★☆☆
	場合の数	A 重複組合せ	記述	★★★☆☆
	三角関数	Ⅱ 次数下げ・合成による最大・最小	記述	★★★☆☆
	図形と計量	I 余弦定理	記述	★★★☆☆
2	数列	B 食塩水の濃度に関する漸化式	空所補充・記述	★★★☆☆
3	複素数平面	C 外心、回転角	記述	★★★☆☆

大問1は小問集合で、幅広い範囲から基本的な問題を中心に出題される。大問2・3は誘導形式の大問で、難度にかなりの差があり、知識・経験の有無が左右する問題が多い。典型解法を習得した上で、過去問を解いて本学

の問題に慣れておくとよい。難度の高い問題の対策としては、難関大や国公立大の問題で思考力を養うことが効果的だろう。また、最低限の論述はするように心がけたい。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論、有機	(1)発熱反応による温度上昇 (2)ゴムの付加反応 (3)化学反応による量的関係	記述	★★★☆☆
2	理論	反応速度、活性化エネルギー、ナフタレンのスルホン化のエネルギー解釈	空所補充・選択・記述	★★★★☆
3	有機	環状エステル化合物の構造決定	空所補充・記述	★★★☆☆

大問3題。理論メイン2題、有機1題。大問1は、(2)の単量体の分子量を覚えておくとい。大問2は、アレニウスの式を念頭に置くことで解きやすくなるが、やや難しい設問があった。大問3は、定番の有機化合物だった。差がつく内容があ

るが、解ける設問も多い。例年、大きな解答欄に計算の導出過程や簡潔な論述を記す形式で、本学Webサイトに掲載の過去問と模範解答を参考にしよう。さらに、メディカルラボの実力判定テストで出題傾向と解答形式に慣れておこう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問集合	生物基礎、生物	選択	★★★☆☆
2	生物の進化	生物	進化	空所補充・選択・記述
3	遺伝情報の発現と発生	生物	ウニとカエル	空所補充・選択・記述
4	体内環境の維持	生物基礎	免疫	空所補充・選択・記述
5	体内環境の維持、生命現象と物質	生物基礎、生物	血糖調節、膵タンパク質	空所補充・選択・記述

24年度と同様に大問5題構成の記述式。論述問題は近年、10問程度出題され、字数が指定されるものや解答欄に収まるように答えるものが見られる。大問1は小問集合で、15~20問が多く、25年度は20問だった。

年度によって難度は違うが、ここで時間をかけすぎないように注意したい。また、全体として23年度は手がつけられないほど非常に難度の高い問題が多かったが、24年度で易化し、25年度でもさらに易化した。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	斜面上での小球の円運動	記述	★★★☆☆
2	電磁気	電気抵抗のモデル、半導体	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
3	熱力学	気体の状態変化	記述	★★★☆☆
4	波動	光の屈折、レンズ	記述・描図	★★★☆☆
5	原子	原子核反応	空所補充・記述	★★★☆☆

25年度も、例年通り全分野から出題された。受験生なら一度は見たいことのある問題が大半を占め、一見すると易しく感じるが、ほとんどすべての問題で「導出過程も簡潔にまとめて記し」とあるため、解答に非常に時間がかかる。試験時間と問題数を考えると、時間内にすべての問題に手をつけ解答することは非常に難しい(おそ

らく、試験時間60分ですべての問題に取り組むことは想定されていない)。大問間で難度に差があるため、解きやすい問題をまず見極め、その問題から解答を進めて余った時間で難度の高い問題に取り組むといった戦略をとるべきだろう。また、計算に時間がかかる問題も頻出しているため、時間配分には十分気をつけたい。

『2025年度用全国医学部最新受験情報』より

兵庫医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

90分で大問4題しかなく、内容を問う問題は皆無であるため、速読を意識する必要はない。その代わりに語句整序や単語の空所補充が多く出題されるため、500～700語程度の英文を精読するとよい。近年医療系の英文が出題されるので、医療系単語も学習したほうがよい。英文和訳問題も3題出題されるため、『英文熟考上・下』で文構造を意識して和訳の練習をする。さらに『やっておきたい英語長文300・500』や『1日20分・30分の英語長文』を演習し、復習として全訳をするとよい。空所補充対策としてメディカルラボの読解チェックテストのベーシックBとスタンダードBを演習することを勧める。最後に大問4の和文英訳対策としてZ会の『英作文のトレーニング必修編』の演習は必須である。さらに余裕があれば『英作文のトレーニング実践編』まで演習できるとよいだろう。

【数学】

小集合は基本的な問題が多いため、『チャート』などの標準的な参考書で定型問題に対する解法を習得しておく。2022年[1](5)では、平均値の定義から推察させる問題が出題されており、解法の丸暗記ではなく本質を理解しておく必要がる。大問対策としては『チョイス』や『プラチカ』など標準的な国公立大学の誘導形式の問題演習に取り組んでおく。コロナ以前は非常に難易度の高い問題も出題されていたため、難関国公立大学の問題にも取り組み思考力を養うのがよい。また、2022年度はすべて論述形式であったため、簡潔な答案を作成する練習も必要であろう。

【化学】

記述形式。計算問題の導出過程の解答欄が大きいことが特徴。導出過程は大学HPにある「模範解答例」を参考にしておこう。『化学重要問題集』の解答をわかりやすく迅速に記せるようにする。グラフ作成も頻出なので、過去問で練習を積んでおこう。理論の計算やグラフだけでなく、有機の構造決定も進めておこう。他大学過去問に多く取り組んでおくとよい。『私立医学部大学別実力判定テスト 兵庫医科大学』で解答作成のスキルも鍛えておこう。

【物理】

本学の攻略法は、なんといっても問題の難易度の見極めである。非常に問題数が多いため、あまり時間がかからない軽い問題と、計算や解法分析に時間がかかる重たい問題を、問題を解き始める前にある程度判断し、まずは軽い問題から解いていてもらいたい。軽い問題をほぼ完答できれば、十分に合格点に達する。欲を出して全てを解こうとはせず、軽い問題を丁寧に解いていてもらいたい。

【生物】

まずは『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に速く解く力を身につけよう。09年度以降、大問1は小問集合である。「すべて選べ」の形式が多く、正確な知識が必要となる、本学の過去問はもちろん、関西医科大学の大問1も同様の形式なので取り組んでおくとよい。また、論述問題の出題も多いため、『記述・論述問題の完全対策』などで演習し、十分な対策をしておこう。毎年時間に対する問題の分量が多いので、できるだけ多くの年度の過去問演習を時間を気にしながら行って、感覚をつかんでおきたい。

川崎医科大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の題数 単語数	内容	出題形式	難易度
1	文法	—	空所補充	選択	★★★☆☆
2	読解	人文系 約800語	「連想と行動が相互に及ぼす影響」についての長文問題(内容一致・空所補充・同意表現選択)	選択	★★★☆☆
3	読解	人文・社会系 約500語	「自分のプライドより優先するもの」についての長文問題(同意表現選択・内容一致・空所補充・語句整序)	選択	★★★☆☆

出題形式に変化はない。大問1の文法・語彙問題の中で文法に関するものが半数以上を占めることを考慮すると、文法の基礎力の確立は必須。また熟語や慣用句に関する問もあるので、オールインワン系の問題集を1冊仕上げておく。2題ある読解問題は内容一致中心で、同意表

現や空所補充なども出題される。対策としては市販の問題集で土台を築いた後、過去問で選択肢の吟味の仕方を学習するとよい。読解問題の中の1題は抽象度の高い内容の英文が多いが、本学の選択肢に慣れていれば正解を導き出せるようになる。

生物

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の環境応答、生物の特徴	生物基礎、生物	神経、ゲノム、DNA マイクロアレイ解析	★★★☆☆
2	遺伝情報の発現と発生、生物の環境応答	生物	被子植物の生殖細胞形成、中枢神経系	★★★☆☆
3	体内環境の維持、生態と環境	生物基礎、生物	体液、フィンチの個体数	★★★☆☆

24年度は大問2題構成だったが、25年度は大問3題構成でマーク式。特に関連のない分野の問題を複数集めて1つの大問となっているため、出題される分野が幅広い。また、基本的な知識を問う問題が多いため、苦手な分野を作

らないようにして幅広く正確な知識をつけなければならない。ケアレスミスにも十分気をつけて解く必要がある。データ処理が必要な考察問題もほぼ毎年度出題されているので、過去問で演習しておこう。

数学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	図形と方程式	Ⅱ 線形計画法	空所補充	★★★☆☆
2	微分法の応用、積分法の応用	Ⅲ 法線、面積、定積分で表される関数の最小	空所補充	★★★☆☆
3	複素数平面	C 極形式、距離の最大、反転、三角形の面積の最大	空所補充	★★★☆☆

18年度以降、ほぼ同様の難度で標準的な問題が出題されている。全問に数学Ⅲの内容が含まれる年度もある。典型問題そのままの問題が多い年度もあれば、誘導に従い典型問題の考え方を組み合わせて解く総合的な問題が出題される年度もある。難問ではないが誘導に乗りにくい

ものもあり、高い順応性が要求される。相当量の計算が必要な問題もあり、正確な計算力も求められている。特に、数学Ⅲの微分法・積分法の計算はしっかりと取り組んでおきたい。

物理

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	原子	クオーク	選択	★★★☆☆
2	電磁気、原子	荷電粒子の運動、運動量保存則	選択	★★★☆☆
3	熱力学	ばねつきピストンを用いた気体の状態変化	選択	★★★☆☆
4	波動	薄膜を用いた光の干渉	選択	★★★☆☆
5	原子	半減期	選択	★★★☆☆

例年、大問4題構成だったが、25年度は大問5題。他の医学部と比べると、原子分野からの出題が多く、この分野の学習が手薄だった受験生にとっては難しく感じたかもしれない。しかしながら、全体的にやや易〜標準レベルの問題が大半を占めており、問題の分量がそれほど多くはないため、合格点は非常に高くなるものと考えられる。過去には

高校物理の内容というよりは、「理科」的な要素の強い問題も多く出題されていたが、近年は出題されていない。過去問演習の際に、一度は触れておくといいたい。また、24年度の大問1のように、数学的な解析を必要とする問題も頻出だ。これらの問題は問題集に掲載されていないので、過去問を用いて対策をしておきたい。

化学

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	物質の構成、非共有電子対、実験器具、結晶格子、酸の定義、イオン化傾向、二段滴定	選択	★★★☆☆
2	理論	電気分解、三態、電離平衡、蒸気圧、気体、エンタルピー	選択	★★★☆☆
3	無機、有機	合金、元素の性質、エテンの反応、ハロゲン化銀、構造決定、芳香族の分離、糖類、ナイロン66	空所補充・選択	★★★☆☆

大問3題。大問1は化学基礎7問、大問2は理論6問、大問3は無機3問と有機5問の合計21問で、設問数が減少した。その分だけ解答にやや余裕があった。大問3(4)の写真フィルムの現像過程の問題は複数の設問を含んでい

たが、その他は単問の構成だった。正誤問題で「一つ選択」以外に「すべて選択」形式が多く、精度を求められる。計算問題では各位の数字を直接マークする設問もある。用語の定義、グラフ、大小(強弱)関係、構造式が頻出している。

川崎医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

長文読解での内容把握、長文中空所補充や同意表現で語彙力が必要となるため、『ターゲット1900』を確実に覚える。次に大問1対策として『ネクスト・ステージ』の文法・語法・イディオム・語彙の分野を学習する。読解は『やっておきたい英語長文300・500』と『英語長文出題パターン1・2』を演習する。特に後者では選択式の内容一致問題が多いので、これらを解答する際にただ正解を選ぶだけではなく、誤りの選択肢の理由を考えるとよい。正解の選択肢を見つけることができないときは、誤りの選択肢を見つけて残ったものが正解であると判断できるようになれば、大問2と3の読解問題で出題される内容説明や内容一致のやや難しい問いを消去法で正解できるようになる。最後に過去問で傾向を把握しなくてはならない。例年本学で出題される2題の長文問題のうち1題は抽象的な内容であることが多いが、選択肢の吟味を過去問で慣れておけば、正解率が上がるからである。このような選択肢の特徴に慣れるためにも3年～5年分の過去問を演習することが望ましい。

【数学】

標準的な難易度ではあるが出題分野は年によってばらつきがあるため、『チャート』などの標準的な参考書で基本的な解法はすべて習得しておく。特に、微積分の範囲は比較的得点しやすいので、重点的に練習しておくとういだろう。計算力が必要な問題も多いため、計算練習は欠かせない。本学の過去問に取り組んでおくとうい。誘導形式の問題練習としては獨協大学、杏林大学の過去問で練習するとよい。

【化学】

マーク形式。第1問は化学基礎、第2問・第3問は化学がメインの小問集合。『リードLightノート化学基礎/化学』『化学の新標準演習』を活用するとよい。『チャート式化学基礎・化学』『フォトサイエンス化学図録』を熟読し、化学物質・医薬品・新規性の新素材・ノーベル賞の研究内容などの理解を深めておこう。知識問題を時間短縮できるように過去問やマーク形式の演習も必須である。日本大学、獨協医科大学などの過去問も有効である。

【物理】

基本～標準レベルの問題が中心であるが、年度によっては典型的な問題集には載っていないような、受験生が初めて見る題材が出題されたこともある。このような問題は、比較的誘導が丁寧であるため、過去問を用いて誘導にのって解答する練習をしておきたい。また、2025年度大問1の「クォーク」の問題のように、そもそも知識がないと解けない問題もよく出題される。日ごろの学習の際には、知識の単純暗記についてもめんどくさがらずに行っておこう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりとした基礎力を身につけよう。幅広く正確な知識を身につけることが最も有効である。特別難しくはないが考察問題が毎年のように出題されている。苦手ならば『生物[実験・考察問題]の特別講座』や『生物実験考察入門』などで基本的な実験考察問題の考え方を身につけておこう。

久留米大学

2025年度
入試分析

英語(前期)

解答形式▶記述/マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	語彙	—	空所補充	選択	★★☆☆☆
2	読解	—	不適文削除	選択	★★☆☆☆
3	読解	科学系 約500語	「ベートーベンの音楽的才能を否定する遺伝子検査」についての長文問題(語句整序)	選択	★★☆☆☆
4	読解	社会・医療系 約500語	「女性の更年期障害への対応が遅れている日本」についての長文問題(空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆☆
5	読解	人文・社会系 約750語	「睡眠不足による協力的行動の減少」についての長文問題(要約・空所補充・内容一致)	選択	★★☆☆☆
6-1	英作文	—	「客観視できないギャンブラー」についての和文の英語での要約	記述	★★☆☆☆
6-2	読解	社会系 約50語	「ニュージーランドの国鳥キウィ専門の病院」についての英文の日本語での要約	記述	★★☆☆☆

出題形式は24年度通りだが、やや易化。大問1の空所補充は語彙に関する設問だが、例年より易しかった。大問2の不適文削除は2題のみだが、慣れていないと思ったより時間がかかる。大問3の長文中の語句整序は近年は標準的だが、文構造や語法の知識が必要。

2つの読解問題の英文内容は標準的だが、選択肢が易しいので高得点を狙える。対策としてはまず語彙力を高める。次に段落要約を要約した内容中心の読解を心がける。本学には他大学にはない形式の問題が多いため、最後に過去問演習で形式に慣れておくこと。

数学(前期)

解答形式▶マーク

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	式と証明	II 相加・相乗平均	空所補充	★★☆☆☆
2	空間ベクトル	C 垂線の足	空所補充	★★☆☆☆
3	微分法	II 3次・4次関数の極値、極値を通る放物線	空所補充	★★☆☆☆
4	数列	B 隣接3項間漸化式	空所補充	★★☆☆☆
5	積分法的应用	III 球面の通過部分の体積	空所補充	★★☆☆☆

22年度までは、典型問題や入試問題でよく見かけるだろう問題が多く並んでいたが、23年度以降はそのような問題が見られなくなり、難度が年々上がっている。25年度の大問1は出題ミスによりほぼ解答不可。試験時間を踏まえると、じっくり考えて取り

組む余裕はない。確実に解ける部分を早急に終わらせつつ確実に得点しておきたい。複数の解法を使い分けられる力と、迅速かつ正確な計算力が必要。典型解法を一通り学習した後、標準的な国公立大用の問題集などで演習するとよい。

化学(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問5問(全分野)	単体の融点、元素の特定、高分子、法則名、正塩	選択・記述	★★☆☆☆
2	理論	酸化還元反応、分配係数	選択・記述	★★☆☆☆
3	理論、無機	鉄の総合問題	記述	★★☆☆☆
4	有機	芳香族カルボン酸、合成高分子化合物(PET)	選択・記述	★★☆☆☆

大問4題。大問1は18年度以降、小問5問が続く。大問2・3に論述問題があり、大問2の分配平衡で差がついた。大問3は鉄に関する総合問題で、25年度は愛知医科大学でも出題された。大問4の芳香族は典型問題で、PETの

繰り返し単位の式量192を覚えていたと有利だった。例年、語句、名称、化学反応式、計算、理由説明、構造式などに関する問題が多い。計算結果は有効数字2桁が多い。前期だけでなく同形式の後期の過去問も解いておこう。

生物(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 ↑ 難化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 RT-PCR	選択・記述	★★☆☆☆
2	生物の環境応答	生物 受容器、眼	選択・記述	★★☆☆☆
3	体内環境の維持	生物基礎 ヒトの心臓	記述	★★☆☆☆
4	生物の進化、生命現象と物質	生物 光合成色素と光合成生物	選択・記述	★★☆☆☆

24年度と同様に大問4題構成の記述式。24年度と比較して細かい知識が必要とされたり論述量が増えたりしたため、かなり難化した。論述問題は毎年度出題され、25～100字の間で指定される場合が多い。25年度は25字が2

問、30字が1問、50字が3問の合計6問が出題された。基礎的な知識論述問題から考察問題まで幅広く出題される。限られた字数でコンパクトにまとめる練習をしておく必要がある。

物理(前期)

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	円すい形容器の内面を運動する小球の円運動、面積速度一定則	記述	★★☆☆☆
2	熱力学	熱気球	記述	★★☆☆☆
3	電磁気	内部抵抗のある電池	記述	★★☆☆☆

大問3題構成で、例年、力学・電磁気で各1題、残り1題が波動、熱力学のいずれか。問題はいたって標準的で、本学の入試偏差値を考えると、物理の難度は他大学の医学部と比べても非常に易しい。そのため、年度によっては合格者平均点が約90%の時もあった。ほぼ満点を狙う

つもりで過去問演習等で準備をしておきたい。また、25年度入試には出題されなかったが、過去にはグラフの描画、解法理由の記述、SI国際単位系を用いた単位の記述などの設問が頻出だった。これらの出題についても過去問を用いて触れておきたい。

久留米大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

今年度やや易しくなったとはいえ、本学の入試問題では高い語彙力が問われる傾向がある。そのため語彙力養成が必須。『ターゲット1900』で語彙の土台を形成し、『英検準1級単語・熟語問題』や『出る順パス単英検準1級』で本学の入試に対応できるまで語彙力を高める。読解問題は内容一致中心の出題であるため、『英語長文パターン演習2・3』を段落要約しながら演習する。メディカルラボの生徒なら読解のCTスタンダードAを演習してもよい。大問2の不適文削除は岩手医科大学やセンター試験の過去問で練習しておく。大問3の英文中語句整序は文構造が理解できないと答えが出ないため、『英文熟考上・下（新版）』で文構造を意識して解釈する。さらに語法の知識も必要であり、特に動詞の語法は念入りに学習しておきたい。記述問題は英作文と和訳を土台とした問題であるため、『Z会英作文のトレーニング・必修編』と前述の『英文熟考上・下』を演習してから、本学の過去問に取り組むことが好ましい。

【数学】

まずは『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で定型的な問題の解法を身に付ける。ただし、表面的な解法の丸暗記では通用しないので、解法の本質をしっかりとつかむことが重要である。例えば、誘導がなくてもとけるようにしておきたい。その上で、『プラチカ』などの標準的な国公立大学用の問題集などで、複数の分野にまたがった総合的な問題の演習をするとよいだろう。

【化学】

記述形式。第1問は小問集合。計算問題、理由説明が頻出だが、25年度前期は知識問題のみだった。短めの論述問題があるため、『化学の新標準演習』『エクセル化学〔総合版〕』を取り組んでおこう。大阪医科大学や愛知医科大学の過去問なども有効である。前期・後期の過去問を解いて苦手な項目をリストアップして対処しよう。有機では基本的な反応や性質を習得した上で、糖やアミノ酸・タンパク質、合成高分子に備えよう。

【物理】

対策としては、学校傍用問題集、市販の標準的な問題集で十分である。しかしながら、問題がそれほど難しくはないので、ケアレスミスや問題文の読み違いなどが致命傷となる。過去問演習をする際は、しっかりと時間を測り、もし時間内に解き終えたとしても本番同様、丁寧に見直しをし、ミスを減らす工夫や対策を練っておきたい。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。計算問題と論述問題が合否を分けるので、『大森徹の生物計算・グラフ問題の解法』や『記述・論述問題の完全対策』などを使って対策しておこう。また、100字以内の論述問題には、知識だけでは書けない考察問題が含まれる場合がある。その対策としては、単なる暗記ではなく、普段から様々な生命現象について多方面から考えて理解する学習をすると良い。

産業医科大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文系 約400語	「信じるのがもたらす利益」についての長文問題(空所補充)	記述	★★★☆☆
2	読解	科学系 約750語	「寿命を縮める睡眠不足」についての長文問題(同意語選択・指示語指摘・英文和訳・内容真偽)	記述	★★★☆☆
3	読解	人文・社会系 約800語	「中毒性のあるソーシャルメディア」についての長文問題(文補充・内容説明・英文和訳・内容真偽)	記述	★★★☆☆
4	英作文	—	「故郷の問題とその解決策」についての100語程度の自由英作文	記述	★★★☆☆

空所補充のみの読解問題1題、総合読解問題2題、100語程度の自由英作文からなる出題形式に変化はない。大問2・3の読解問題では記述問題として和訳・内容説明が出題されているが、記述量が減り、同意語選択や空所補充などの選択問題が増加している。大問1の空所補充は、例年より文構造から判断するものが多く注意が必要。

要。同じ傾向が続くかどうかは不明のため、過去問演習で様々なパターンに慣れておく。大問2・3の読解問題は出題傾向が変わりつつあるので、記述対策は国公立大の2次対策問題集を、選択問題対策は他の私立大医学部の過去問を演習する。大問4の自由英作文は、他大学のテーマで100語程度の英文を書く練習をする。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 やや易化

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	数と式	I 単位計算	記述	★★★☆☆
2	複素数と方程式	II 5次方程式	記述	★★★☆☆
	平面ベクトル	C 円の中心と直線上の点の距離の最小	記述	★★★☆☆
	積分法的应用	III 定積分	記述	★★★☆☆
	対数関数	II 累乗数の桁数	記述	★★★☆☆
	数学と人間の活動	A 1次不定方程式	記述	★★★☆☆
	図形の性質	A 等面四面体の体積	記述	★★★☆☆
	積分法的应用	III 回転体の体積の最小	記述	★★★☆☆
	確率	A 正八面体サイコロに関する確率	記述	★★★☆☆
3	三角関数	II 連立方程式	記述	★★★☆☆
	図形の性質	A 2円の共通接線、方べきの定理	記述	★★★☆☆
4	図形と方程式	II 円の中心の軌跡、半径の最小、つねに通る2定点、三角形の面積	記述	★★★☆☆
4	数列、極限	B、III 隣接3項間漸化式、極限	記述	★★★☆☆

大問が4題に戻った。大問1は5年連続で医学を基にして問題が作られており、理科のような単位変換をするのみ。過去問で経験しておく。大問2の小問集合が21~23年度の頃の難度に戻っている。大問3~5は21年度に易化して以降、難度に大きな差はない。過去には離心率やオイラー線などの知識を必

要とする出題もあったため、解ける問題から確実に解く姿勢も大切だ。数学Ⅲは、誘導なしでは難しい問題や計算が面倒な問題も含まれていることも多い。定積分の計算はこれまでよく出題されている。問題演習に取り組み際に計算を工夫したり別解を考えるなどして計算力・思考力を養っておく。とよいだろう。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 易

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	理論	窒素酸化物の化学平衡	選択・記述	★★★☆☆
2	無機	金属イオンの定性分析	記述	★★★☆☆
3	有機	脂環式化合物の構造決定	記述	★★★☆☆

大問3題、2科目で100分。大問2・3の知識問題を解いて、大問1の計算にしっかり取り組みるとよい。25年度も40字の論述が出題された。例年、典型的な内容が多く、計算問題が頻出している。化学反応式、有機化合物の構造決

定も多い。時間的な厳しさは他大学と比べてやや少なめ。構造式や有効数字の指定に注意しておこう。日常に関係する化学物質の対策として、無機・有機化合物の性質と用途の整理、天然・合成高分子化合物の計算演習をしておこう。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ やや難

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生物の環境応答	生物 脊椎動物の神経系	空所補充・選択・記述・描図	★★★☆☆
2	体内環境の維持、生物の環境応答	生物基礎、生物 カルシウムの生理的役割	空所補充・記述	★★★☆☆
3	生命現象と物質	生物 大腸菌と突然変異	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

24年度と同様に大問3題構成の記述式。論述問題が多く、知識論述問題も考察論述問題も出題される。字数制限のない問題が多いため、知識論述問題はポイントを押さえて素早く仕上げ、考察論述問題はしっかりとデータを読み込ん

で丁寧に考えて仕上げていく。また、実験考察問題は典型的ではない問題が出題されることが多いので、本学の過去問や国公立大学の過去問などで与えられたデータや情報を正確に捉える練習をしておく。とよい。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 変化なし

時間に対する分量 多い

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	力学	鉛直面内の円運動	空所補充	★★★☆☆
2	熱力学	様々な熱サイクルに対する熱効率	空所補充	★★★☆☆
3	波動	回折格子	記述	★★★☆☆

例年通り、大問3題構成。25年度は解答形式に大きな変更があり、空所補充形式の出題が大半を占めた。21年度以前の入試では問題の設定が複雑だったり、受験生になじみのないテーマが出題されたりと非常に難度が高かったが、ここ数年は標準

レベルの典型問題が出題されており、難度が落ち着いている。そのため、合格点は非常に高得点となることが予想され、ケアレスミスでの失点は致命的だ。また、試験時間にあまり余裕はないため、解ける問題から確実に点数を稼いでいくこと。

産業医科大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

読解問題と自由英作文のみの出題である。以前は記述問題中心だったが、徐々に選択問題も増えている。まずはターゲット1900を利用して語彙力を高め、『やっておきたい700』『1日40分の英語長文』で入試基礎力を確立する。さらに記述力を高めるため国公立大学2次対策問題集（新こだわって！英語長文読解標準など）を演習するとよい。大問1の空所補充のみの読解問題対策はまず選択式の問題（岩手医科・兵庫医科・浜松医科などの過去問）で慣れる。今年度は文構造の把握が必要な問いが多かったので、『英文熟考上・下』で文構造を意識して解釈をする。重要度が増している選択形式の問題に関しては、空所補充は獨協医科大学の大問2B、同意語選択は自治医科、内容真偽は東海大学の大問1などを利用して練習するとよい。自由英作文は他大学のテーマでも構わないので、『100語程度の英文を書くことに慣れる』をテーマに学習する。語数はここ数年100語程度に固定されているので、型を作っておくと解答時間を削減できる。最後に本学の過去問を3年から5年分演習する。

【数学】

2021年度から出題されている大問1は本大学の過去問を経験しておくことが大切である。小問集合は幅広い分野から出題されているので、『チャート』などの標準的な参考書で定型解法を素早く確実に解けるようになるまで繰り返し練習しておく。本大学の過去問や藤田医科の小問集合に取り組むのもよい。大問は『チョイス』などの標準的な問題集や、標準的な国公立大学の過去問で誘導形式の問題演習をしておこう。計算を工夫したり、複数の解法を考えるなどして思考力を養っておくとよいだろう。分量が多いので、解ける問題を確実に解くことが重要である。

【化学】

記述形式。2科目100分、解きやすい問題が多いが、高分子を含めて計算問題が多い。『化学の新標準演習』などの計算問題に取り組んで解答力を身につけておこう。論述対策として、本学の過去問だけでなく、久留米大学などの簡潔な理由説明を求める問題を活用するとよい。普段から無機分野は化学反応式や各種物質の性質をまとめておこう。有機分野は主要な化合物の分子量や性質、化学反応式を把握しておくことで計算時間の短縮と正確さにつながる。

【物理】

問題の難易度としては「名問の森」程度の標準的な問題集を解き込めば十分である。あとは、難易度が落ち着いた2022年度以降の過去問を用いて、問題を解く順番、誘導にうまく乗るなど、実践的な訓練を積んでもらいたい。

【生物】

『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を仕上げた上で、実験考察問題を中心に『標準問題精講』など発展的な問題集にも取り組むと良い。発展的な知識とプロセス重視の実験問題が頻出するので、普段から様々な実験の結果の意味だけでなく、手続きについてなぜそうするのかや実験の背景なども一緒にまとめておこう。普段から資料集の実験などを自らの手でまとめるなど、書く練習をしておきたい。教科書レベル以上の問題が多く出題されるので、教科書はもちろん、教科書に詳しい説明がないことについても貪欲に調べる姿勢が必要である。

福岡大学

2025年度
入試分析

英語

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↑ やや難化

時間に対する分量 少ない

大問	分野	長文の種類 単語数	内容	出題形式	難易度
1	読解	人文系 約150語	「rationalityとは何か」についての長文問題(英文和訳)	記述	★★★☆☆
2	読解	社会系 約800語	「共同生活が人々を幸福にするわけ」についての長文問題(内容一致)	選択	★★★☆☆
3	文法	—	空所補充	選択	★★★☆☆
4	発音	—	発音・アクセント	選択	★★★☆☆
5	英作文	—	語句整序	選択	★★★☆☆

24年度と出題形式に変化はないが、やや難化。読解よりも文法重視の傾向がある。大問1の仮定法と直訳法を判断して和訳する問題や、大問3の不適切な選択肢を選ぶ問題は、空所補充で正解を得るためだけの文法知識では不十分で、文法書を読んで本質を理解する必要

がある。読解問題は500~700語レベルの標準問題集を学習すれば十分対応できる。発音や語句整序も標準的のため、それぞれに特化した問題集を1冊仕上げればよい。解答時間70分にしては分量が少ないので、ミスなく丁寧に解答する習慣を身につけること。

数学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 ↓ やや易化

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	確率	A 三角形の頂点を移動する動点に関する確率	空所補充	★★★☆☆
	空間ベクトル	C 四面体の辺上の点の位置関係	空所補充	★★★☆☆
	図形と方程式	II 放物線と2直線の交点を頂点とする四角形の面積	空所補充	★★★☆☆
2	数列	B 数列の和	空所補充	★★★☆☆
	データの分析	I 平均値、中央値	空所補充	★★★☆☆
3	微分法の応用、積分法の応用	III 2曲線の共有点における接線、2曲線とy軸で囲まれた部分の面積	記述	★★★☆☆

大問1が3題、大問2が2題で、空所が各2箇所ある小問集合。大問3の計算量が近年に比べると少なめだった。幅広い分野から出題され、整数やデータの分析、複素数平面は頻出だ。例年、難問というほどのものはないが、典型解法にはめるだけというものでもない。しっかりと学習していないと得点しづらい問題

が多い。25年度は大問2の計算量が多く解きづらかっただろう。大問3の記述問題は例年、数学Ⅲの微分法・積分法の問題で基本的な内容が多いが、取り組みにくい関数の出題が増えている。これを丁寧に計算して完答できるかどうか合否を左右する。標準的な問題を確実に素早く解く練習をするとういだろう。

化学

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	小問3問 (理論、有機)	金属イオンの反応、化学平衡、芳香族カルボン酸の製法と反応	選択	★★★☆☆
2	理論	リン酸の中和反応、電離平衡	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
3	理論	物質の三態、気体の性質	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
4	有機	アルケン・アルコールの反応、異性体	空所補充・選択・記述	★★★☆☆

大問4題。他学部共通の記述式だが、選択問題・設問数が多い。大問1は例年同様の分野からなる3問構成、大問2~4は典型問題だが、理論を含む無機や合成高分子化合物の大問がなくなった。例年、どの分野も計算問題

が多め。特に溶液、エンタルピー、高分子の計算に対応できるようにしておこう。解きやすい問題を見出すことが大切だ。過去問やメディカルラボの実力判定テストで出題傾向に慣れておくとよい。

生物

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★☆☆ 標準

前年との難易度比較 → 変化なし

時間に対する分量 適量

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	生命現象と物質	生物 酵素、細胞膜、タンパク質	空所補充・選択・記述	★★★☆☆
2	生命現象と物質	生物 オペロン説	選択・記述	★★★☆☆
3	生物の特徴、生殖と発生	生物基礎、生物 染色体、三毛猫の遺伝	選択・記述	★★★☆☆
4	生命現象と物質、生物の多様性と生態系	生物基礎、生物 光合成、遷移	選択・記述	★★★☆☆

24年度までは大問5題構成だったが、25年度は大問4題構成の記述式。計算問題は24年度の倍近く出題された。問題数の多少はあるものの、ほぼ毎年度、計算問題が出題される。考察問題は24年度と同程度出題された。しか

し、生物用語を問う知識問題が中心となるので、どの分野も満遍なく用語の知識をつけておくことが望ましい。出題形式が似ているので、過去問演習の一環として他学部の問題を解いてみることも有効だ。

物理

解答形式▶記述

問題の全体難易度 ★★★★★ 易

前年との難易度比較 ↓ 易化

時間に対する分量 少ない

大問	分野	内容	出題形式	難易度
1	波動	ドップラー効果	空所補充・選択	★★★☆☆
2	電磁気	磁場中における導体棒の運動(電磁誘導)	空所補充・選択	★★★☆☆
3	力学	小球の放物運動と斜面との衝突	記述	★★★☆☆

大問3題構成で、記述式。例年、力学と電磁気は必ず出題され、残りの1題を波動、または熱力学が占める。基本~標準レベルの典型問題で構成され、試験時間に対する問題数もそれほど多くはないため、合格者の平均点は非常に高く、1つのミスが合否に大きく左右する。過去

問演習を通して、まずは問題の難度を把握し、その上で選択肢の中から正答を探すことに慣れておきたい。また、問題を見直す時間も十分確保できるので、見直しをしっかり行うこと。

福岡大学

2026年度 入試への 対策

【英語】

他の大学と比較して問題量が少ない。形式は全く変わっていない。大問1の下線部和訳の難易度は高くはないが、普段から演習して慣れていないと減点が多くなる。対策として『英文熟考上・下』の演習は必須である。大問2の読解は『英語長文出題パターン演習2・3』を演習すれば、十分対応できる。その際に速読よりも精読を心掛ける。大問3の英文法対策としては、文法書『エバーグリーン』を読んで理解し、準拠版の『文法の基礎力を身につけるトレーニング』で理解度の確認後、『ネクスト・ステージ』を演習する。発音・アクセント対策は『英語発音・アクセントのプラチナルール』を語句整序対策は『良問500整序作文編』をそれぞれ1冊ずつ演習すればよい。

【数学】

幅広い分野から出題されるので『チャート』や『チョイス』などの標準的な参考書や問題集で苦手分野を作らないような演習をしておくことが必要である。例年、[3]は数Ⅲの微積分からの出題であり確実に得点したい所ではあるが、計算力が必要となる傾向にあるので微積分の計算はしっかり練習しておきたい。また、解答スペースが狭いため、必要なことを清書する特訓も重ねておきたい。ケアレスミスがないように、解答を見直習慣をつけておくによだろう。[1]、[2]はそれぞれ1問ずつ難しめの問題が出題されるので、それ以外は確実に得点する。

【化学】

記述形式。第1問は小問3問が定番。それ以降の大問は空所補充に語句を選択する形式が頻出である。『フォトサイエンス化学図録』、『化学の新標準演習』などで実験やグラフのイメージを強化しておこう。標準レベルの問題が多いが、よく出題される計算問題、構造決定や異性体数を迅速に解答することが大切である。また入試ではやや難度の高い問題が合否を左右するので、本学過去問で勝負問題を見極めて、苦手な項目であればマスターしておこう。

【物理】

市販の問題集、学校傍用問題集を解き込めば、本学入試には十分対応できる。まずは、それら問題集をしっかりと解き込み、苦手分野をつくることがないよう全範囲を完成させておきたい。本学入試は、他の医学部と比べても非常に難易度が低く、合格には高得点を獲得しなければならない。しかしながら、多くの単元で苦手分野をつくってしまうと、それが失点につながってしまい、致命傷になりかねない。よって、苦手分野をつくらず、全分野、しっかりと理解しておく必要がある。また、本学の医学部以外の学部入試は、医学部入試に用いられる問題と、レベル、出題形式、難易度がほぼ同じである。よって、医学部以外の学部の入試問題がもし入手できるのであれば、それも対策として用いることができる。余裕があれば、医学部入試の過去問だけではなく、医学部以外の入試問題も活用して演習を行っておくといいだろう。

【生物】

まずは『リードα』や『セミナー』などの教科書傍用問題集レベルの問題集でしっかりと基礎力を身につけよう。その後、『理系標準問題集』や『良問問題集』などの標準的な問題集を使って、典型的な問題を確実に解く力をつけること。過去問については、医学部の問題はもちろんだが、本学の他学部の問題も医学部と似たような出題形式なので、併せて演習することをお勧めする。

問題集・参考書一覧（英語）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

教科・科目	テキスト名	出版社名	難易度	備考
英語	大学受験スーパーゼミ 徹底攻略 入門英文解釈の技術70	桐原書店	易	
英語	やっておきたい英語長文300 改訂版	河合出版	易	
英語	1日20分の英語長文15	河合出版	易	
英語	英語長文出題パターン演習 1	河合出版	易	
英語	新英語長文問題集 New Approach① 400-500 words	河合出版	易	
英語	英単語ターゲット1900 6訂版	旺文社	標準	
英語	総合英語Evergreen	いいずな書店	標準	
英語	総合英語Evergreen 完全準拠文法問題集 文法の基礎力を身につけるトレーニング	いいずな書店	標準	
英語	Next Stage 英文法・語法問題 4th Edition	桐原書店	標準	
英語	英文法・語法問題 GRAMMAR MASTER グラマスター 改訂第2版	Z会	標準	
英語	大学受験スーパーゼミ 全解説 実力判定 英文法ファイナル問題集 標準編	桐原書店	標準	
英語	英文法・語法 良問500+4技能 空所補充編	河合出版	標準	
英語	英文法・語法 良問500+4技能 誤文訂正編	河合出版	標準	
英語	英文法・語法 良問500+4技能 整序英作文編	河合出版	標準	
英語	大学受験のための英文熟考 上 改訂版	旺文社	標準	
英語	やっておきたい英語長文500 改訂版	河合出版	標準	
英語	1日30分の英語長文15	河合出版	標準	
英語	英語長文出題パターン演習 2	河合出版	標準	
英語	新英語長文問題集 New Approach② 500-600 words	河合出版	標準	
英語	大学入試 レベル別 英語長文問題ソリューション 最新テーマ編1 スタンダードレベル	かんき出版	標準	
英語	必修編 英作文のトレーニング	Z会	標準	
英語	改訂版 大学入試 関正生の英語発音・アクセント プラチナルール	KADOKAWA	標準	

問題集・参考書一覧（英語）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

教科・科目	テキスト名	出版社名	難易度	備考
英語	改訂版 鉄緑会 東大英単語熟語 鉄壁	KADOKAWA	難	
英語	英検準1級 できる順パス単 5訂版	旺文社	難	
英語	英検分野別ターゲット 英検準1級 単語・熟語問題 改訂版	旺文社	難	
英語	システム英単語 メディカル 改訂版	駿台文庫	難	
英語	改訂第2版 医歯薬系入試によくでる英単語600	KADOKAWA	難	
英語	大学受験スーパーゼミ 全解説 実力判定 英文法ファイナル問題集 難関大学編	桐原書店	難	
英語	英語整序問題精選600 改訂版	河合出版	難	
英語	大学受験のための英文熟考 下 改訂版	旺文社	難	
英語	やっておきたい英語長文700 改訂版	河合出版	難	
英語	やっておきたい英語長文1000 改訂版	河合出版	難	
英語	1日40分の英語長文10	河合出版	難	
英語	英語長文出題パターン演習 3	河合出版	難	
英語	新英語長文問題集 New Approach③ 600-700 words	河合出版	難	
英語	新英語長文問題集 New Approach④ 700-800 words	河合出版	難	
英語	大学入試 レベル別 英語長文問題ソリューション 最新テーマ編2 ハイレベル	かんき出版	難	
英語	大学入試 レベル別 英語長文問題ソリューション 最新テーマ編3 トップレベル	かんき出版	難	
英語	赤本メディカルシリーズ 私立医大の英語 長文読解編 3訂版	教学社	難	
英語	医学部の英語	旺文社	難	購入不可
英語	実践編 英作文のトレーニング 改訂版	Z会	難	
英語	自由英作文編 英作文のトレーニング 改訂版	Z会	難	

問題集・参考書一覧（数学）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

教科・科目	テキスト名	出版社名	難易度	備考
数学	Z会数学基礎問題集 数学 チェック&リポート 改訂第3版	Z会	易	
数学	新課程 教科書傍用 4STEP 数学	数研出版	標準	学校採用専用
数学	新課程 チャート式 解法と演習 数学 I + A / II + B / III + C (黄チャート)	数研出版	標準	
数学	新課程 チャート式 基礎からの数学 I + A / II + B / III + C (青チャート)	数研出版	標準	
数学	大学への数学 1対1対応の演習 三訂版 数学 I / A / II / B / III / C	東京出版	標準	
数学	チョイス新標準問題集 数学 I・A / II / B / III・C 六訂版	河合出版	標準	
数学	医学部攻略の数学 I・A・II・B 改訂版	河合出版	難	
数学	医学部攻略の数学 III 改訂版	河合出版	難	
数学	スタンダード数学演習	数研出版	難	学校採用専用
数学	入試精選問題集 理系数学の良問プラチカ 四訂版	河合出版	難	
数学	やさしい理系数学 三訂版	河合出版	難	
数学	理系数学 入試の核心 難関大編 改訂版	河合出版	難	

問題集・参考書一覧（化学）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

教科・科目	テキスト名	出版社名	難易度	備考
化学	高校これでわかる化学基礎	文英堂	易	
化学	高校これでわかる基礎問題集 化学基礎	文英堂	易	
化学	高校これでわかる化学	文英堂	易	
化学	高校これでわかる基礎問題集 化学	文英堂	易	
化学	改訂版 リードLightノート化学基礎	数研出版	易	
化学	改訂版 リードLightノート化学	数研出版	易	
化学	マーク式基礎問題集 化学基礎 三訂版	河合出版	易	
化学	マーク式基礎問題集 化学 理論・無機 改訂版	河合出版	易	
化学	マーク式基礎問題集 化学 有機 改訂版	河合出版	易	
化学	エクセル化学総合版 化学基礎+化学	実教出版	標準	
化学	新課程 チャート式 新化学 化学基礎・化学	数研出版	標準	
化学	大学入学共通テスト・理系大学受験 化学の新標準演習 第3版	三省堂	標準	
化学	改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス 化学図録	数研出版	標準	
化学	実戦 化学重要問題集 化学基礎・化学	数研出版	難	
化学	理系大学受験 化学の新研究 第3版	三省堂	難	
化学	理系大学受験 化学の新演習 改訂版	三省堂	難	

問題集・参考書一覧（物理）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

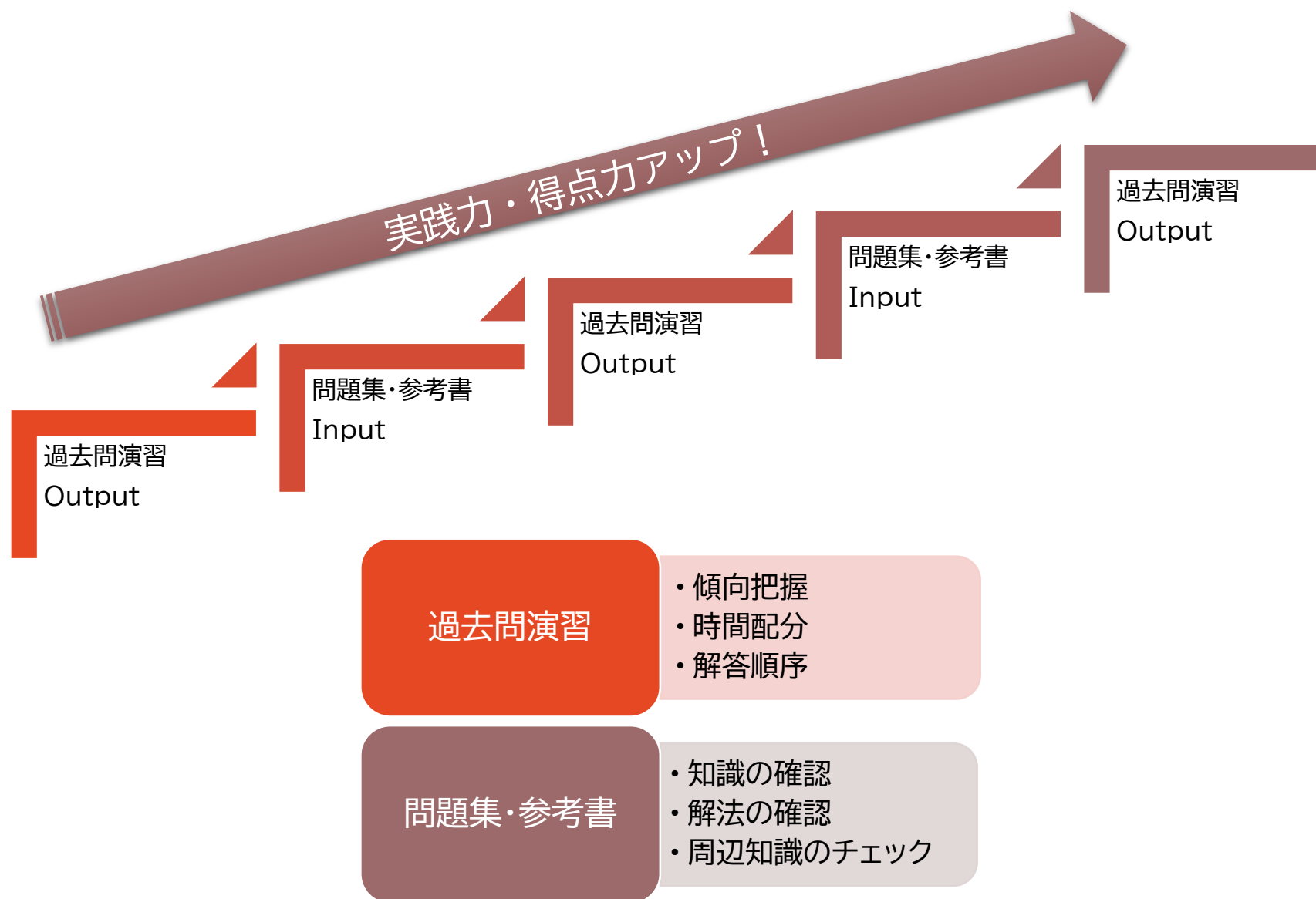
教科・科目	テキスト名	出版社名	難易度	備考
物理	体系物理 第7版	教学社	標準	
物理	物理 基礎問題精講 物理基礎・物理 五訂版	旺文社	標準	
物理	良問の風 物理 頻出・標準入試問題集 三訂版	河合出版	標準	
物理	実戦 物理重要問題集 物理基礎・物理	数研出版	難	
物理	新・物理入門 増補改訂版	駿台文庫	難	
物理	物理 標準問題精講 物理基礎・物理 七訂版	旺文社	難	
物理	名問の森 物理 四訂版	河合出版	難	
物理	理論物理への道標 上／下 三訂版	河合出版	難	

問題集・参考書一覧（生物）

※「学校採用専用」「購入不可」についての入手は、中古等になります。

教科・科目	テキスト名	出版社名	難易度	備考
生物	三訂版 リードα 生物基礎+生物	数研出版	標準	学校採用専用
生物	セミナー生物基礎+生物	第一学習者	標準	学校採用専用
生物	生物の良問問題集 生物基礎・生物 改訂版	旺文社	標準	
生物	大学受験Doシリーズ 大森徹の生物 計算・グラフ問題の解法 四訂版	旺文社	標準	
生物	大学入試 ゼロからはじめる生物計算問題の解き方	KADOKAWA	標準	
生物	理系標準問題集 生物 五訂版	駿台文庫	標準	
生物	医学部の生物 生物基礎・生物	旺文社	難	購入不可
生物	思考力・判断力・表現力を養う 実戦生物 実験・考察問題集	数研出版	難	
生物	生物 記述・論述問題の完全対策 改訂版	駿台文庫	難	
生物	生物 思考力問題精講 生物基礎・生物	旺文社	難	購入不可
生物	生物 実験考察問題入門	駿台文庫	難	購入不可
生物	生物 新・考える問題100選	駿台文庫	難	購入不可
生物	生物 標準問題精講 生物基礎・生物 七訂版	旺文社	難	
生物	大学入試 世界一わかりやすい 生物実験・考察問題の特別講座	KADOKAWA	難	

有効な過去問演習



有効な過去問演習

過去問演習を通して全範囲の知識・技能を総復習！

- ・「過去」問は自分が受験する入試では出題されない
- ・過去問演習を通して、受験校の問題傾向・難易度を把握
- ・時間配分、解答順序、捨て問の見極めなどの実践力を養成
- ・解いた以上の時間をかけて解答解説を確認
- ・使い慣れた問題集に戻って知識・技能のメンテナンス
- ・周辺知識や別解も積極的に習得

医学部合格者からのメッセージ

医学部に合格するために大切なこと

- ① 理想の将来を考えること
- ② 基礎を徹底的に固めること
- ③ 絶対にあきらめないこと
- ④ 自分に合った学習環境の選択

医系専門予備校メディカルラボからのメッセージ

生徒一人の
合格のために組まれた
たったひとつの
オーダーメイドチーム。

メディカルラボの「個別指導」は、
生徒一人ひとりをあらゆる角度から捉えたプロ講師陣が、
専門スキルを持った合格マネージャーを中心に
ワンチームで、オーダーメイドの合格プランを構築します。
だから、合格までのあらゆる課題をまるごとサポートできる。
生徒の強み、弱みと向き合いながら、応えていける。
必要なカリキュラムを確実にやり遂げられる。
メディカルラボの個別指導は「一人」に対する「チーム」の総力で、
医学部合格を実現します。



新規生募集！ 入校キャンペーン

冬期
限定

医学部合格メソッドを体験できる

無料体験入学

11/1(土)~1/18(日)

※期間内のご都合の良い日時で実施できます。 ※校舎によって実施期間が異なります。

先着順・定員制

申込受付中！ 詳細はこちら▶



1対1完全個別

冬期講習 直前対策講習

高卒生・高校生・中学生対象

申込受付中

受講期間

11月17日(月)～





医系専門予備校
メディカルラボ®

私立医学部大学別

実力判定 テスト

自宅
受験

医系専門予備校
合格者数 **No.1**^{※1} の分析力で、
入試問題を徹底的に再現。

※1. 「株式会社東京商工リサーチ」調べ ※2. 医学部・歯学部最終合格者数(2025年4月18日現在)

対象
14
大学

- 岩手医科大学
- 埼玉医科大学
- 杏林大学
- 順天堂大学
- 東京医科大学
- 東京慈恵会医科大学
- 東京女子医科大学
- 北里大学
- 金沢医科大学
- 藤田医科大学
- 近畿大学
- 兵庫医科大学
- 川崎医科大学
- 福岡大学

受験期間

2025年 9/1^月 ~ 2026年 1/29^木

申込受付中・詳細はこちら



大学パンフレットや入試要項をまとめてチェック

好評開催中!

2/1(日)まで

2025年 全国医学部 バーチャル・オープンキャンパス

参加大学50校以上

申込受付中!

お申込みいただいた方限定でページURLを公開!

キミも今すぐ参加しよう!

詳細はこちら▶



医師を目指す君たちへ



人気医療ドラマを多数監修！

新村 核先生

特 別 講 演

オンデマンド会場

東京会場

大阪会場



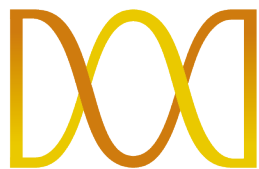
「憧れの「医療の世界」の扉をひらく60分」

医師 新村 核先生

オンデマンド配信 ※録画配信

2025年10月10日（金）～2026年1月31日（土）





河合塾グループ 医系専門予備校

メディカル ラボ®

私立医学部31大学 入試分析会 (一般選抜)

(本資料について)

本資料の著作権は、出典が明記されているものを除き、原則として医系専門予備校メディカルラボに帰属します。
本資料の一部または全部を無断で複写、複製、引用、転載等を行うことを禁止します。